

RIKKYO Fact Book 2026

立教大学ファクトブック
ー 2020 年度 ～ 2025 年度データ ー

教育

Education

研究

Research

学生

Students

社会連携・社会貢献

Social Collaboration and
Social Contributions

国際化

internationalization

入試

Entrance Exams

広報・ブランドイメージ・ランキング

Public Relations, Brand Image, Ranking

校友

Alumni

学校運営

School Management



立教大学



はじめに

「立教大学ファクトブック」は、本学の情報を社会に公開することにより、本学の現状や取組についてご理解を深めていただくことを目的に編纂しております。

冒頭の4～5ページでは、2025年4月から2029年3月までの4年間の大学運営における基本方針となる「大学運営の基本方針」を掲載しています。この「大学運営の基本方針」は、理念と目的を明確にしたうえで、本学の教学の発展に向けた重点政策および、各領域（教育、研究、学生支援、社会連携・貢献、国際化、入試、広報・ブランディング、大学運営基盤）における基本方針を示しています。5ページには、これらの各領域に対応する関連データの掲載ページを案内しております。

なお、本書に収録されているデータは原則2025年度時点のデータを使用しておりますが、一部データにおいて最新年度と異なるデータとなりますことをご了承ください。

また、学生・職員・教員の活動の指針となる「立教大学ヒューマン・ディグニティ宣言」と、日本政府の宣言する2050年までに温室効果ガスの排出を全体としてゼロにする「2050年カーボンニュートラルの実現」に向けて本学が取り組む「立教大学カーボンニュートラル宣言」を以下に掲載いたします。

ご参考までにご覧いただけましたら幸いです。

立教大学ヒューマン・ディグニティ宣言

【1】立教大学は、キリスト教に基づいて人格に陶冶し、人間の尊厳を自覚する教育をおこないます。

立教大学は、個々人の「人格と尊厳」（ディグニティ）が尊重され、それぞれの能力が最大限に発揮されるような自由な学問と教育の場であることをめざしています。人権意識、当事者意識をはぐくむ正課教育・正課外教育を追求します。

【2】立教大学は、みずからの学びと体験を他者に伝達し、他者と共有できる感性と知性をもった人間を育てます。

学びと体験を個人にとどめず、他者に正しく伝達できる「開かれた知性」をもった市民を社会に送り出します。それぞれが自由に触発・交流し合い、他者、とりわけ生きる条件のきびしい他者存在を受け止めて生き合うキャンパスづくりをめざします。

【3】立教大学は、あらゆるキャンパス・ハラスメントに対し、断固たる態度でこれを排除し、防止します。

キャンパス・ハラスメントは、個人の人格的尊厳（ディグニティ）を傷つけ、人権を侵害する行為です。同時に、大学の教育・研究を支える環境を損なう行為でもあります。立教大学は、このような行為を一切許さず、生じさせない環境を保持します。

立教大学カーボンニュートラル宣言

近年、極端な熱波、干ばつ、熱帯低気圧の強大化、豪雨などの異常気象が、世界中の人々の生活に深刻な被害をもたらし、生態系にも大きな影響を与えています、これらの異常気象には地球温暖化が関係していると考えられており、気候変動に関する政府間パネル（IPCC）第6次評価報告書第1作業部会報告書（自然科学的根拠）では、人間の影響が大气、海洋及び陸域を温暖化させてきたことに疑う余地はないとされています。私たちの命の基盤である地球を、持続可能な形で次世代へつなげていくために、私たちはいま何をすべきかが問われています。

立教大学は、「普遍的真理を探究し、この世界や社会のために働く者を生み育てる」というミッションのもと、地球温暖化という全世界共通の課題に取り組むべく、ここに立教大学カーボンニュートラル宣言を発出し、以上の取り組みを進めてまいります。

【1】2030年までに本学キャンパスにおける温室効果ガスの排出を全体としてゼロにすることを目指し立教大学カーボンニュートラル・ロードマップを策定のうえ実行します。

【2】地域の方々をはじめとする様々な関係者と協力し、社会におけるカーボンニュートラルの取り組みに貢献します。

【3】地球環境の現状を理解し、生きる条件のきびしい他者存在に思いを馳せつつ、カーボンニュートラルを含めた持続可能な社会を構築する力のある学生を育てます。

CONTENTS

大学運営の基本方針 4

I 教育

1 教員	 6
2 学生アシスタント	 7
3 カリキュラム	 8
■TOPICS 2002年以降の新設・改組	 9
4 単位修得率	 11
5 博士学位	 11
6 標準就業年限内卒業率	 12
7 図書館	 13
■TOPICS 立教大学の図書館	 17
■TOPICS 環境学部の開設	 18

II 研究

1 研究予算	 19
2 学外研究費	 19
3 論文	 21
■TOPICS 立教大学の研究力	 23
4 知的財産	 23

III 学生

1 学生数	 24
2 学籍	 25
3 奨学金	 27
■TOPICS 立教大学の奨学金	 29
4 課外活動	
■TOPICS 「立教大学箱根駅伝プロジェクト Phase2」事業	 31
5 進路	
■TOPICS キャリアの立教	 35

IV 社会連携・社会貢献

1 ボランティア	36
2 産学連携事業例（受託事業）	 38
3 自治体・企業等との各種協定例	 39
4 社会貢献	
■TOPICS 立教大学の社会連携・社会貢献	 42

立教大学の沿革 62

立教大学ファクトブック2025（概要） 64

V 国際化

1 協定校数	 44
2 送出し・受入れ	 44
3 教員	 45
4 カリキュラム	 46
■TOPICS 立教大学の国際化 ー世界で選ばれる大学へー	 48

VI 入試

1 入試	 50
------	--------------

VII 広報・ブランドイメージ・ランキング

1 広報活動	 52
2 ブランドイメージ・ランキング	 53

VIII 校友

1 卒業生	 54
■TOPICS 立教大学校友会	 55

IX 大学運営

1 教育研究施設	 56
2 立教学院展示館・旧江戸川乱歩邸	 58
■TOPICS 立教学院展示館	 58
■TOPICS 旧江戸川乱歩邸	 59
3 財務	 60
4 専任職員数	 61

大学運営の基本方針

2025 年度～ 2028 年度の 4 年間の方針となる「大学運営の基本方針」を大学機関別認証評価や私立大学ガバナンスコードの内容に留意しつつ、作成しました。この基本方針に基づき、中期計画および単年度事業計画を策定し、これらを一体的に管理・運用することを想定しています。立教大学ファクトブックでは、「大学運営の基本方針」と関連する項目について、過去数年の実績と現状を把握できるデータを揃えました。

 理念・目的 立教大学・未来構想 — RIKKYO VISION — 普遍的なる真理を探究し、 世界、社会、隣人と つながるために <Global Liberal Arts & Sciences> を究める大学への加速	1	創業者チャニング・ムーア・ウィリアムズと「建学の精神」 教育は国家のための道具ではなく、学校も国家に有益な均質の人材を生産する工場ではない。教育とは「ひと」一人ひとりの人格を陶冶し、社会や世界に貢献する尊い働きである。この理念のもと、チャニング・ムーア・ウィリアムズは立教学校を創設しました。立教大学につらなる者たちの「ミッション」とは、神の「呼びかけ」(calling)に応え、自ら学び舎を造り教壇に立つという、余人を以て代え難い務めを、それぞれの時代において再現し続けることなのです。
	2	PRO DEO ET PATRIA –教育理念の再確認 「普遍的なる真理を探究し」(PRO DEO)、「私たちの世界、社会、隣人と具体的につながる」(PRO PATRIA)という教育理念と、「建学の精神」・ミッションを再確認しつつ、時間と空間を超えて、人と人をつなぎ、世界につながる大学であることを未来に向かって宣言していきたくて願います。
	3	立教大学が語る「リベラルアーツ」 立教大学が語るリベラルアーツとは、私たちの学生たちに、夢を語り、ヴィジョンを見させる教育です。本学しか語り得ない、私たちの「ミッション」と直結する「リベラルアーツ教育」を、これからもさらに磨きあげ、日本における高等教育を牽引していきます。
	4	立教大学ヒューマン・ディグニティ宣言 2021 年 4 月に 3 つの「立教大学ヒューマン・ディグニティ宣言」を公表し、学生・教職員にとっての行動規範となり、今後の改革の際にも参照されることを願います。 ※「立教大学ヒューマン・ディグニティ宣言」の内容は、目次の前に掲載しております。
	5	普遍的なる真理を探究し、世界、社会、隣人とつながるために、<Global Liberal Arts & Sciences>を究める大学へ 日本で、さらには世界で輝くオンリーワンの大学となることを目標とし、立教大学が大切にしてきた立教大学が誇るリベラルアーツ教育を高度化しながら、<Global Liberal Arts & Sciences>を究める大学へと進化させていきます。

立教大学は、「立教大学・未来構想——RIKKYO VISION」にもとづいて、普遍的真理を探究し続け、続く時代の、世界、社会に貢献できる人々を生み育てるという使命のために邁進します。「建学の精神」を再確認しつつ、時間と空間を超えて、人と人をつなぎ、世界につながる大学であることを大切にしながら、教える者と学ぶ者、そして、それを助ける者が、真に「誇れる大学」へと不断に変革していきます。

すべての政策推進に対する基本姿勢として、以下の 3 点を重視します。

- (1) 長期スパンから捉えた大学としての形 (figure) の展望を併せ持つ
- (2) 世界、国、地域社会における本学のポジションを明確にする
- (3) デジタルと実空間のベストミックスを追求する

重点政策と基本方針項目

重点政策

■「Rikkyo Learning Style 2.0」への発展

- ・「RIKKYO Learning Style」(RLS)は、学ぶ者が<世界を読み解き>、<世界を変えていく>力を身に着けることができる立教大学ならではの<Global Liberal Arts & Sciences>教育を推進する上で、強力なプラットフォームの役割を担います。
- ・2028年度に「RIKKYO Learning Style 2.0」(RLS2.0)を本格始動いたします。
- ・一人ひとりの学生に、みずからの学びの到達点と、そこに至るプロセスを意識させ、自主的なカスタマイズを可能とする「テーラーメイドの教育」を充実させます。

■<Global Liberal Arts & Sciences>教育のフラッグシップ強化

- ・立教大学はリベラルアーツ教育を<Global Liberal Arts & Sciences>と表現し、総合大学としての性格をより的確に示していきます。
- ・立教大学は、GLAP 及び環境学部を含めると 13 カレッジ (colleges) を擁する 1 つのユニバーシティ (university) となります。
- ・今後は、各カレッジ (学部) が個性・特性を最大限に発揮しつつ、いわば 13 とおりの "arts & sciences" を大学が一体として目指す "global" な展開に導くために必要な制度や仕組みをさらに整えて、<ALL 立教>による改革を進めます。

■地域連携の進化による知的協働の推進と個性的教育研究環境の充実

- ・本学のリベラルアーツ教育の大きな特徴の 1 つとして、社会との繋がりを大切にしてきた点を挙げることができます。
- ・<世界を読み解き><世界を変えていく力>を育むうえで、その重要性は今後さらに高まるといえます。
- ・本学は、地域社会における市民・行政・企業・NPO 等との間に、より創造的な連携体制を構築し、知的協働による価値の創出と、本学ならではの教育研究環境の充実を目指します。

基本方針項目

教学支援

教育発展

- 「Rikkyo Learning Style 2.0」への発展 (重点政策)
- <Global Liberal Arts & Sciences>教育のフラッグシップ強化 (重点政策)
- 大学院教育の充実と発展
- データ活用型の教学支援機能強化と学修成果の可視化
- 一貫連携教育の充実
- リーダースhip教育のさらなる充実
- 大学間連携の強化
- 立教セカンドステージ大学 (RSSC) の展開
- 認証評価への対応

学生支援

- 継続的な学生支援
- 本学の伝統でもある正課外教育の強化
- 奨学金制度のさらなる制度改善及び財源充実
- データ活用を意識したキャリア・就職支援の推進と「キャリアの立教」の強化

大学運営

大学運営基盤の整備

- 機構改革
- キャンパスの発展・整備
- 財政運営
- 情報戦略の推進
- 内部質保証の推進

入試

- 広報戦略とも連動した入試広報活動

広報

- 本学のバリューアップにつながる広報展開

学術支援

研究活動の活性化

- 重点研究領域の形成と研究成果の社会還元
- 国際的な研究史料拠点の整備
- 研究活動の前提条件の整備
- 企業連携等による広範な社会連携等

図書館の研究・教育・学修支援機能の充実

- イノベーションハブとしての図書館

社会連携／社会貢献

- 社会連携／社会貢献の位置づけ
- 全学的な SDG s 推進体制
- 立教セカンドステージ大学 (RSSC) の充実

国際化推進

- 建学以来の伝統に基づいた国際化
- 外国語で学ぶ機会や異文化につながるプログラムの充実
- 国際社会に求められる人々の育成
- ACE プログラム参加大学との継続的な連携
- これまでの知見を活かした国際化を推進するための支援体

学院・事務連携

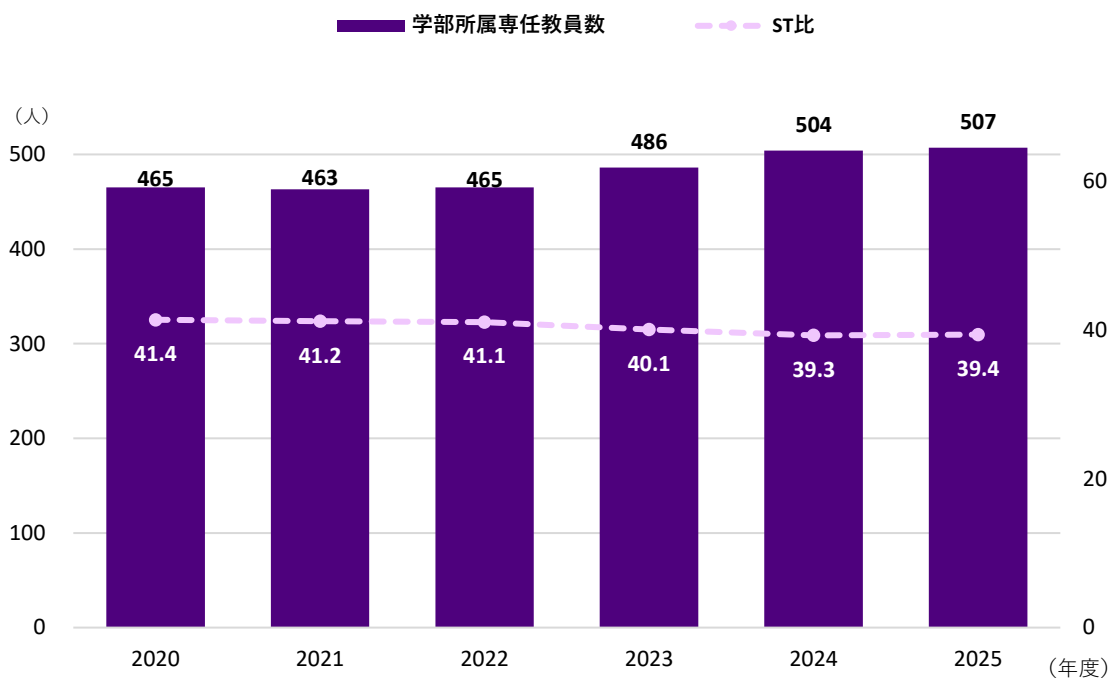
- 改正私立学校法に基づく学校法人運営の参画
- 将来を見据えた学校法人としての価値向上への貢献



I 教育

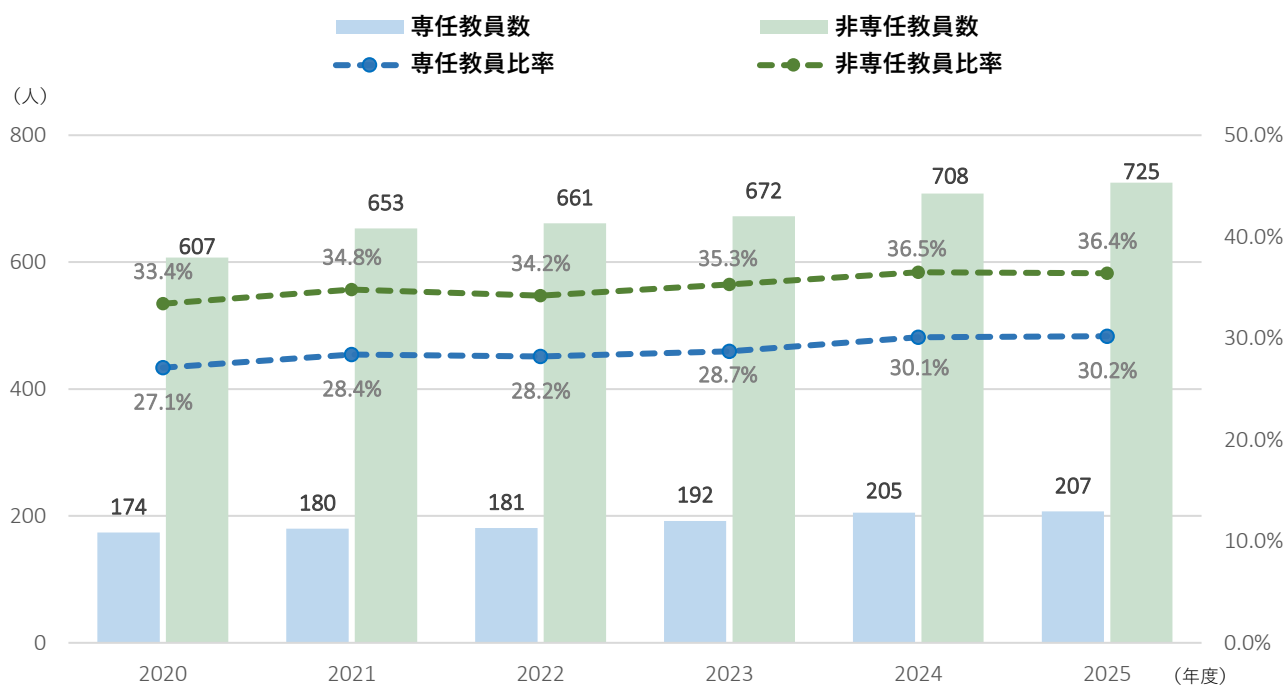
1.教員

学部所属専任教員数・ST比

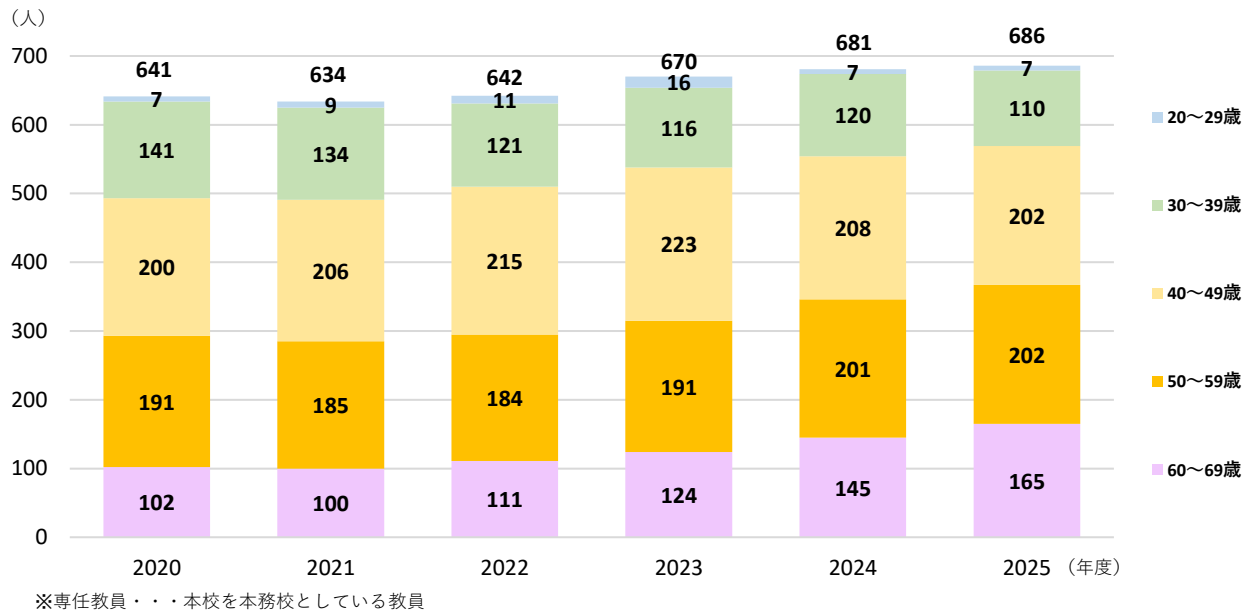


※ST比・・・教員一人あたりの学生数

女性教員比率

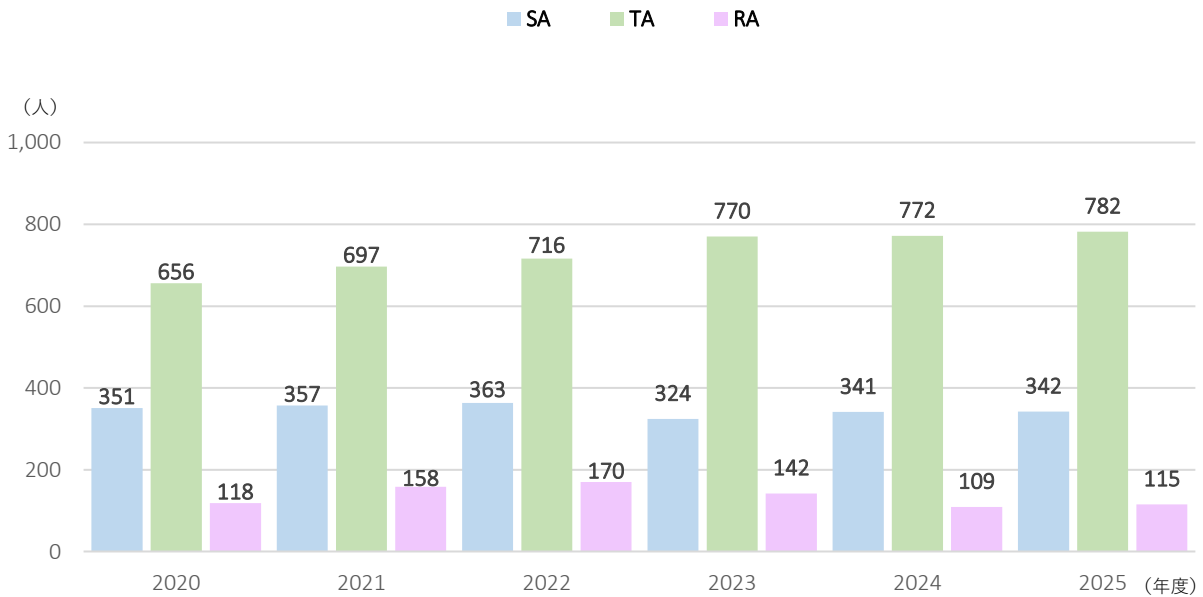


専任教員年齢構成



2.学生アシスタント

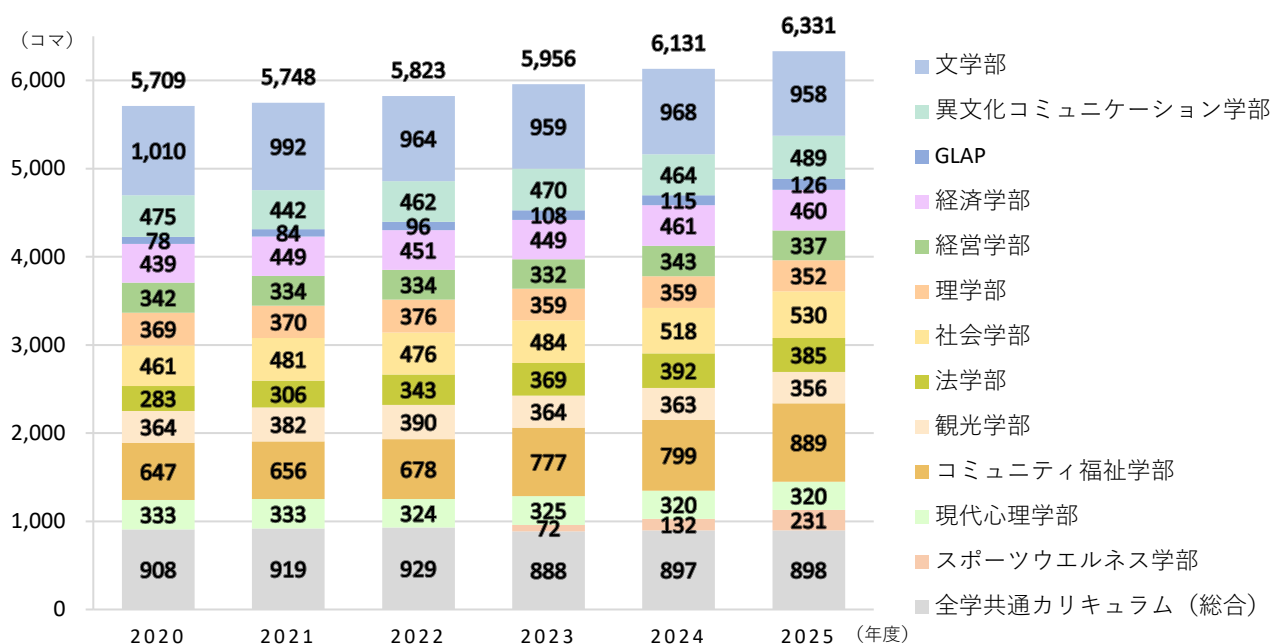
SA・TA・RA人数



SA (Student Assistant) : 教育補助業務を行う学部学生
 TA (Teaching Assistant) : 教育補助業務を行う大学院学生
 RA (Research Assistant) : 研究補助業務を行う大学院学生

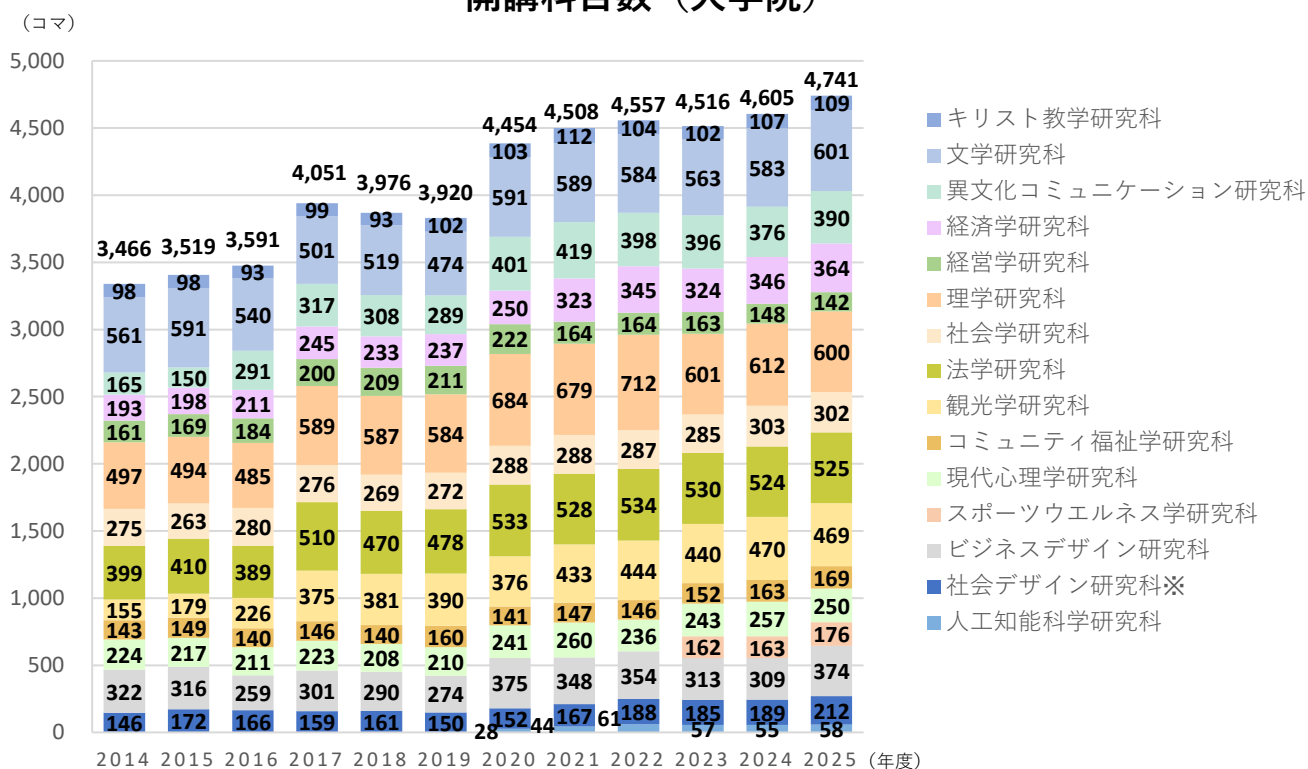
3.カリキュラム

開講科目数（学部）



※全学共通科目には、「言語系科目」と「総合系科目」があり、上記グラフでは「総合系科目」のみ算出しています。
 参考）最新2025年度の「言語系科目」コマ数（延べ数）は、3,098コマで、学部展開コマ数の合計は9,429コマです。

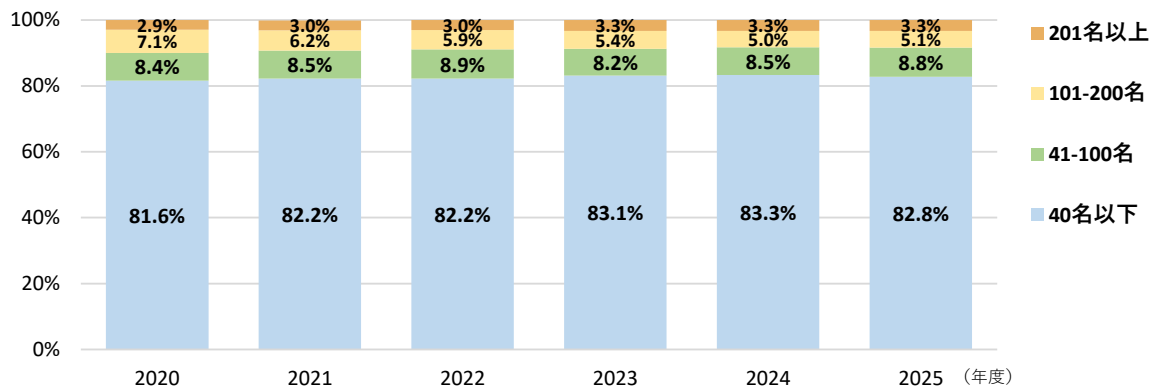
開講科目数（大学院）



※開講科目数の算出方法は、各年度の科目コードごとに集計したものであり、延べ数です。
 （教員毎にコードを振り分けている科目や併置科目であっても科目ごとにそれぞれ1と数えています。）

※21世紀社会デザイン研究科は、2024年4月より「社会デザイン研究科」に名称を変更しました。

開講科目ごとの履修者人数



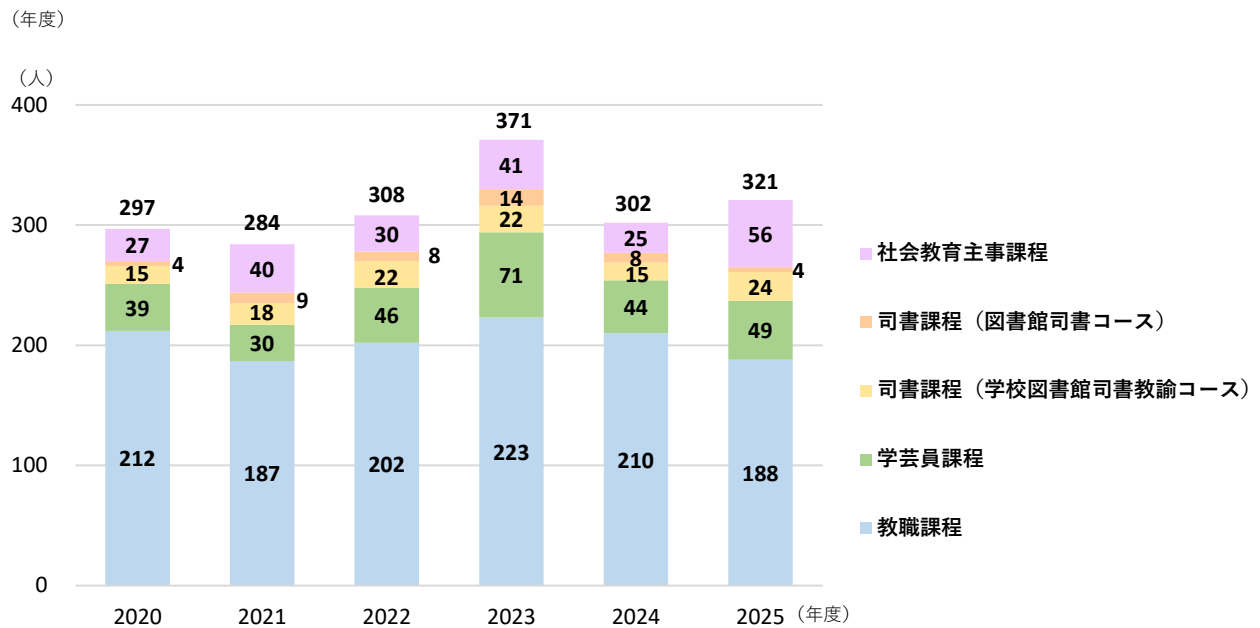
TOPICS

2002年以降の新設・改組

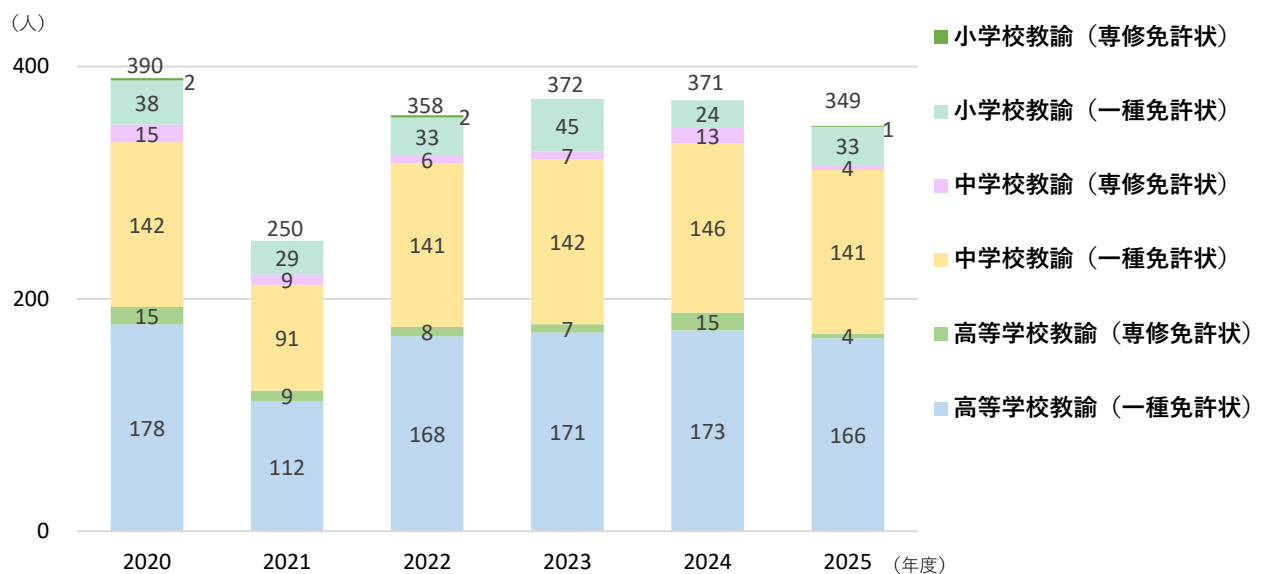
西暦	新設・改組の状況（学部）
2002年	経済学部会計ファイナンス学科を設置
	理学部に生命理学科を設置
	社会学部に現代文化学科を設置
2006年	経営学部（経営学科、国際経営学科）を設置
	現代心理学部（心理学科、映像身体学科）を設置
	文学部をキリスト教学科、文学科、教育学科、史学科に改組
	経済学部経済政策学科、社会学部にメディア社会学科を設置
	観光学部文化交流学科を設置
	コミュニティ福祉学部福祉学科、コミュニティ政策学科を設置
2007年	法学部の国際・比較法学科を国際ビジネス法学科に名称変更
2008年	異文化コミュニケーション学部（異文化コミュニケーション学科）を設置
	コミュニティ福祉学部スポーツウエルネス学科を設置
2017年	グローバル・リベラルアーツ・プログラム（GLAP）を設置
2023年	スポーツウエルネス学部を設置
2026年	環境学部を設置

西暦	新設・改組の状況（大学院）
2002年	ビジネスデザイン研究科、21世紀社会デザイン研究科、異文化コミュニケーション研究科を設置
2004年	専門職大学院法務研究科（法科大学院）を設置
2006年	経営学研究科を設置、現代心理学研究科を設置
2009年	キリスト教学研究科を設置
2020年	人工知能科学研究科を設置、法務研究科を廃止
2023年	スポーツウエルネス学研究科を設置
2024年	21世紀社会デザイン研究科を社会デザイン研究科に名称変更

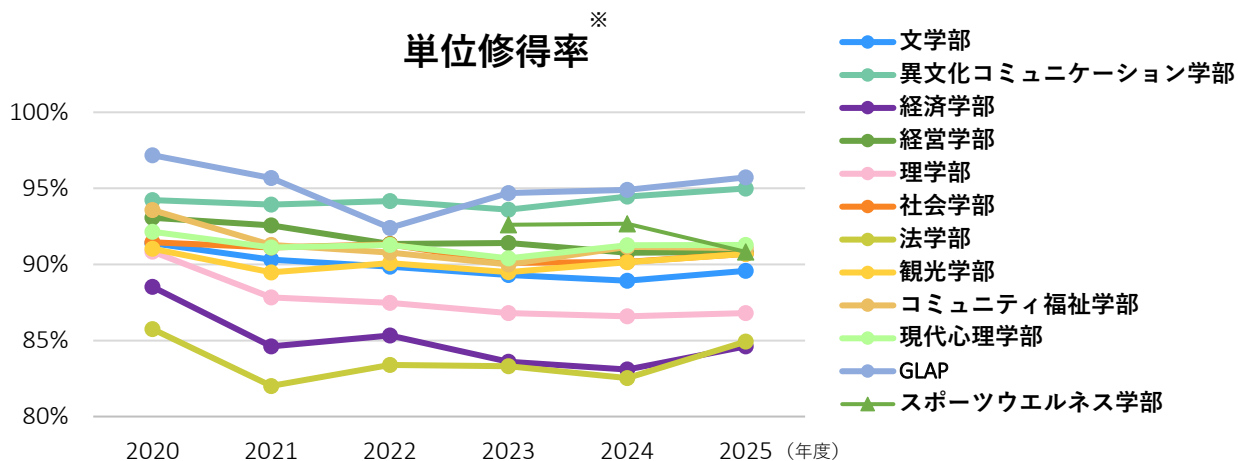
教職・学芸員・図書館司書・社会教育主事課程修了者数



教職員免許状取得者数



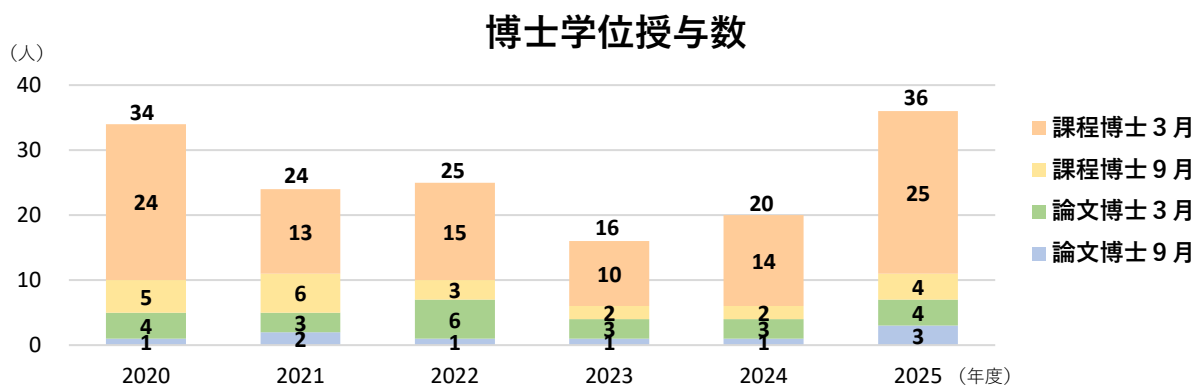
4.単位修得率



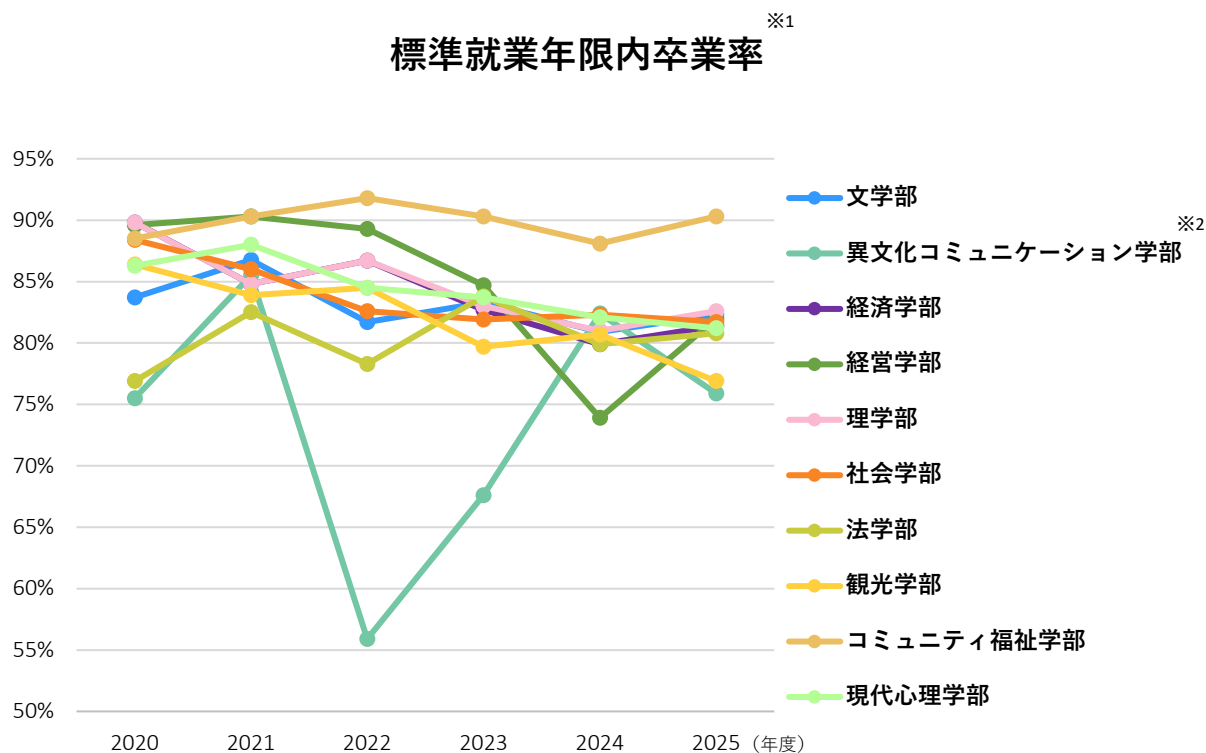
単位修得率（学部別）						
学部	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度
文学部	91.4%	90.3%	89.9%	89.3%	88.9%	89.6%
異文化コミュニケーション学部	94.2%	93.9%	94.2%	93.6%	94.5%	95.0%
経済学部	88.5%	84.6%	85.3%	83.6%	83.1%	84.6%
経営学部	93.1%	92.6%	91.4%	91.4%	90.8%	90.8%
理学部	90.8%	87.8%	87.5%	86.8%	86.6%	86.8%
社会学部	91.5%	91.1%	91.3%	90.1%	90.2%	90.7%
法学部	85.8%	82.0%	83.4%	83.3%	82.5%	84.9%
観光学部	91.0%	89.5%	90.1%	89.5%	90.2%	90.7%
コミュニティ福祉学部	93.6%	91.3%	90.8%	90.0%	91.2%	91.1%
現代心理学部	92.1%	91.1%	91.3%	90.4%	91.3%	91.3%
GLAP	97.2%	95.7%	92.4%	94.7%	94.9%	95.7%
スポーツウェルネス学部				92.60%	92.70%	90.8%

※単位修得率は、「修得単位数÷全単位数（履修中止科目数や、休学・退学等により科目から離れた学生の単位数は含まない）」で算出しています。

5.博士学位



6.標準就業年限内卒業率



※1：1年次から同一学部・学科・専修に在学する者の標準就業年限は4年です。

標準就業年限内卒業率は、「標準就業年限内卒業者÷4月時入学者数（休学者を含む、退学者を除く）」で算出しています。

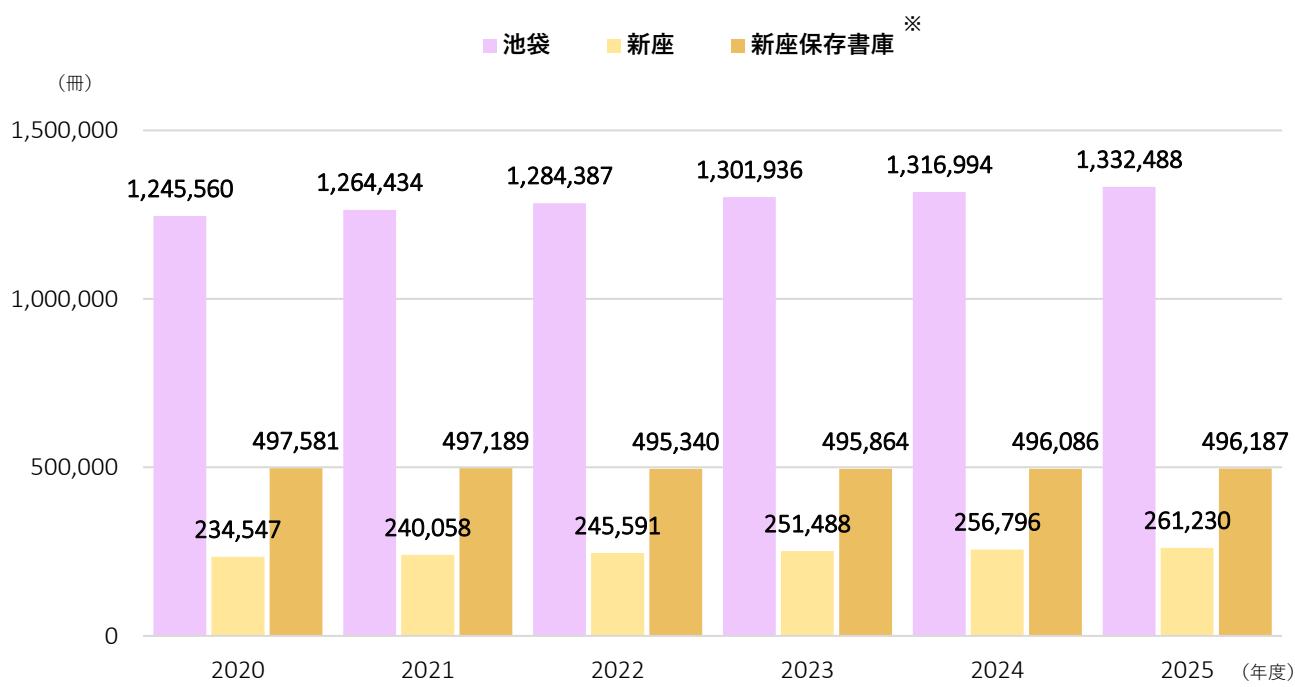
※2：2022年度、2023年度の異文化コミュニケーション学部の標準就業年限内卒業率は、COVID-19による渡航制限後の留学を理由とした休学者・留年者の増加により、過年度より低い数値となっています。

・2019年4月入学者（標準就業年限卒業年：2022年）143名のうち、休学したことのある学生は54名（38%）です。

・2020年4月入学者（標準就業年限卒業年：2023年）148名のうち、休学したことのある学生は39名（26%）です。

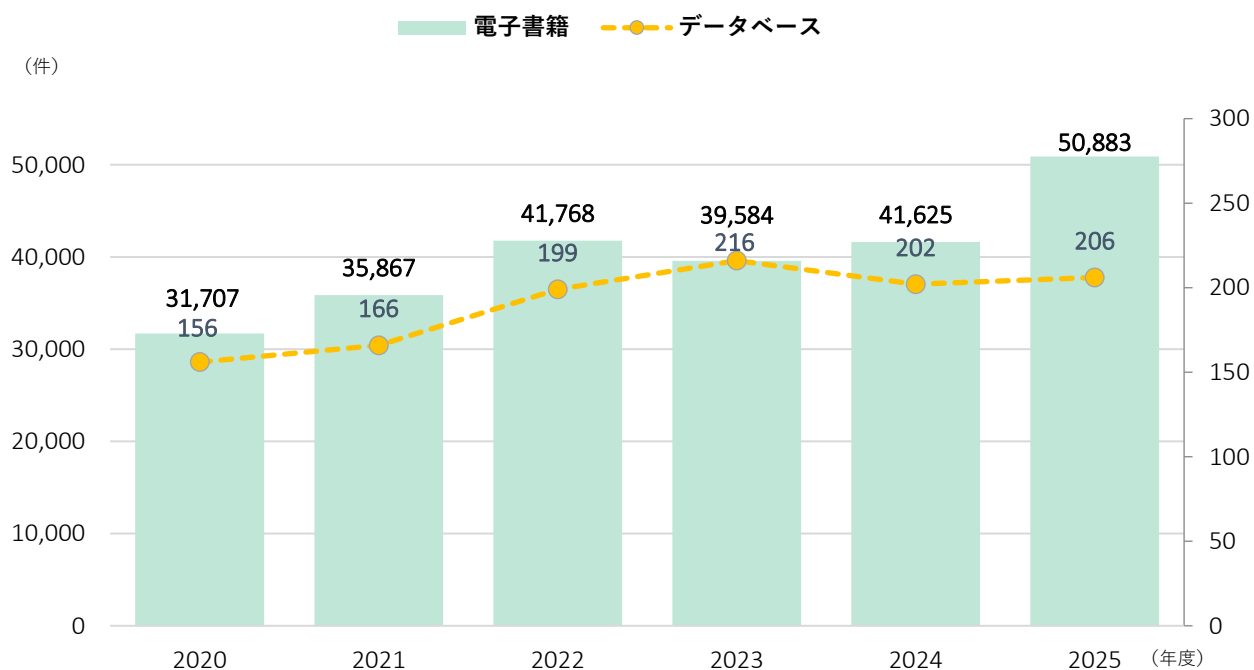
7.図書館

蔵書冊数

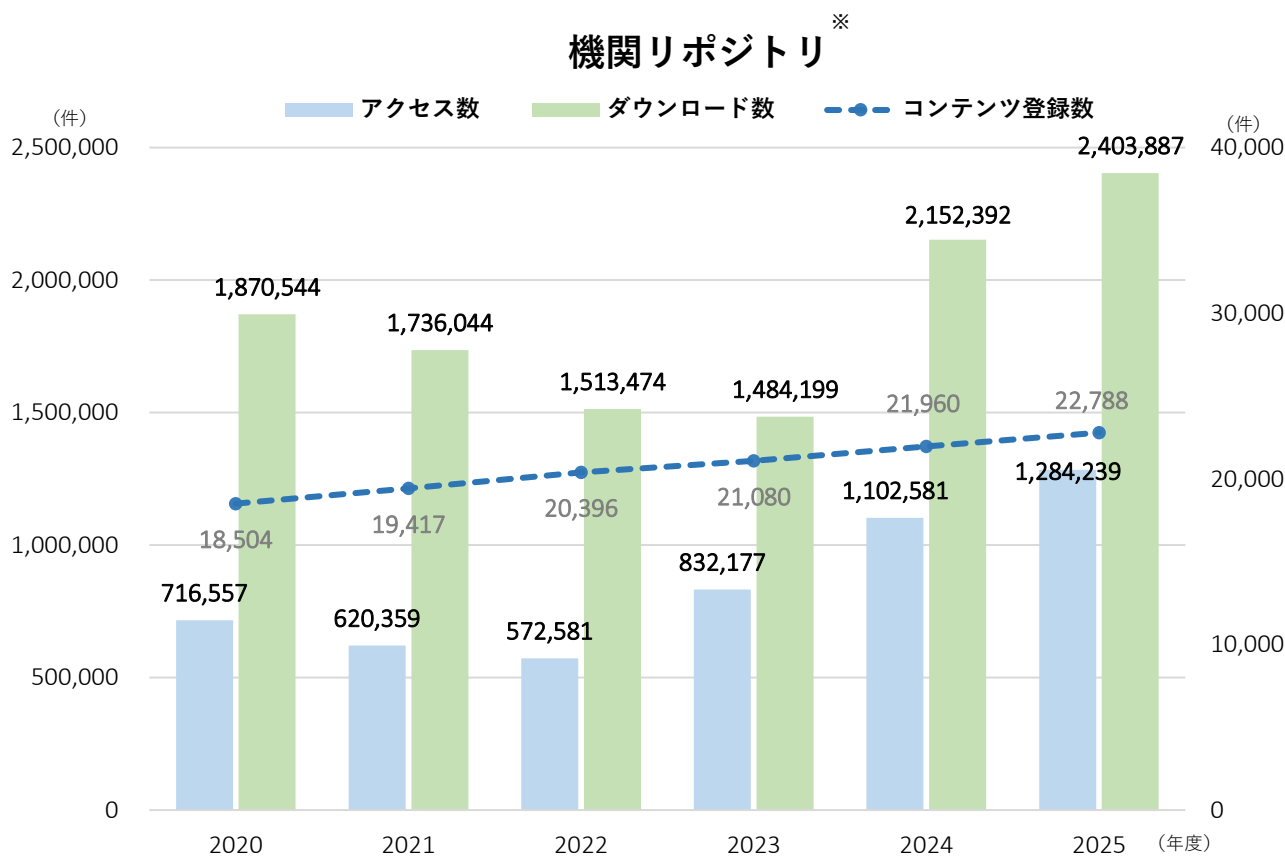
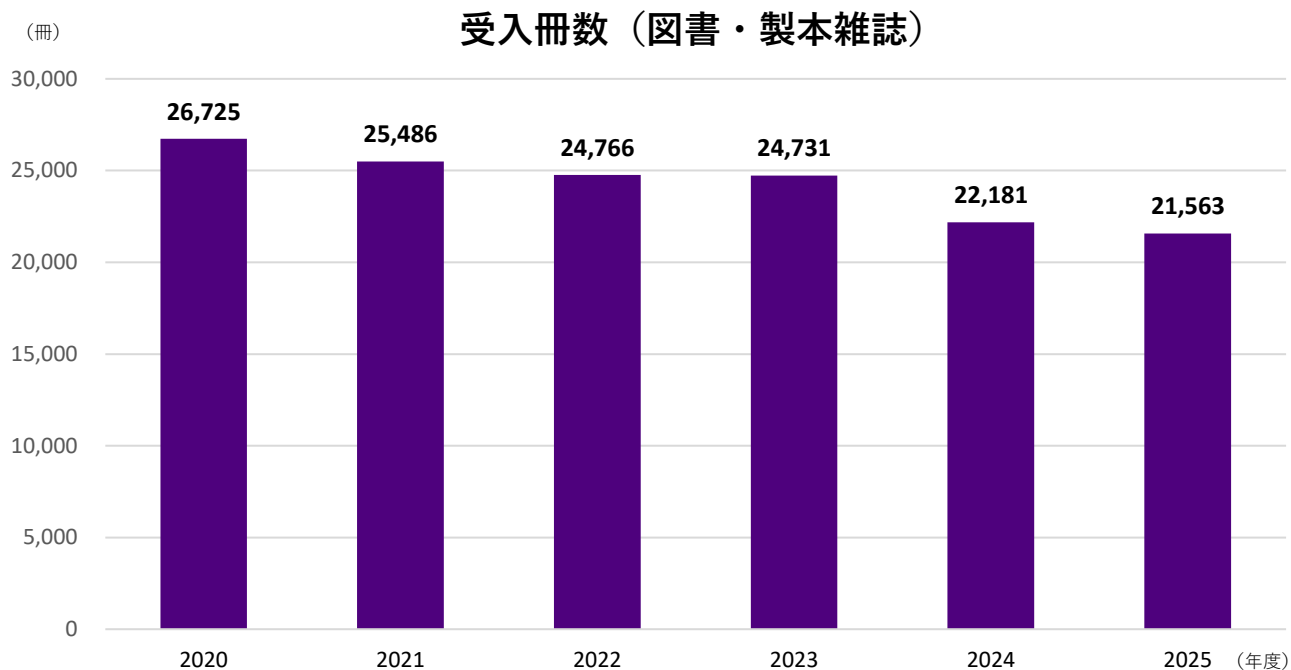


※新座保存書庫・・・資料の保存を目的に建てられた施設。
大学創設当時の貴重な資料や、特別コレクション、刊行年代の古い資料などが所蔵されています。
原則として来館利用はできませんが、一部の資料を除き池袋・新座の各図書館へ取り寄せて利用できます。

電子リソース

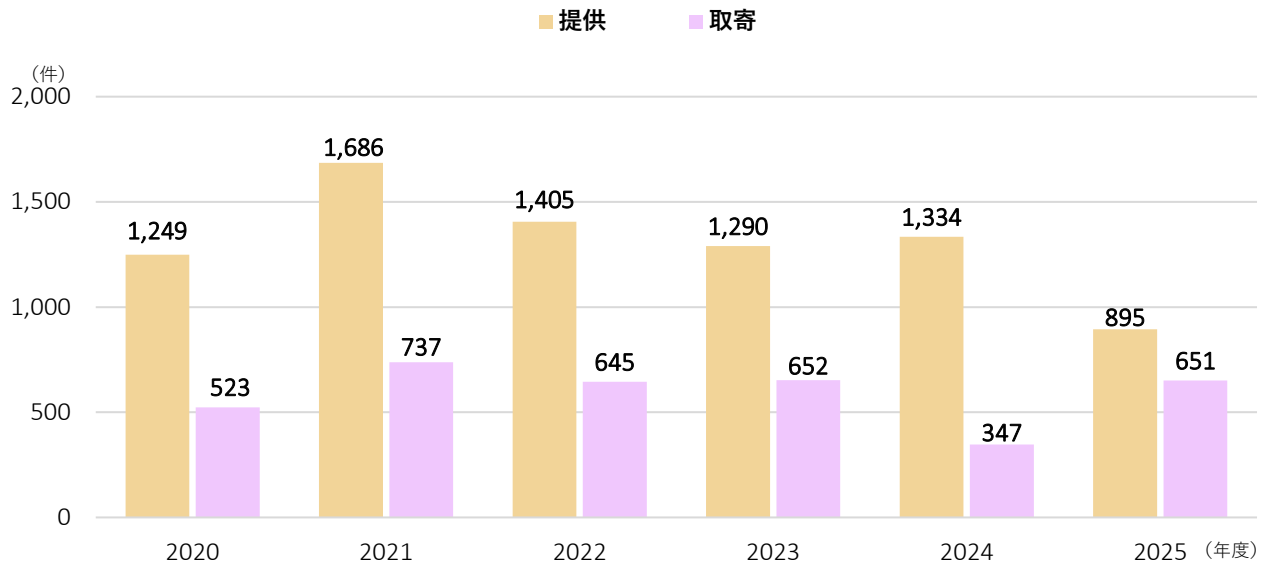


※オープンアクセス化等の変動要素があるため、2024年度からは、電子ジャーナルの件数は掲載しないこととしました。

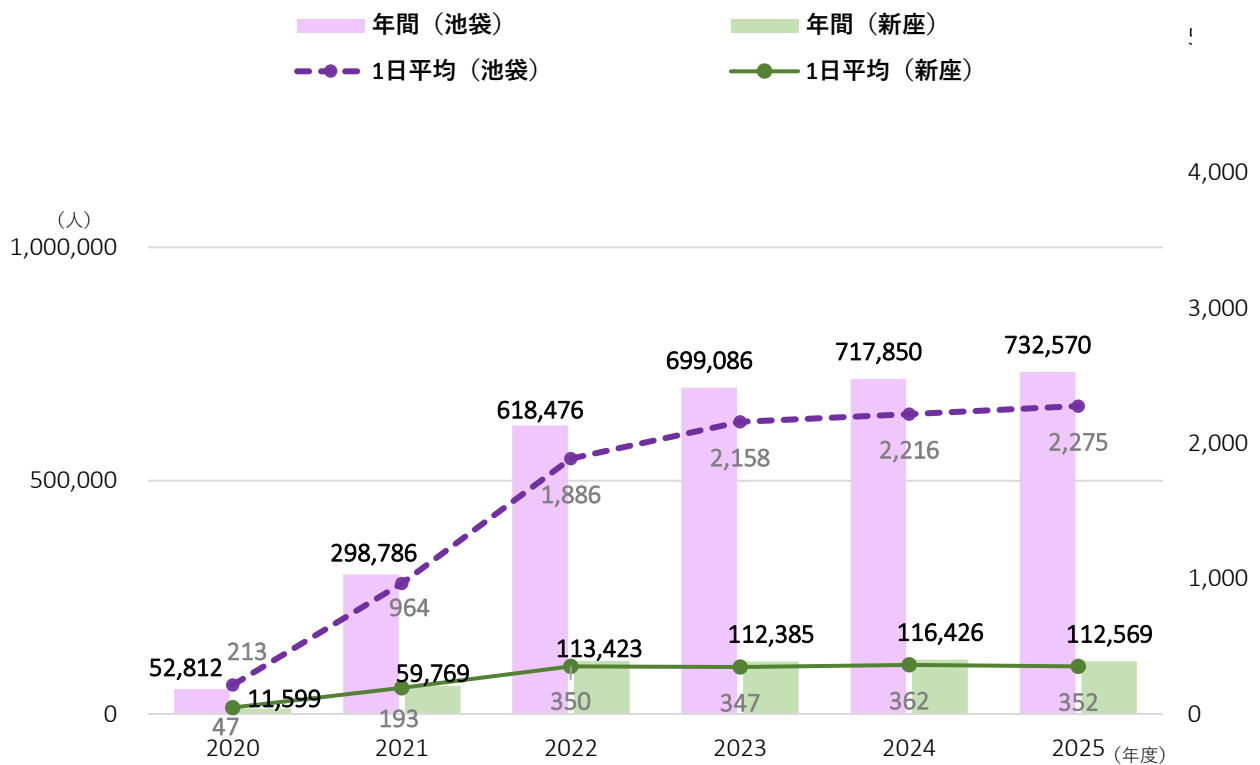


※機関リポジトリ・・・大学や研究機関がその所属研究者の知的生産物（論文等）を電子的形態で集積し保存・公開するために設置する電子アーカイブシステム

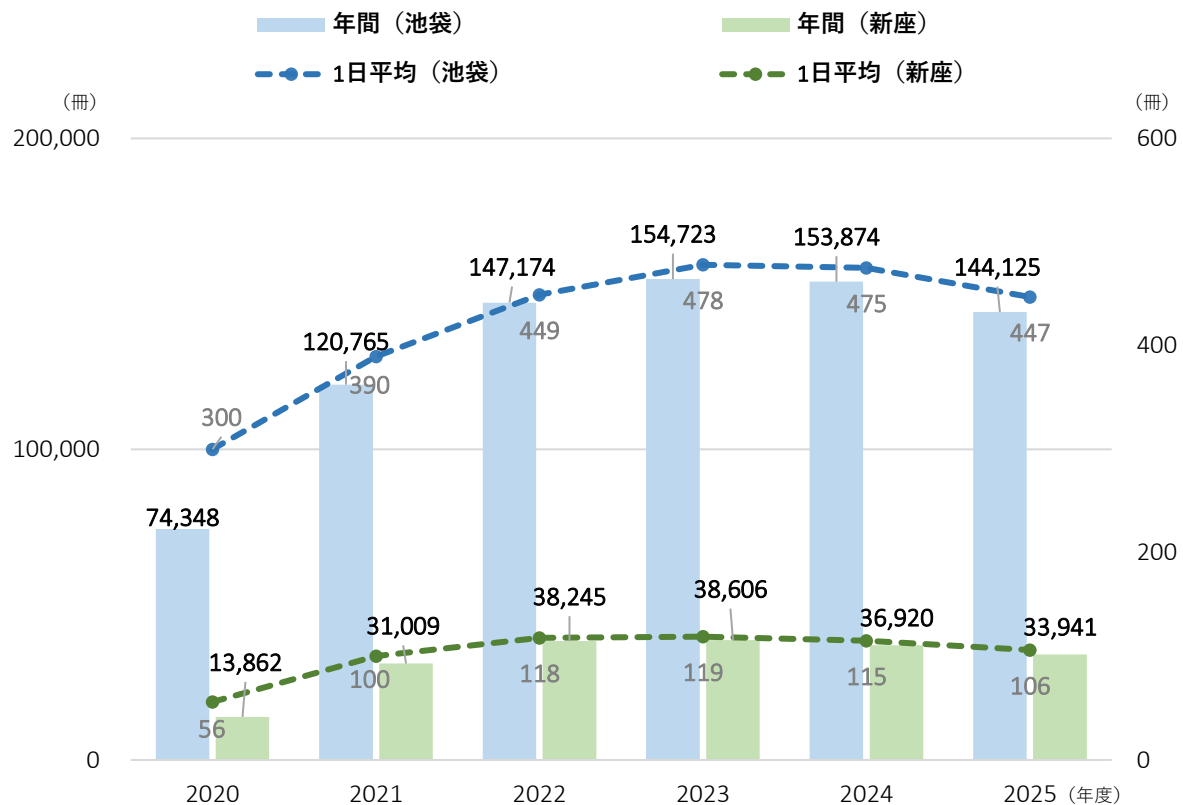
文献複写（提供・取寄）



入館者数（年間・1日平均）



貸出冊数（年間・1日平均）



利用者スペース面積・座席数

キャンパス	利用者スペース面積	閲覧座席数	自由に会話できる 開放スペース
池袋	10,872㎡	1,538席	96席
新座	2,496㎡	468席	66席
合計	13,368㎡	2,015席	162席

グループ学習室 部屋数・座席数

キャンパス	部屋数	席数
池袋	8室	110席
新座※	3室	32席
合計	11室	142席

※1室（2席）を個人ブースに転用

協定大学図書館の利用

山手線沿線私立大学図書館コンソーシアム	青山学院大学	東洋大学
	学習院大学	法政大学
	國學院大學	明治大学
	専修大学	明治学院大学
学習院大学閲覧協定		
埼玉大学図書館相互利用協定		
同志社大学図書館相互利用協定		
埼玉県大学・短期大学図書館協議会（SALA）（加盟機関44館 ※新座図書館のみ）		

大学図書館間での各種協定により、紹介状なく学生証・勤務員証の提示で各大学図書館の相互利用が可能となっています。

総合学習および研究図書館としての支援機能と幅広い蔵書・資料を有し、年間 320 日を超える開館日数で夜間まで利用可能な図書館環境を池袋・新座両キャンパスに整備しています。静寂かつ広々としたスペースに、PCも利用可能な閲覧席を十分に備え、学生同士アクティブにグループ学習ができるラーニング・コモンズを設けるなど、学修・教育・研究の多様化するニーズに対応しています。また、従来の来館型サービスのみならず、データベースや電子書籍等の電子リソースの拡充、オンライン相談などリモートでの研究・学修支援も進展し、図書館外どこからでもアクセスできる非来館型の図書館サービス機能も充実しています。

TOPICS

1 アクティブ・ラーニング促進

学生同士の主体的な学び合いを促すため、「グループ学習室」を池袋・新座両図書館に設置しています。周囲を気にせず存分に話し合いができる開放的なエリア（ラーニング・コモンズ）も両図書館に設けています。



TOPICS

2 ラーニングアドバイザー

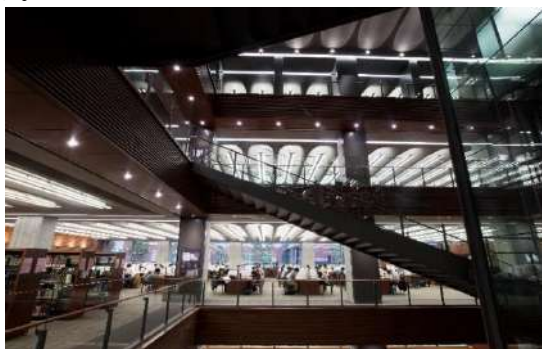
大学院学生が「ラーニングアドバイザー」として、図書館を活用した学修やレポート・論文作成をサポート。池袋・新座両図書館専用カウンターでの対面相談に加え、オンラインでの相談により、学生の学修や研究に役立つアドバイスを行っています。また、「レポート作成セミナー」「語りの時間」の開催やおすすめ本紹介などの情報発信を行っています。



TOPICS

3 様々な講座・講習会の開催

図書館の施設や資料・各種リソースを有効活用するための講座・講習会、海外留学や就職活動に役立つ講座を開催し、図書館の視点から、大学生活や将来のキャリアを見据えた活動をサポートしています。



TOPICS

1

環境学部のVision

環境学部は、すべての人にとって公正な社会を目指す環境正義の理念にもとづき、環境問題の解決と持続可能な社会への変革に貢献できる「環境リーダー」の育成を掲げ、2026年4月、池袋キャンパスに開設しました。文理の枠を超える幅広い知識と、現実の課題と結びつけて活用できる専門性を身につけながら、その過程で多角的な視点と多様な視座を獲得できるカリキュラムを用意します。また、自らの強みを活かしながら、仲間の力を引き出す全員発揮の立教型リーダーシップを養いつつ、国内外のフィールドで対話と協働の経験を重ねることが実践的なプログラムをデザインします。

環境正義 (Environmental Justice) とは？

人々の暮らしやあらゆる生命にさまざまな悪影響を及ぼす気候変動や公害などの環境問題について、特に社会的、経済的に弱い立場におかれている人がより深刻な被害を受けやすいことを認識し、公正な社会と環境の保全をともに実現することが必要だとする考え方です。

TOPICS

2

養成する人間像

1

環境に関する基礎知識を自然科学・社会科学・人文科学の観点から幅広く身につけ、現実の課題と結びつけながら理解できる。

3

自然環境を科学的にとらえ、社会経済システムに関わる技術と学識をそれぞれの立場で活用できる。

2

さまざまな関係者や異なる分野の専門家を対話を通じてつなぎ、協働の関係を構築しながら、地域社会および国際社会に貢献できる。

4

"Environmental Justice"(環境正義)の概念を理解し、環境問題の解決とサステナブル社会への変革のために行動できる。

TOPICS

3

環境学部の拠点19号館を竣工

2026年3月21日に、池袋キャンパス19号館の竣工式を執り行いました。19号館は、環境学部のシンボルとして、専任教員の研究室や協働研究室、実習支援室、学部長室等を備えています。

地上3階建ての木造建築であり、高度な省エネ性能と太陽光発電による省エネを組み合わせることで、一次エネルギー消費量を実質75%以上削減する「Nearly ZEB」

(※)を達成しています。都内において木造の大学建設 Nearly ZEB認証を取得することは初の事例です。

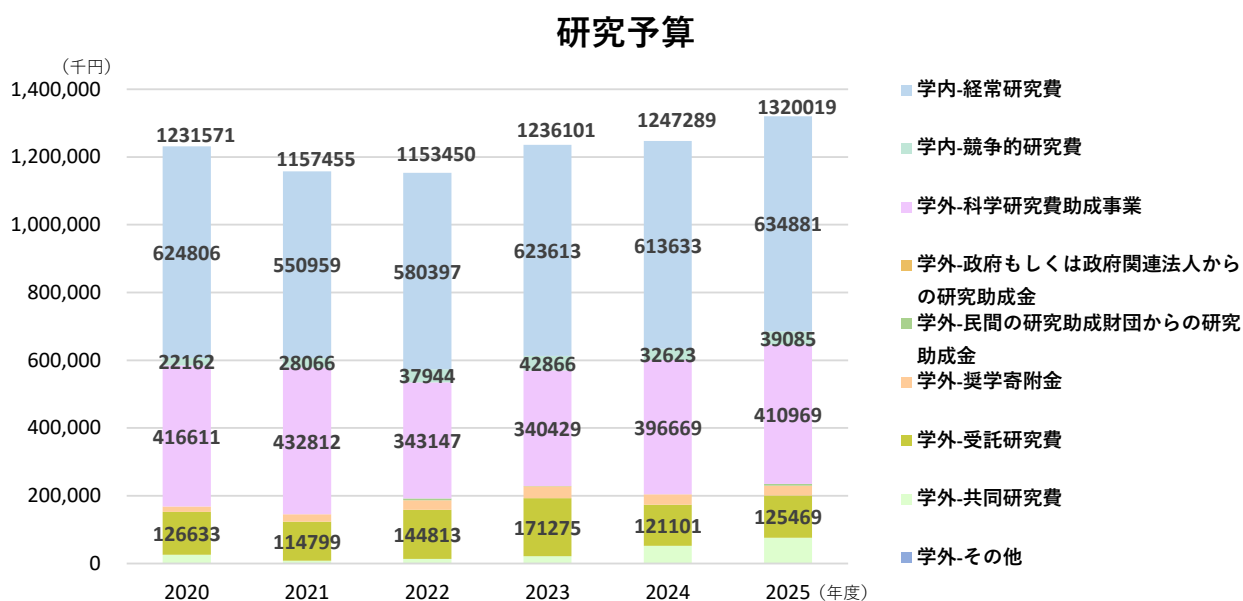
19号館は、新しい時代の環境教育を象徴する「生きた教材」となるよう設計されています。庇や木格子による日射制御、太陽光パネルによる発電効果の「見える化」など、学生が日常的に環境技術の効果に触れられるパッシブデザインを随所に採用しています。また、立教大学を象徴するレンガの意匠を継承しつつ、木造ならではの温かみと質感を調和させ、池袋キャンパスの新たな顔として、キャンパス南側の西池袋通りに面する学院南門前に位置しています。

※ Nearly ZEB (ニアリー・ゼブ) : ZEB (Net Zero Energy Building) の4分類のうちの一つ。省エネ (へらす) と創エネ (つくる) により、従来の建物で必要なエネルギー消費量を75%以上削減した建物のこと。



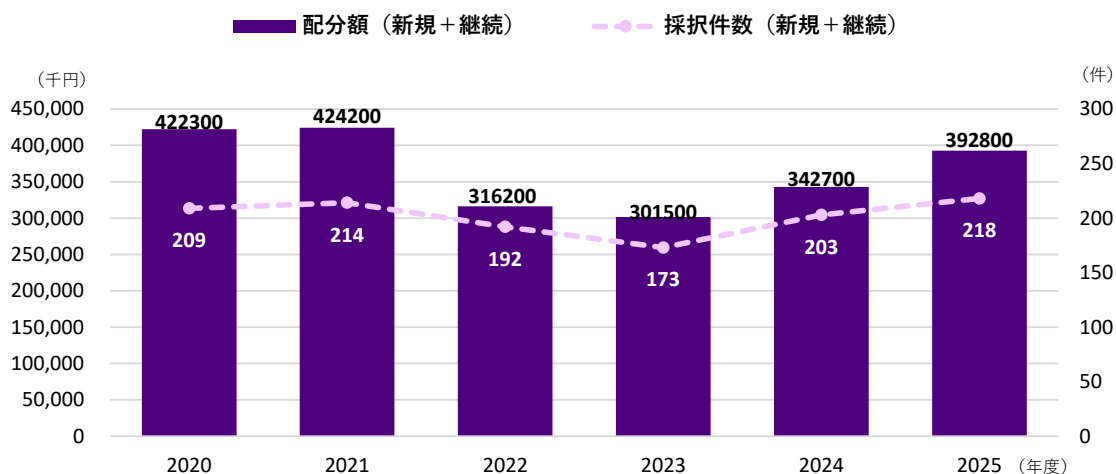
Ⅱ 研究

1.研究予算



2.学外研究費

科学研究費助成事業 採択状況（金額・件数）



KEY WORDS

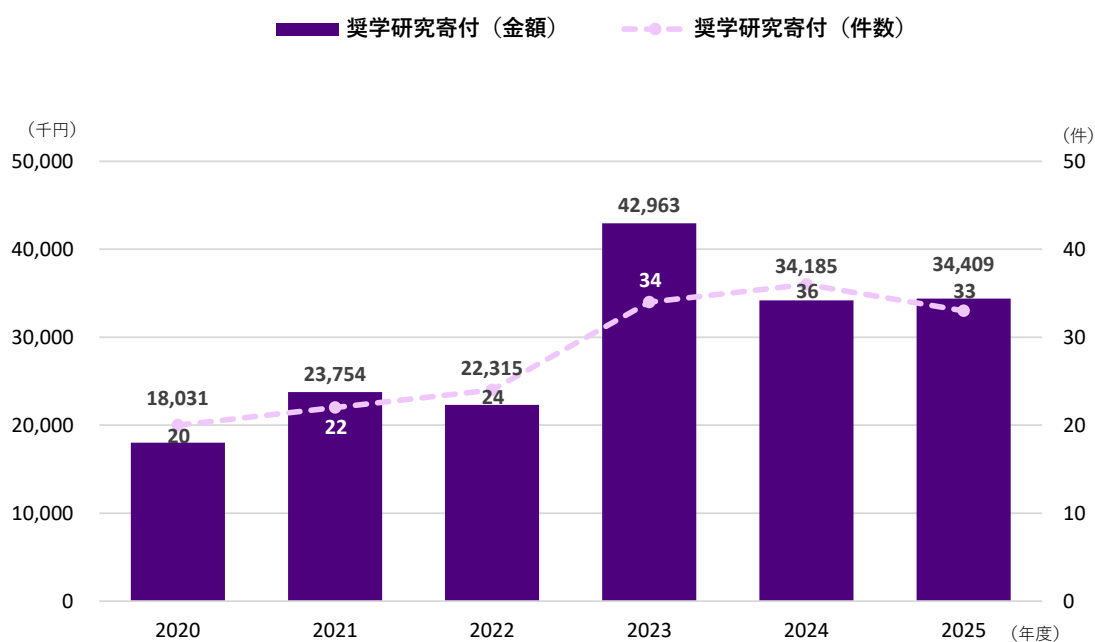
科学研究費助成事業の採択

研究代表者が本学に所属する研究課題の件数と、研究費配分額総額の推移を示しています。

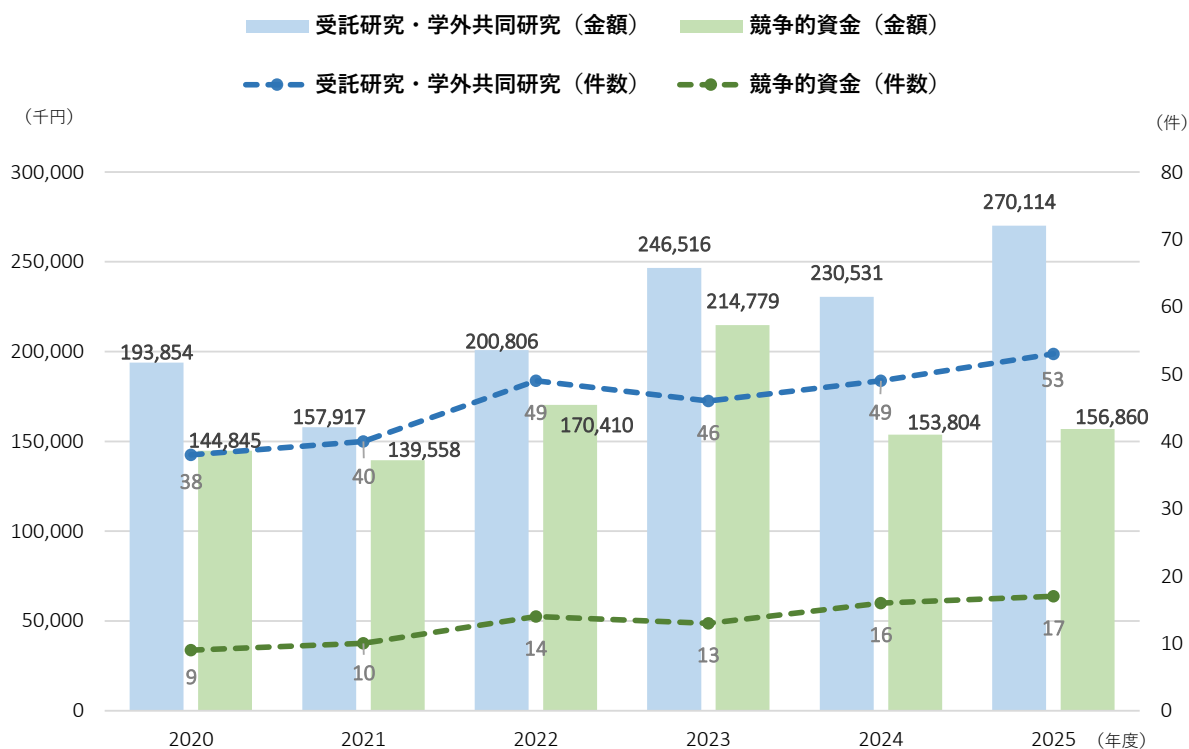
科学研究費助成事業（学術研究助成基金助成金／科学研究費補助金）は、人文学、社会科学から自然科学まで全ての分野にわたり、基礎から応用までのあらゆる「学術研究」（研究者の自由な発想に基づく研究）を格段に発展させることを目的とする「競争的研究資金」です。

学外資金の獲得に取り組んできた結果が、採択金額や件数の増加に表れているといえます。

奨学研究寄付 受入状況（金額・件数）



受託研究・学外共同研究 受入状況

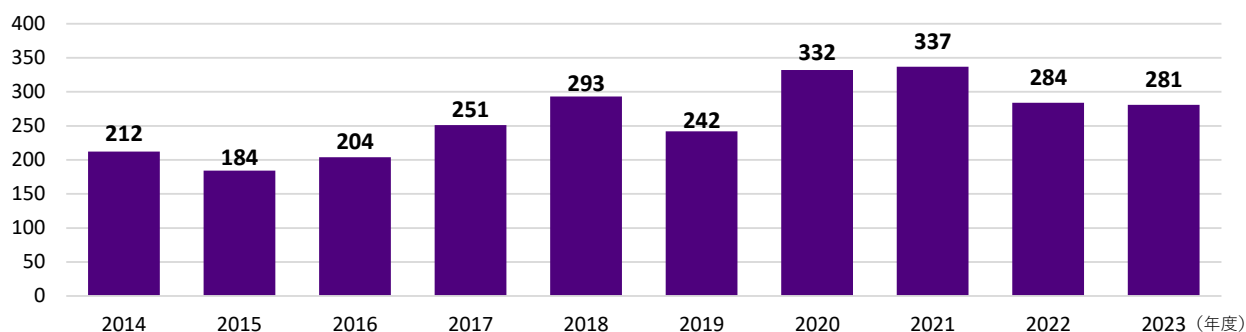


3.論文

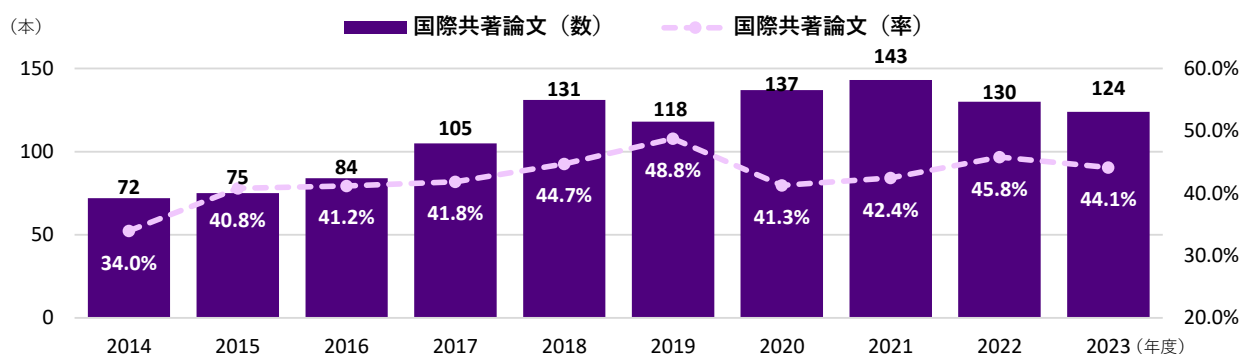
※ドキュメントタイプ：「Article」「Proceedings Paper」「Review」「Book」「Book Chapter」

※十分なデータが反映していると想定される年度10年度分を掲載しています。

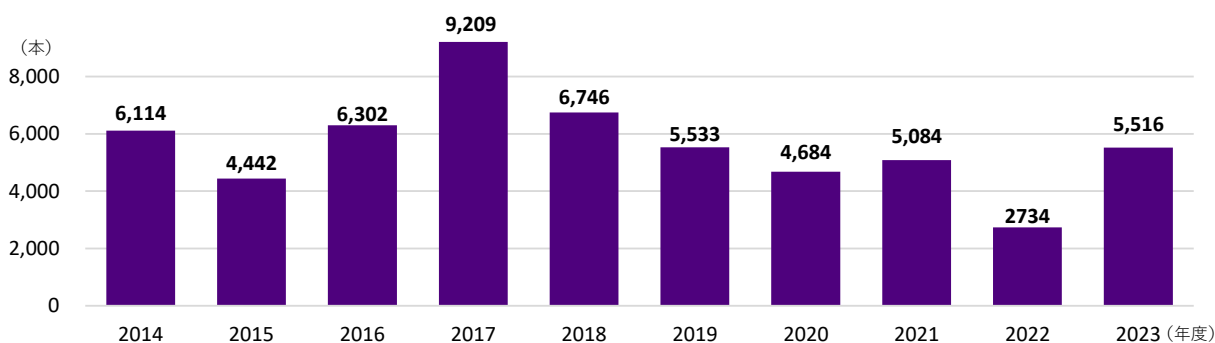
論文発表数



国際共著論文



論文被引用数



KEY WORDS

論文発表数

書誌・引用情報データベースである Web of Science の収録論文。

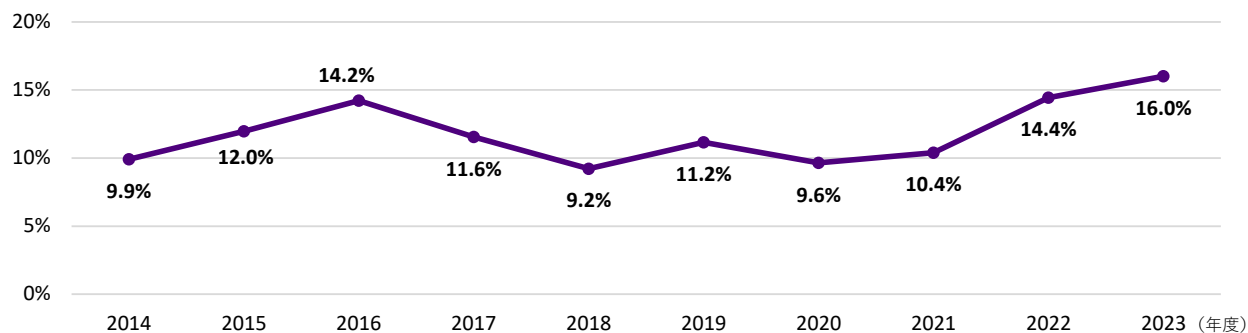
国際共著論文

海外の研究機関に所属する共著者が入っている論文。

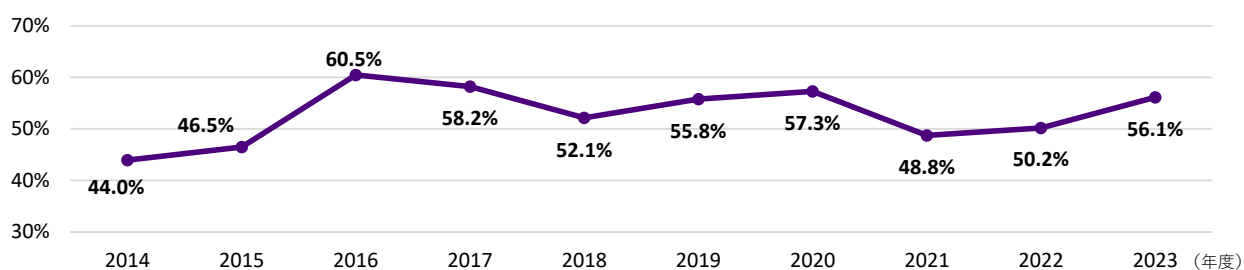
論文被引用数

論文が他の論文に引用された回数を示す数値。

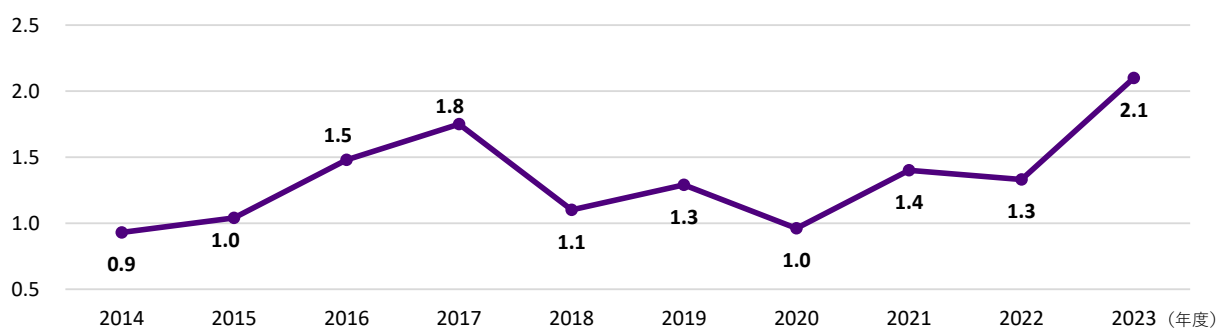
TOP10%論文割合



ジャーナル・インパクトファクター



相対被引用数



KEY WORDS

TOP10%割合

引用数が上位 10 位以内の論文。

ジャーナル・インパクトファクター

雑誌を評価するための尺度で、ある雑誌の X 年のジャーナル・インパクトファクターは、その雑誌に X2 年及びX1 年に掲載された論文が、X 年に引用を受けた平均の回数。このグラフは、ジャーナル・インパクトファクターの上位 25% に入る Q1 雑誌（四分位）割合を示しています。

相対被引用度（CNCI）

同一分野・出版年の論文集合における相対的な平均被引用数。
同一分野・出版年の論文ごとに、世界平均を 1 となるよう算出されている。1 より大きければ「世界平均より上」となる。

立教大学は、大学の社会的使命である「研究」に積極的に取り組み、日々の研究活動の質・量の両面で活性化を図ることで、学術研究の高度化に寄与し、その成果を学内外に還元することを推進しています。

研究室に関する立教の国内大学順位

論文数	118位
Top10% 論文割合	20位
国際共著論文率	83位
高被引用論文数	61位
ジャーナル・インパクトファクター	9位
相対被引用度（CNCI）	9位

立教大学は、現在国内大学トップクラスの研究を保持しています。研究力の可視化やトレンド把握、また、世界に向けた研究業績をアピールし、研究ブランド力を向上することで、さらなる研究力向上を目指します。

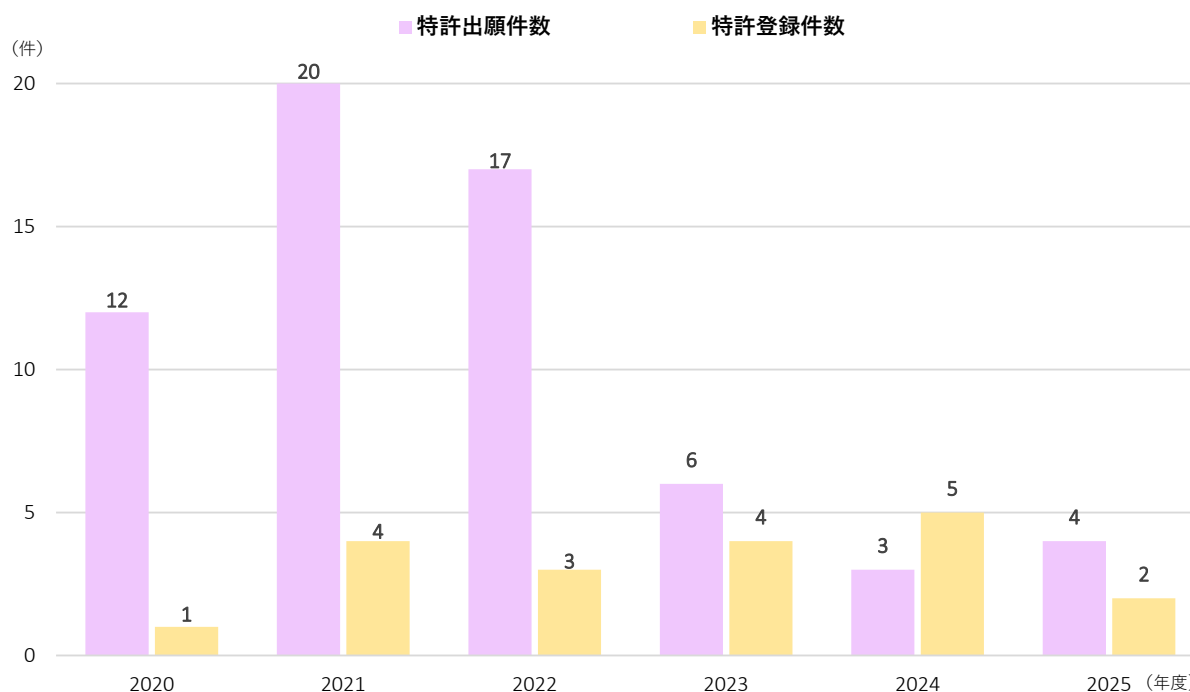


※データ対象年度：2014～2023年度

※ドキュメントタイプ：「Article」「Proceedings Paper」「Review」「Book」「Book Chapter」 資料：Web of Scinence

4.知的財産

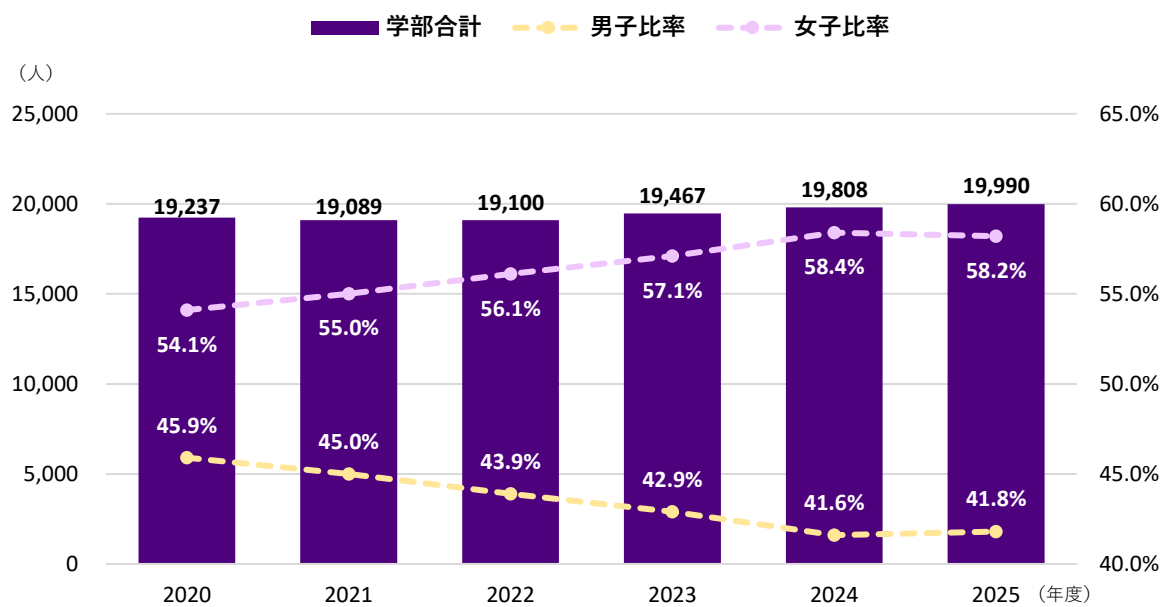
特許出願件数・登録件数



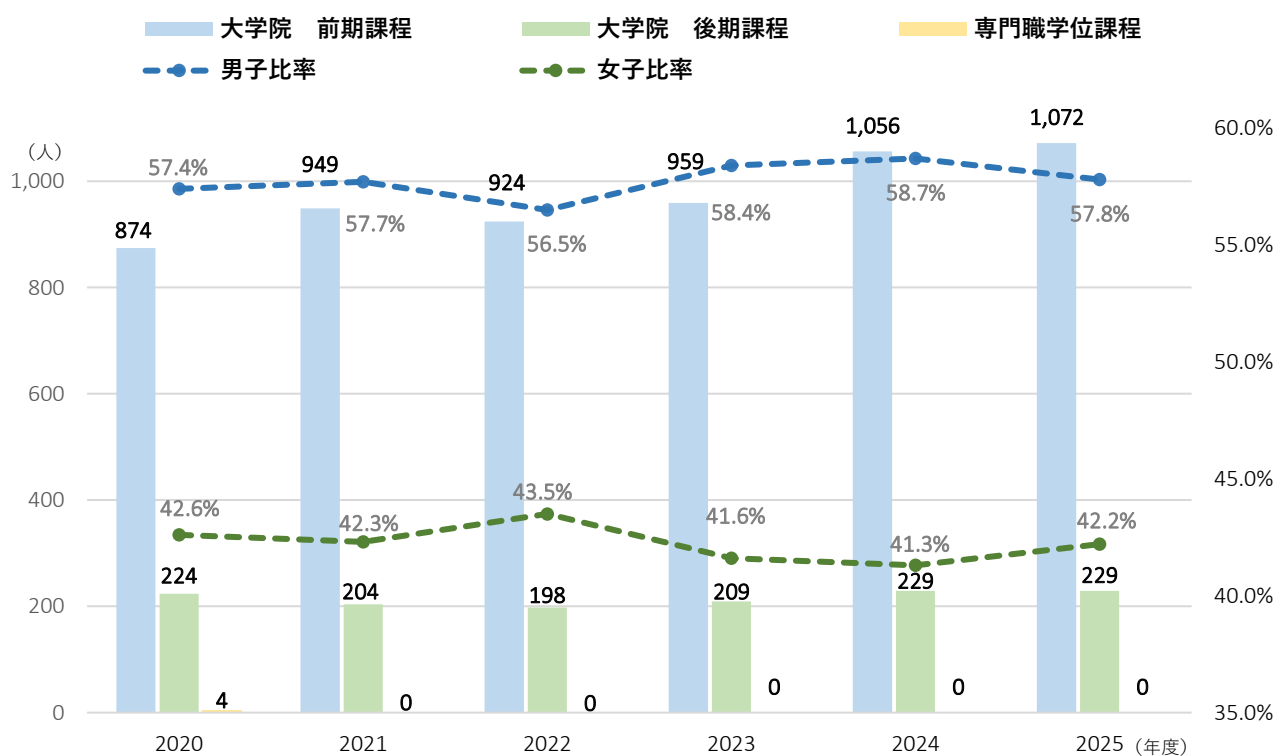
Ⅲ 学生

1. 学生数

学部 学生数 男女比

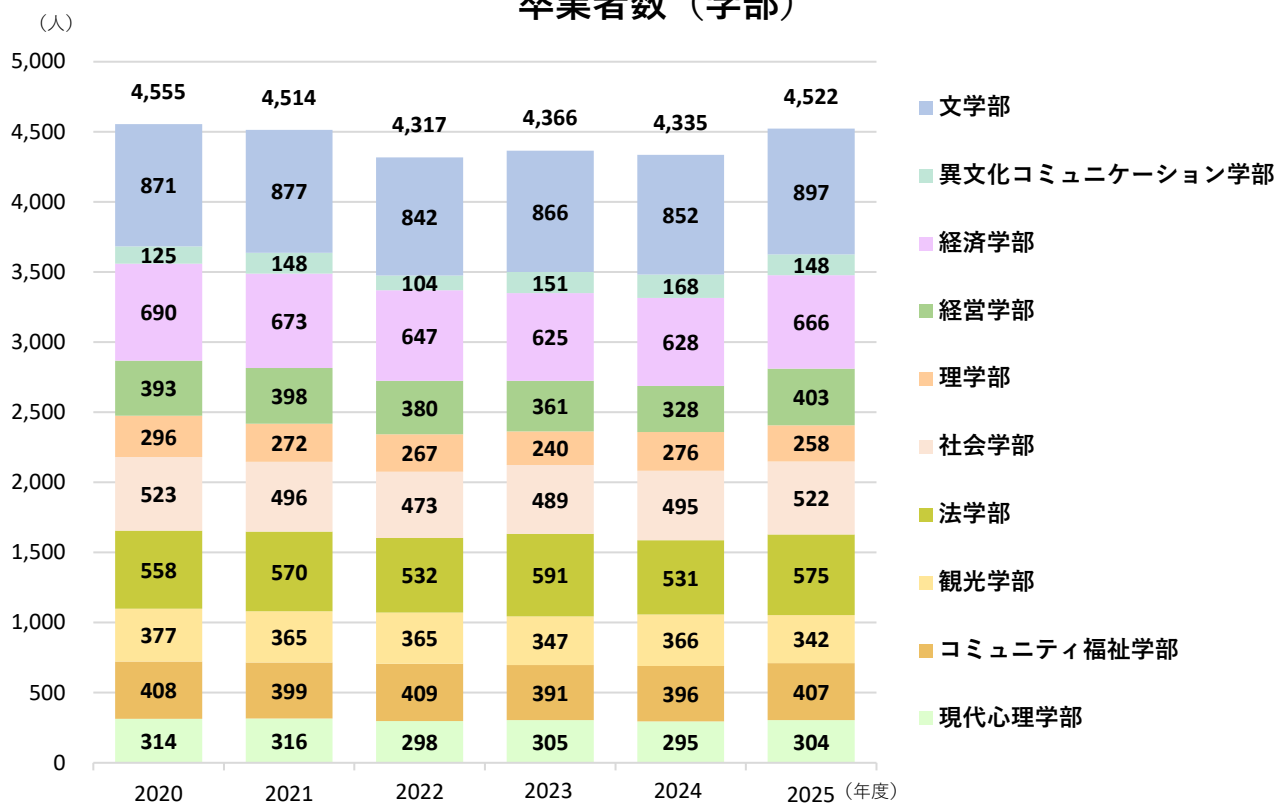


大学院 学生数 男女比

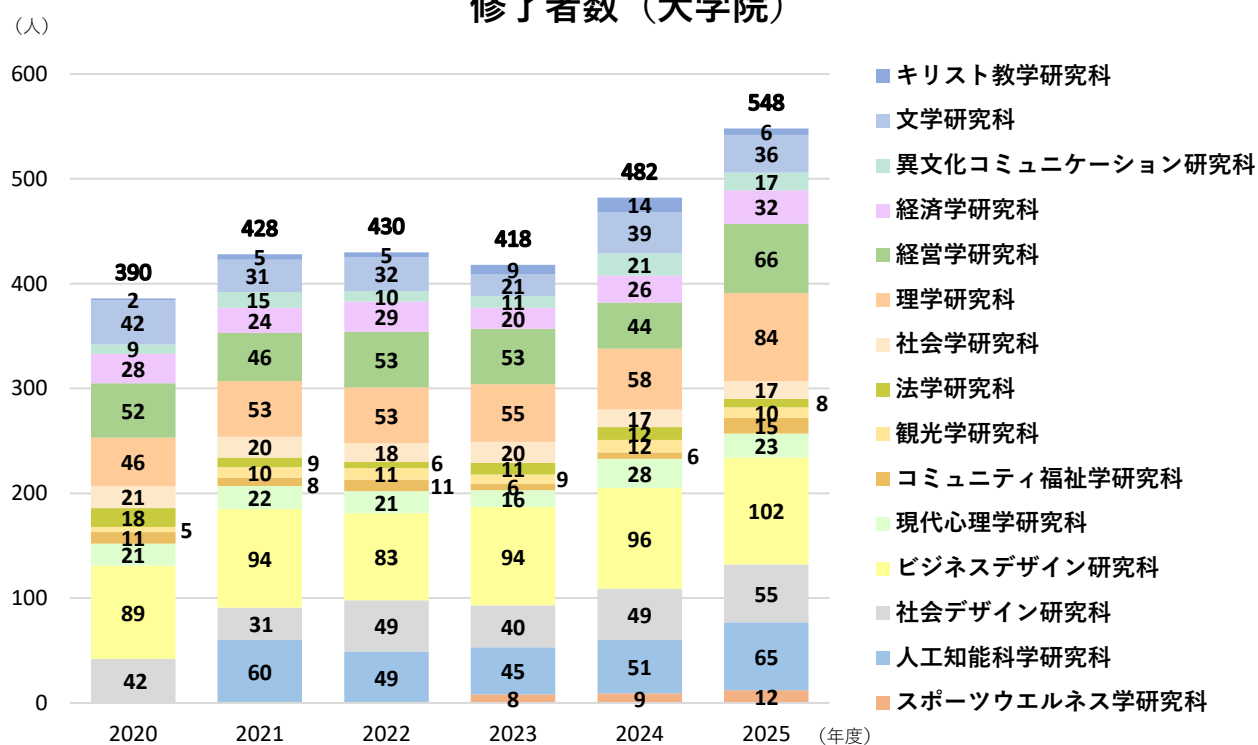


2.学籍

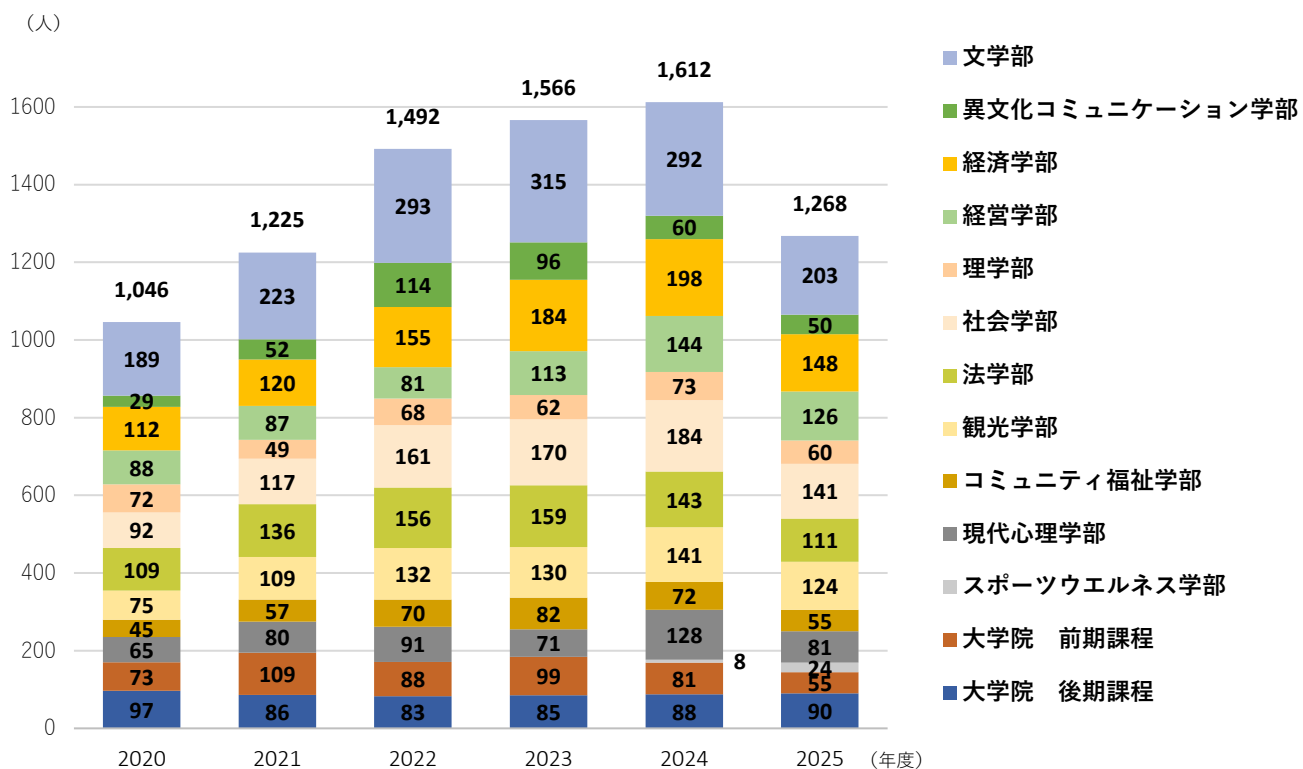
卒業者数（学部）



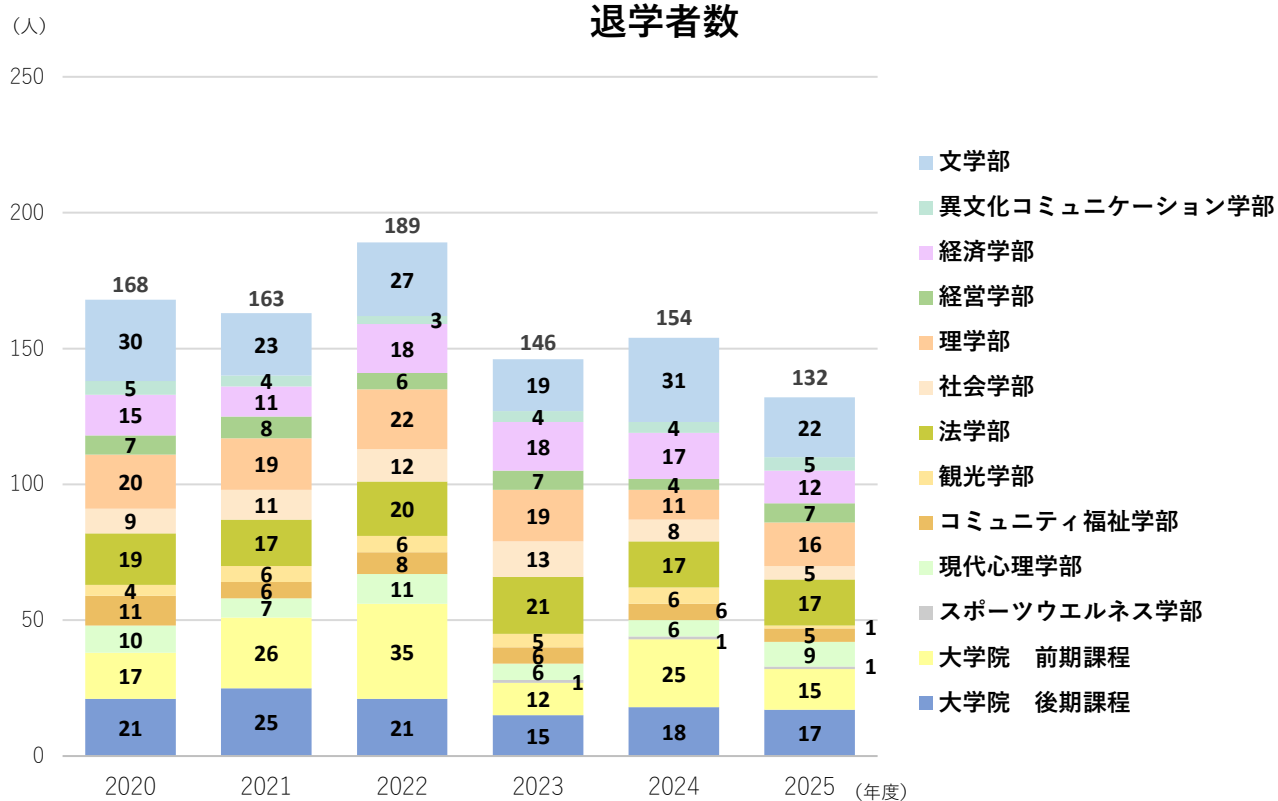
修了者数（大学院）



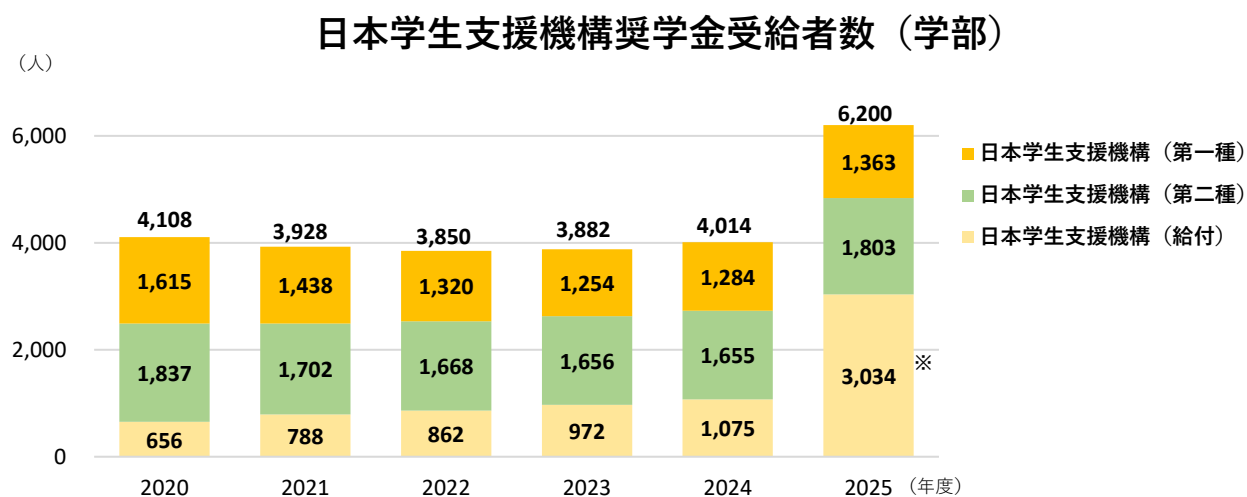
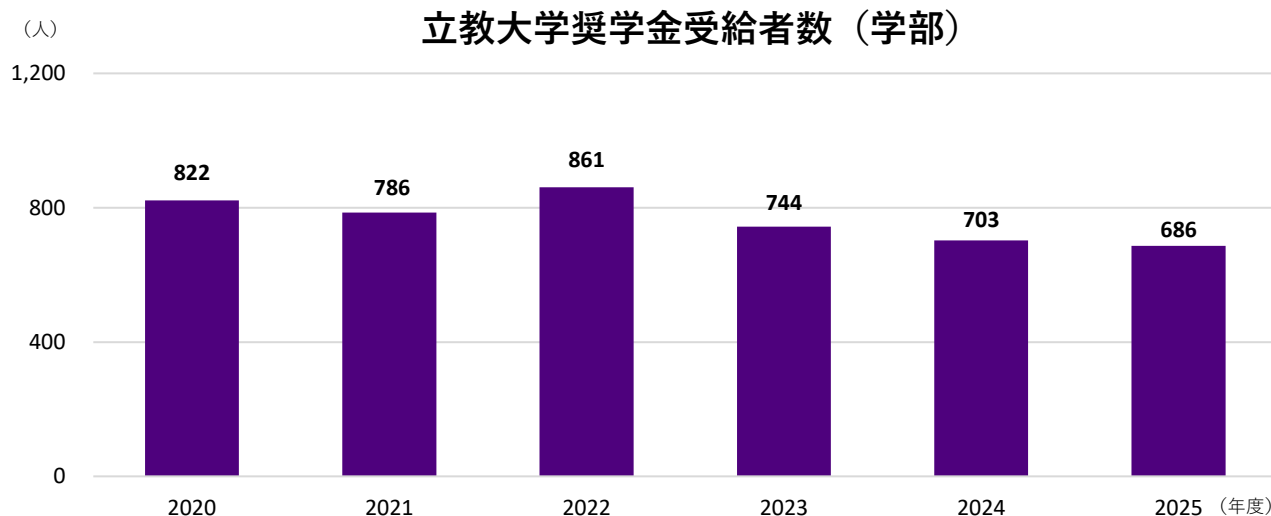
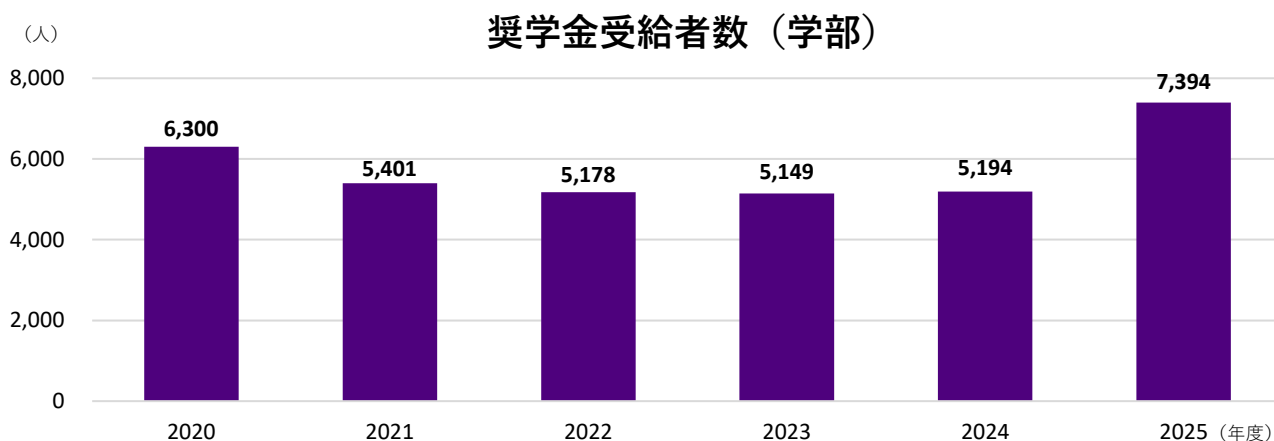
休学者数



退学者数

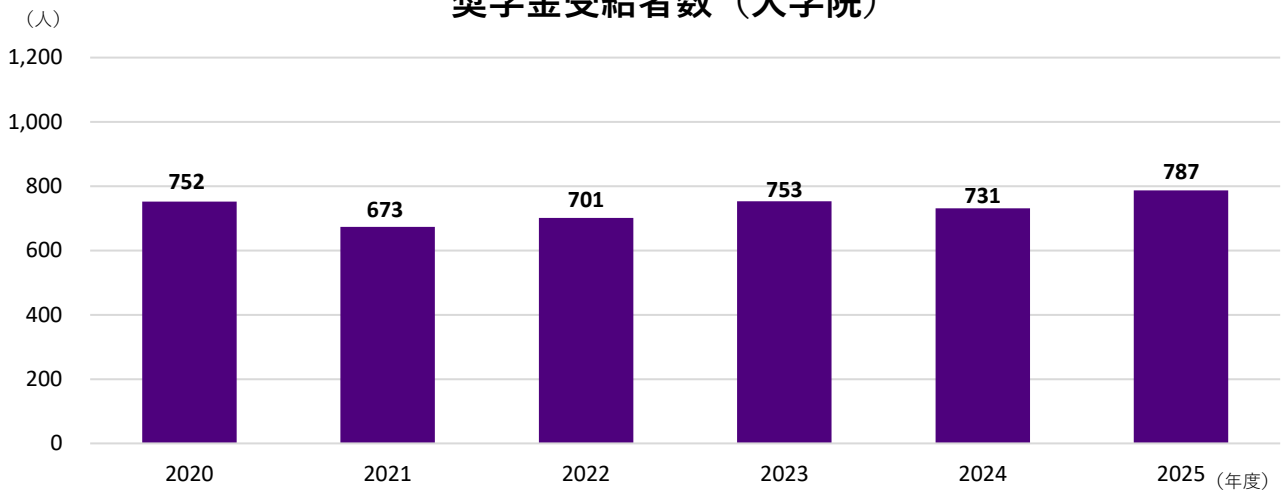


3.奨学金

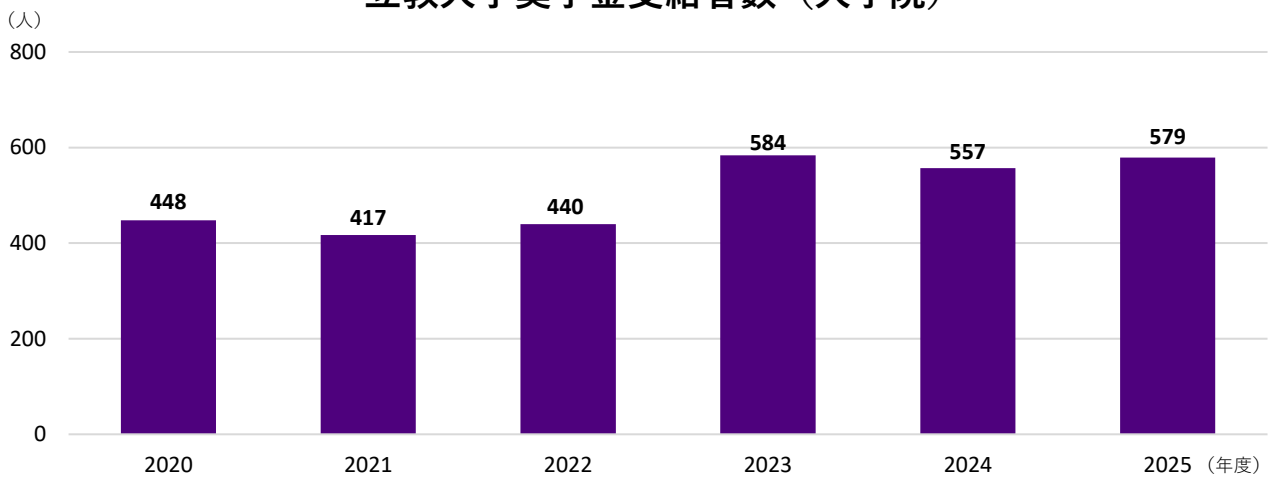


※2025年度より、生計維持者が子どもを3人以上同時に扶養している世帯の学部生を対象に、所得制限なしで授業料等が減免される「多子世帯の大学等の授業料無償化」制度が開始されました。本制度の支援を受けるには日本学生支援機構の給付型奨学金への申し込みが必要となるため、2025年度に受給者数が増加しています。

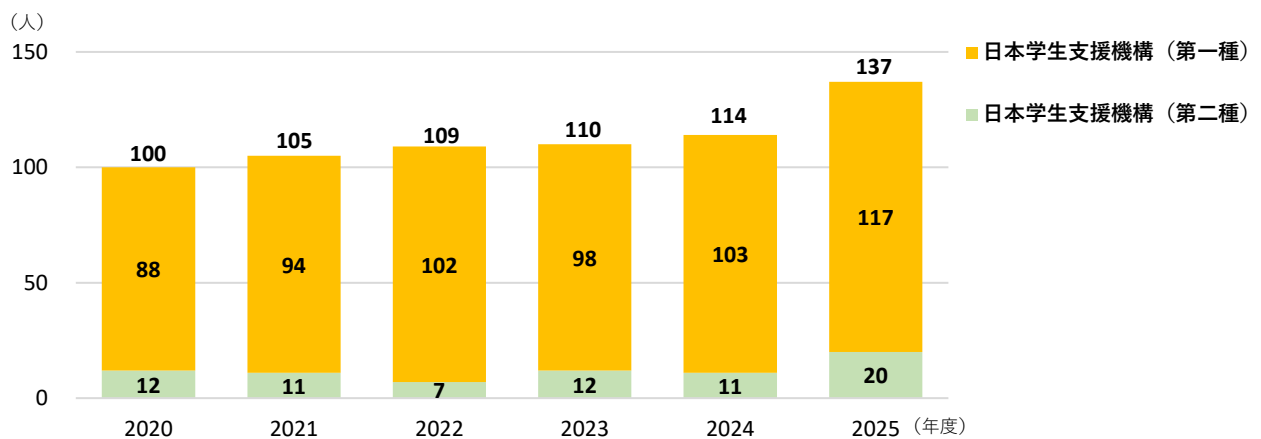
奨学金受給者数（大学院）



立教大学奨学金受給者数（大学院）



日本学生支援機構奨学金受給者数（大学院）



KEY WORDS

立教大学の奨学金

全て返還の必要がない給付奨学金です。経済的理由で学業継続が困難な学生に対して学業継続の機会を保障することを目的としたもの（経済支援目的）と、優れた能力を有する学生に対してその能力をさらに伸ばす機会を提供することを目的としたもの（育英目的）とがあります。

日本学生支援機構奨学金

国の奨学育英事業を行う日本学生支援機構の奨学金です。学生本人に貸し与えられ、卒業後に返還の義務がある「貸与奨学金」と、学生本人に給付され、原則返還の義務がない「給付奨学金」があります。「貸与奨学金」には、返還時に利子のつかない「第一種奨学金」と利子のつく「第二種奨学金」があります。また、「給付奨学金」採用者は「国による高等教育の修学支援新制度」による授業料減免も受けることができます。

奨学金受給者数

立教大学で取り扱う奨学金（立教大学の奨学金、国の奨学金「日本学生支援機構奨学金」、民間育英団体の奨学金、地方公共団体の奨学金）の延べ受給者数として集計を行っています。

TOPICS

立教大学の奨学金

■経済支援型の奨学金

経済的理由で学業継続が困難な学生に対して学業継続の機会を保障することを目的とした奨学金。

■留学支援・学業奨励など育英型の奨学金

留学希望者や成績優秀者など、優れた能力を有する学生に対してその能力をさらに伸ばす機会を提供することを目的とした奨学金。

■国による高等教育の修学支援新制度

2020年度より導入された「国による高等教育の修学支援新制度」。立教大学は同制度の対象となる確認大学に申請し、文部科学省より認定を受けています。返還義務のない奨学金を受給できることに加え、授業料や入学金の支援を受けることができます。2025年度からは「多子世帯」に対する支援の拡充も行われ、所定の条件を満たす世帯は収入に関係なく支援の対象となることができるようになりました。

■被災地の入学者に対する経済支援制度

被災地（災害救助法適用地域）の入学者を対象とした入学金返還および奨学金制度。

■家計急変時の奨学金

家計が急変し、学費の納入が困難になった学生を経済的に支援することを目的とした奨学金。

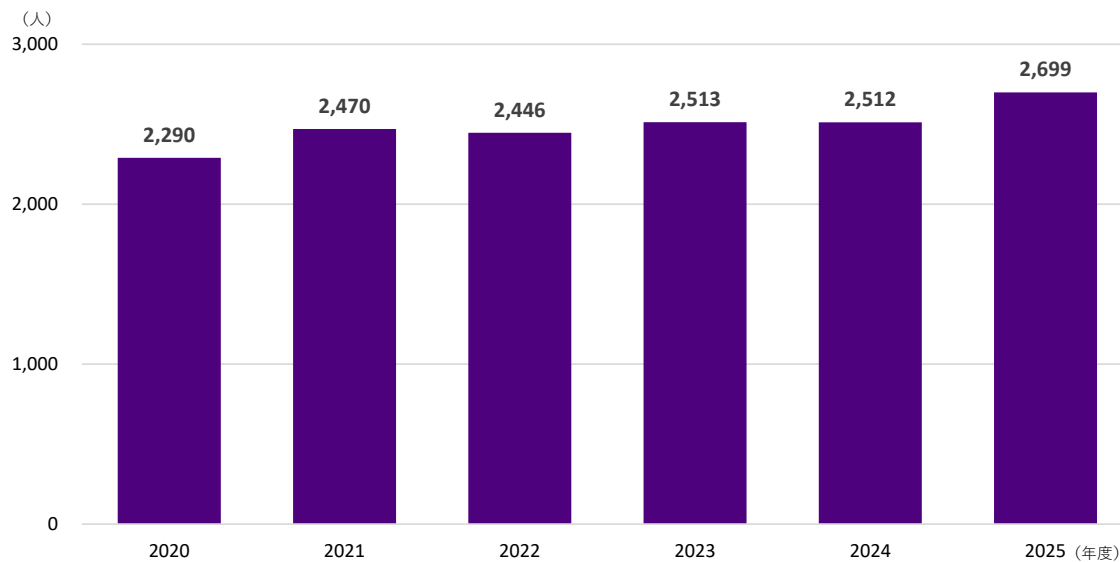
■大学院対象の奨学金

大学院学生の勉学・研究活動の奨励もしくはその経済援助を目的とした奨学金。学生本人が国内や海外で開催される学会で発表する等の場合に支給する奨学金制度もあります。

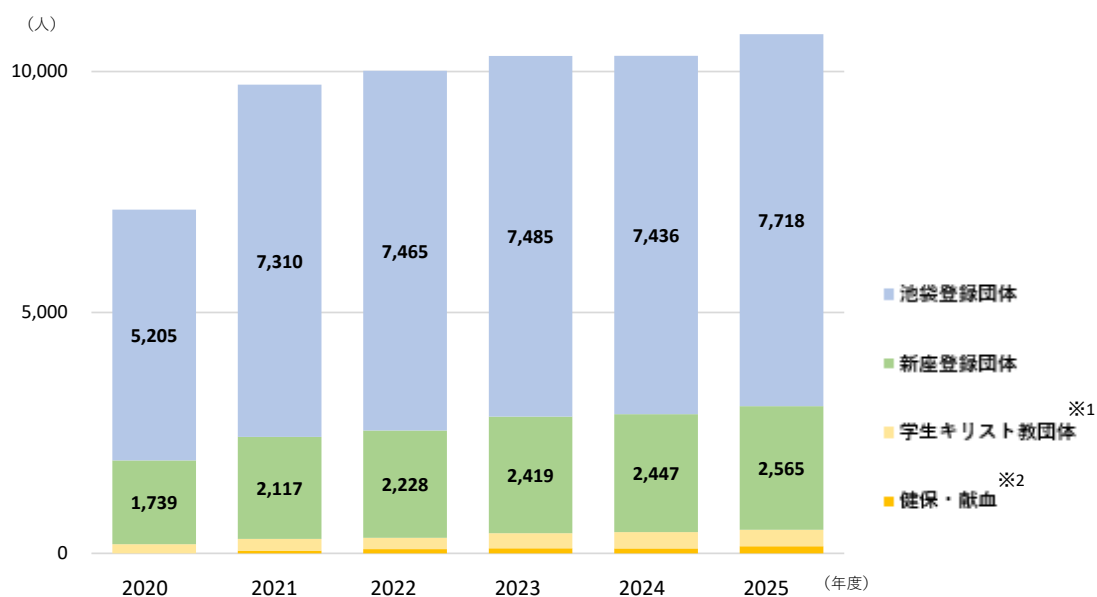
4.課外活動

大学公認団体としては、体育会（51部）・学生キリスト教団体・登録団体等に所属する約200余りの団体があり、学生の自主的な運営によって学内外で活発に活動しています。

体育会所属学生数



学生登録団体所属学生数



※1：学生キリスト教団体・・・チャペルを拠点として活動する9つの公認サークル。礼拝にかかわる活動や子どものための日曜学校、ボランティア活動、クリスマス行事等を通して、建学の精神を学び、実践しています。

※2：健保・献血・・・学生健康保険組合・献血の会

TOPICS

1

「立教大学箱根駅伝プロジェクトPhase2」事業

立教大学体育会陸上競技部は、東京箱根間往復大学駅伝競走（以下、「箱根駅伝」）が始まった1920年に創部されました。1934年の第15回大会から出場し、1957年の第33回大会では総合3位という成績を収めた伝統校です。1968年の第44回大会を最後に長らく出場が途絶えていましたが、2018年より、箱根駅伝出場を目指す「立教箱根駅伝2024」事業を開始。現在はその取り組みを「立教大学箱根駅伝プロジェクトPhase2」として継続しています。事業の成果は徐々に表れ、2023年の第99回大会では大会史上最長となる55年ぶりの本大会出場を果たしました。現在は4年連続で本選出場を達成しており、今後はシード権の獲得とさらなる上位進出を目標に挑戦を続けています。



TOPICS

2

4年連続 31 回目の箱根駅伝出場へ

総合 10位

10時間36分56秒

第 102 回箱根駅伝予選会

2025年10月18日（土）、第102回箱根駅伝予選会が開催され、箱根駅伝本選への出場枠10枠をかけて、42校が参加し順位を争いました。立教大学体育会陸上競技部男子駅伝チームは、5km地点および10km 地点を1位で通過し、17.4km地点では8位と順位を落としながらも、合計タイム10時間36分56秒という結果となり、ボーダーラインとなる全体10位で、4年連続31回目の本選出場権を獲得しました。

2025年10月18日（土）

東京・陸上自衛隊立川駐屯地～立川市街地～昭和記念公園



総合 20位

11時間5分58秒

第 102 回箱根駅伝

2026年1月2日（金）・3日（土）に開催された第102回箱根駅伝に立教大学体育会陸上競技部男子駅伝チームが出場し、総合20位という結果となりました。

2026年1月2日（金）、1月3日（金）

東京・大手町～箱根芦ノ湖間



【往復総合公式記録】

総合成績：20位 11時間5分58秒

往路順位：20位 5 時間33分5秒

復路順位：18位 5時間 32分53秒

立教大学 公式LINE立教駅伝応援

立教駅伝応援【公式】LINEアカウントでは、動画コンテンツや、応援グッズ等の情報を確認できます。また、大会情報等の配信を行っています。



@rikkyoekiden



「立教大学箱根駅伝プロジェクトPhase2」特設サイト

「立教大学箱根駅伝プロジェクトPhase2」の取り組み状況、過去の箱根駅伝出場記録や最新のトピック等を確認できます。

<https://www.rikkyo.ac.jp/rikkyoekiden/>

陸上競技部男子駅伝チーム公式サイト

現在の男子駅伝チームの選手のことが分かるブログや競技成績、スケジュール、過去に箱根駅伝に出場した先輩たちの実績等を紹介しています。

<https://www.rikkyo-ekiden.jp/>

主な課外活動実績（2020年度～2023年度）

年度	団体名	実績
2020	ボート部	第98回全日本選手権大会 男子舵手なしフォア 第3位 女子エイト 第3位
	ボート部	第47回全日本大学選手権大会 男子舵手なしフォア 優勝 女子舵手付きフォア 第2位
	モーターボート・水上スキー部	第65回桂宮杯全日本学生水上スキー選手権大会 男子総合優勝 女子総合優勝
	馬術部	第66回全日本学生賞典馬場馬術競技大会 団体第3位
	ローラーホッケー部	第62回全日本学生ローラースケート選手権大会 女子ホッケー部門 優勝
	陸上競技部	第97回東京箱根間往復大学駅伝競走 関東学生連合チーム選出 個人
	スケート部	2020全国大学ショートトラックスピードスケート競技会 女子500m 女子1000m 個人2位
2021	ボート部	第99回全日本選手権大会兼第48回全日本大学選手権 男子フォア 優勝 女子舵手付きフォア 準優勝
	モーターボート・水上スキー部	第66回全日本学生水上スキー選手権大会 男子総合優勝 女子総合準優勝
	洋弓部	第33回全日本学生フィールドアーチェリー選手権大会 男子リカブ部門 個人1位
	自転車競技部	全日本学生ロードレース・カップ・シリーズ2021
	陸上競技部	第98回東京箱根間往復大学駅伝競走 関東学生連合チーム選出 個人 ホクレン・ディスタンスチャレンジ2021 女子1500m 個人3位
2022	ボート部	第100回全日本選手権大会 女子エイト 3位 第49回全日本大学選手権大会 女子舵手付きフォア 第5位
	体操競技部	第75回全日本新体操選手権大会 女子団体総合 第5位、種目別決勝ボール2・リボン 第4位
	空手部	第66回全日本大学空手道選手権大会 女子団体組手の部 第3位 第58回東日本大学空手道選手権大会 女子団体組手の部 準優勝
	モーターボート・水上スキー部	第67回桂宮杯全日本学生水上スキー選手権大会 男子団体総合優勝、女子団体総合 3位
	ローラーホッケー部	第64回全日本学生ローラースケート選手権大会 ホッケー部門 男子優勝、女子準優勝
	女子ラクロス部	第13回ラクロス全日本大学選手権大会 ベスト 4
	陸上競技部	第99回東京箱根間往復大学駅伝競走 第18位
2023	ボート部	第50回全日本大学ローイング選手権大会 男子フォア 1位 第50回全日本大学ローイング選手権大会 女子エイト 2位
	陸上競技部	第100回東京箱根間往復大学駅伝競走 第14位
	アメリカンフットボール部	関東学生アメリカンフットボール1部リーグTOP8 リーグ戦 準優勝
	モーターボート・水上スキー部	第68回桂宮杯全日本学生水上スキー選手権大会 男子団体総合1位・女子団体総合2位
	ローラーホッケー部	第65回全日本学生ローラースケート選手権大会 女子優勝・男子準優勝 第64回全日本リンクホッケー選手権大会 女子準優勝・男子4位
	女子バスケットボール部	第73回関東大学女子バスケットボールリーグ戦 2部A リーグ優勝 1部昇格
	女子ラクロス部	第14回ラクロス全日本大学選手権大会 準優勝 第35回関東学生ラクロスリーグ戦 準優勝 学生ラクロス準リーグ全国大会 優勝



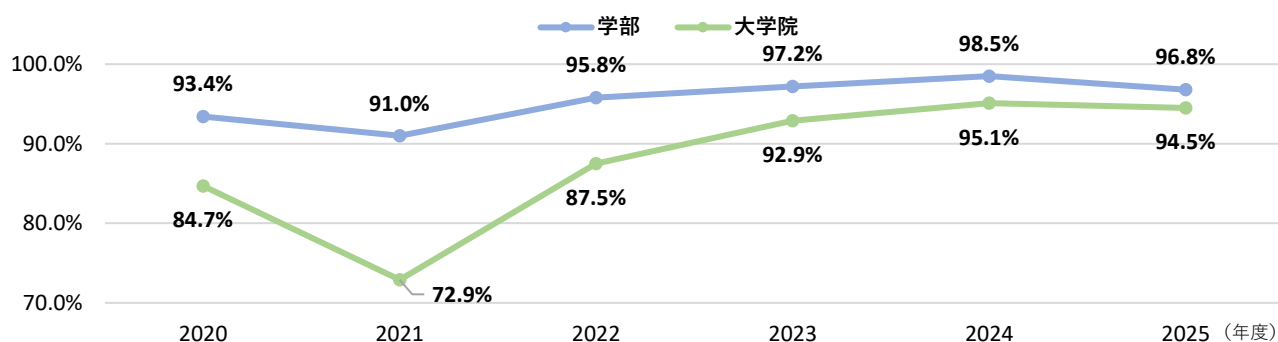
主な課外活動実績（2024年度～2025年度）

年度	団体名	実績
2024	ラグビー部	パリ2024オリンピック競技7人制ラグビー女子 日本代表として出場
	ボート部	第51回全日本大学ローイング選手権大会 男子フォア優勝 第51回全日本大学ローイング選手権大会 女子総合優勝
	フェンシング部	第77回関東学生フェンシングリーグ戦 男子フルーレ2部優勝 第77回関東学生フェンシングリーグ戦 男子エペ2部優勝
	ハンドボール部	令和6年度関東学生ハンドボール2部春季リーグ 優勝
	ソフトテニス部女子	第78回文部科学大臣杯全日本大学対抗ソフトテニス選手権大会 準優勝
	モーターボート・水上スキー部	第52回全日本学生水上スキー新人戦競技会 男女団体総合2位 第69回桂宮杯全日本学生水上スキー選手権大会 男子団体総合1位・女子団体総合2位
	ローラーホッケー部	第66回全日本学生ローラースケート選手権大会 女子優勝・男子3位 第48回東日本学生ローラースケート大会新人戦 男子優勝・女子準優勝
	男子ラクロス部	第36回関東学生ラクロスリーグ 1部2部入れ替え戦勝利・1部昇格
	陸上競技部	秩父宮賜杯第56回全日本大学駅伝対校選手権大会 第7位 シード権獲得 第100回東京箱根間往復大学駅伝競走 第13位
2025	スケート部スピード部門	ワールドカップスピードスケート第1戦 チームパシュート 1位 ワールドカップスピードスケート第2戦 チームパシュート 3位
	野球部	ベストナイン・首位打者・三冠王 ※三冠王は59年ぶり史上2人目 野球日本代表「侍ジャパン」大学代表候補選手 選考合宿参加 第45回日米大学野球選手権大会 出場
	ラグビー部	女子アジアラグビーエキシスチャンピオンシップ 2025 1位 女子ラグビーワールドカップ 2025 11位
	相撲部	世界相撲選手権大会 女子軽重量級 2位
	水泳部	パラ水泳ワールドシリーズ富士・静岡 2025 女子 100m バタフライ 8位 パラ水泳ワールドシリーズ富士・静岡 2025 混合4×100m フリーリレー34pts 1位
	準硬式野球部	文部科学大臣杯第77回全日本大学準硬式野球選手権大会 2位 ※69年ぶり
	モーターボート・水上スキー部	第70回桂宮杯全日本学生水上スキー選手権大会 男子団体総合 1位
	山岳部	ネパール、ヒマラヤ山脈、ピサンピーク ピサンピーク登頂
	陸上競技部	秩父宮賜杯第57回全日本大学駅伝対校選手権大会 14位 第101回東京箱根間往復大学駅伝競走 第20位

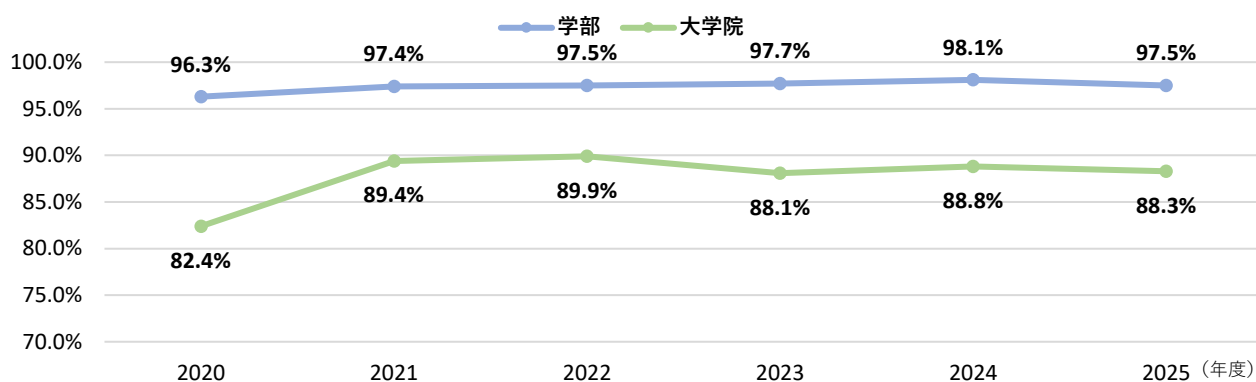


5.進路

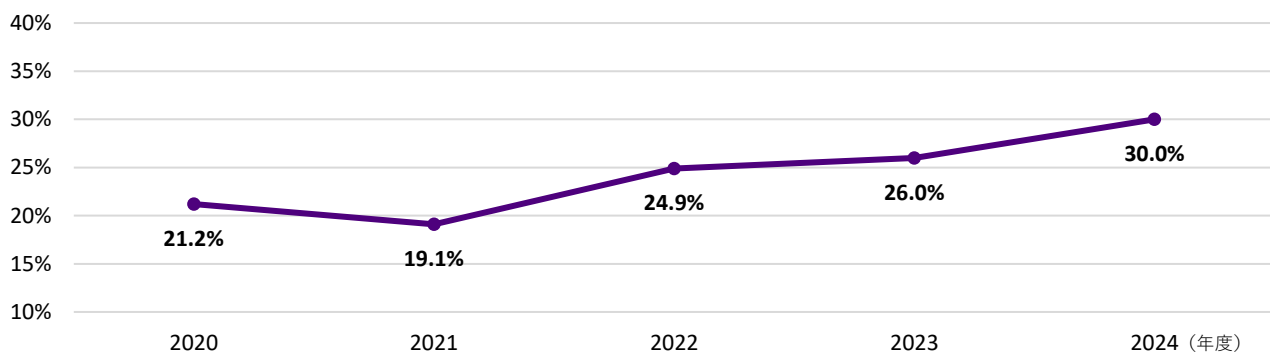
進路決定率



就職率



※ 有名企業就職率



※有名企業・・・東洋経済新報社が、日本を代表する企業をはじめ、日経平均株価指数の採用銘柄や、企業規模、知名度、大学生の就職人気企業ランキングなどを参考に選定。2024年度（2025年卒）が最新のデータとなります。

立教大学は、キャリアを「仕事・就職を含めた、自立した個としての自分らしい人生の在り方」と捉えており、就職＝ゴールだとは考えていません。学生が卒業後の人生において、自らの意思によって将来を見据え、主体的に考えながら、自分でキャリアを切り拓いていく力が大切だと考えています。そのため、学生が多くの経験や多様な価値観に触れ、「学ぶ力」「考える力」を身に付けられるキャリア支援を行っています。

TOPICS

1

学生の視野を広げるキャリア支援

社会には、多くの業界・企業がありますが、学生が知っているのはごく一部です。一方、やりたいことは知っていることの中からしか生まれません。目まぐるしく変化する社会構造を理解し、さまざまな業界や企業について知ること、働きたい業界や企業が見えてきます。そのため、キャリアセンターでは、さまざまなネットワークを活用して社会との接点を増やし、学生が視野とキャリアの可能性を広げることができるようなプログラムを学生の成長段階に合わせて展開しています。

①「社会を知る講座」

ビジネスの最新トレンドをテーマに、企業・団体で活躍する社会人によるパネルディスカッションを通して、新しく生まれるビジネスや既存の価値観の変化を知り、5年後・10年後の働き方について考えます。

②「Rikkyo My Career Gate」（2年次生対象）

学生たちが社会との接点を持ち、実際に現場に立つことで、働くことやキャリアについて考えるために、キャリアセンターが、企業・行政・団体などと連携して実施する立教生のためだけの就業体験型プログラムです。

③「スタディツアー」（1・2年次生対象）

企業を訪問し、業務内容を体験するビジネスゲームや社員との懇談などを通し、働くことやキャリアについてのイメージを醸成し、自身の生き方や働き方を考える契機とします。



TOPICS

2

卒業生によるサポート

社会で活躍する4万5千人もの卒業生が、プログラムへの協力や、個別の卒業生訪問などを通して、後輩たちのキャリア形成を支援しています。

「RIKKYO 卒業生訪問会」

年5回開催。毎回20名ほどの卒業生が、後輩のために学生生活から就職活動、働き方までNG質問ナシで語ります。さまざまなキャリアの先輩たちの本音を聞き、たくさんのヒントを得て、視野を広げられます。



RIKKYO卒業生訪問会の様子

TOPICS

3

学生ファーストの支援

前述の通り、キャリアの立教では、就職＝ゴールだとは考えていません。そのため、「良い」就職先を見つけるためではなく、学生自身が納得した進路選択をできるように、学生のことを一番に考え、一人ひとりに寄り添った支援を行います。



IV 社会連携・社会貢献

1. ボランティア

ボランティアセンターの活動内容

活動項目	内容
学生個々の支援	ボランティア相談、ボランティア・カフェの開催、海外ボランティアフェア・海外ボランティア参加者報告会の開催、ポール・ラッシュ博士記念奨学金
多様なニーズに対応した体験機会の提供	立教チームで活動する1dayボランティア、週末ワークキャンプ、新座キャンパス遊びフェス
独自のプログラムや学びの場の提供	立教キャンプ、ボランティア関連授業、学生コーディネーター、立教チームでつなぐ被災地支援プロジェクト(令和6年能登半島地震)
ボランティアサークルの支援	ボランティアオリエンテーション、立教生ボランティア活動報告会
立教大学他部局との協働	さまざまな学生支援部局やRSLとの協働・連携
地域連携	地域（池袋・新座）との連携

各種の立教キャンプ

キャンプ名	主催	開始年度	内容
奥中山ワーク・キャンプ	チャプレン室	1980年	岩手県の酪農地帯にある知的しょうがい者施設でのワーク・キャンプ
林業体験	学生部	2003年	岩手県陸前高田市での林業体験
農業体験 in 山形県高畠町	ボランティアセンター	1989年	山形県高畠町での有機農業体験
榛名ボランティアキャンプ	チャプレン室	1986年	群馬県にある高齢者福祉施設での生活を通して、人の命、人生、信仰心に触れるキャンプ
一貫連携教育・立教学院清里環境ボランティアキャンプ	ボランティアセンター	2004年	立教学院の小学生・中学生・高校生・大学生が清里に集い、ともに環境維持活動を行う

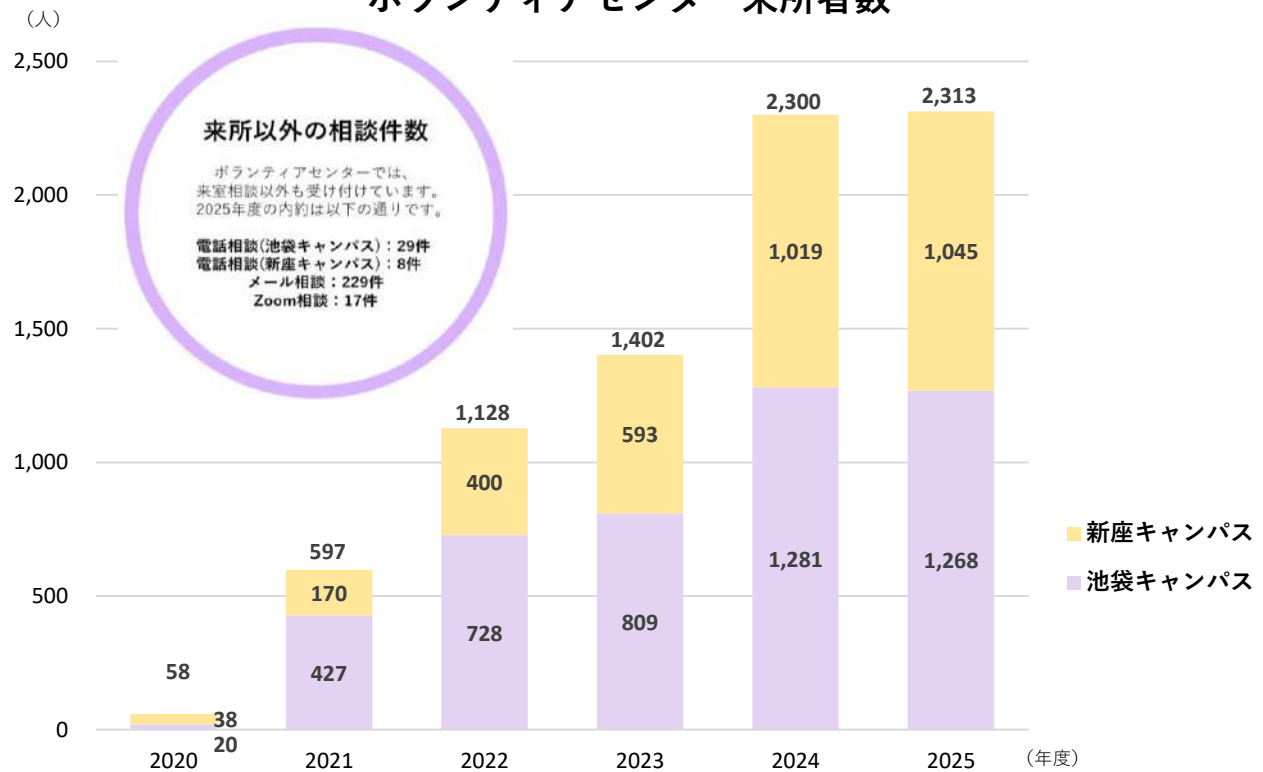
KEY WORDS

ボランティア

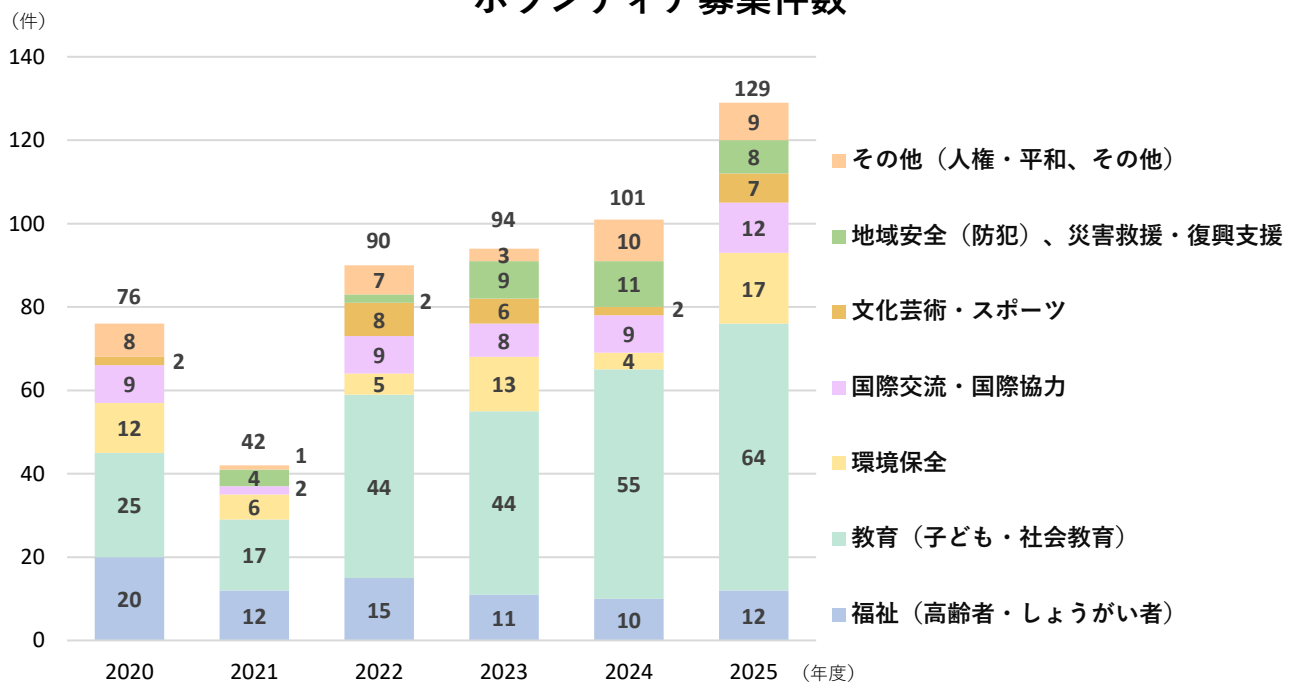
ボランティアセンターは、キリスト教に基づく建学の精神を具体化したものの一つである「共に生きる」ことを礎に、学生が他者との関わりや社会的な課題に取り組むことを通して、人間としての成長とより良き社会の実現を目指す意志の育成を図っています。

また、各種立教キャンプや自治体・地域と連携した活動でも、生きた現場に触れることや、さまざまな他者と関わることを通して総合的、実践的に学ぶことができます。

ボランティアセンター来所者数



ボランティア募集件数



※COVID-19の影響を受け、2020年の、2021年度はボランティアセンターへの来所者数やボランティアの募集件数が減少していますが2022年度が90件まで回復しました。

2.産学連携事業例（受託事業）

年度	委託元	事業名	委託先
2024 年度	飯能信用金庫	はんしんビジネスカレッジ「竹林舎」事業（第17期）	ビジネスデザイン研究科
	飯能信用金庫	はんしんビジネスカレッジ「竹林舎」さいたま事業（第7期）	ビジネスデザイン研究科
	武蔵野銀行	産学連携プロジェクト	観光学部
	岩手県陸前高田市	中学生イングリッシュ・キャンプ運営業務	異文化コミュニケーション学部
	株式会社ROOM	体力測定事業及び機能性睡眠グッズ開発に関しての科学的根拠に基づく開発・サービス導入及び販売促進	ウエルネス研究所
	デロイトトーマツベンチャーサポート株式会社	小中高大学院一貫アントレプレナーシップ教育の研究と実践	ビジネスデザイン研究所
	一般社団法人小金井市観光まちおこし協会	小金井市内の空き地の利活用方法の検討・実施・効果検証・報告書作成業務	観光学部
	一般社団法人 DMO 川越	令和 6 年度 川越観光ワークショップ運営業務	観光学部
	日本電気株式会社	豊島区におけるウェルビーイングデータ等を活用した地域コミュニティ施設の価値向上事業に関する委託業務	コミュニティ福祉学部
2025 年度	飯能信用金庫（さいたま）	はんしんビジネスカレッジ「竹林舎」さいたま事業（第8期）	ビジネスデザイン研究科
	飯能信用金庫	はんしんビジネスカレッジ「竹林舎」事業（第18期）	ビジネスデザイン研究科
	デロイトトーマツベンチャーサポート株式会社	小中高大学院一貫アントレプレナーシップ教育の研究と実践	ビジネスデザイン研究所
	Kiwi PR合同会社	観光産業におけるカスタマーハラスメント対策研究	ビジネスデザイン研究所
	武蔵野銀行	産学連携プロジェクト	観光学部 スポーツウエルネス学部
	一般社団法人小金井市観光まちおこし協会	小金井市内の空き地の利活用方法の検討・実施・仕組み案・報告書作成業務	観光学部
	一般社団法人 DMO 川越	令和 7 年度 川越観光のころえ策定支援業務	観光学部
	コクヨ株式会社	地域コミュニティの地域防災力変換 検証プロジェクト	コミュニティ福祉学部
	陸前高田市	中学生イングリッシュ・キャンプ運営業務	異文化コミュニケーション学部
	山形県長井市	令和 7 年度スポーツウエルネス連携業務	スポーツウエルネス学部

3.自治体・企業等との各種協定例

自治体・企業等との各種協定一覧（2025年度時点）

No	協定日	本学	協定先	内容
1	2002年7月30日	大学	東京都新宿区	商工施策に関する協定
2	2007年7月23日	大学	株式会社武蔵野銀行	産学連携に関する業務連携・協力に関する協定書
3	2007年11月19日	大学	東京都豊島区	豊島区と区内大学との連携・協働に関する包括協定書
4	2010年10月25日	大学	埼玉県新座市	新座市と立教大学との連携協力に関する包括協定書
5	2010年11月3日	コミュニティ福祉学部	山形県高畠町	連携および交流に関する協定書
6	2011年5月1日	大学	公益財団法人東京都歴史文化財団 東京芸術劇場	各々の施設の活性化および各種催事を通じ、東京都における芸術文化振興に寄与を目的とした協定
7	2011年8月29日	大学	埼玉県	埼玉県と立教大学との相互協力・連携に関する協定書
8	2012年5月23日	大学	岩手県陸前高田市	陸前高田市と立教大学との連携及び交流に関する協定書
9	2013年10月30日	学院	東京都豊島区	帰宅困難者対策の連携協力に関する協定
10	2015年3月15日	大学	埼玉大学	相互協力・連携協定
11	2015年4月22日	観光学部	道の駅	就労体験型実習の基本協定
12	2015年～2016年	大学	福井県、福岡県、福島県、熊本県、栃木県	Uターン就職支援協定
13	2016年1月19日	大学	岩手県陸前高田市、岩手大学	陸前高田市、岩手大学及び立教大学における地域創生・人材育成等の推進に関する相互協力及び連携協定書
14	2016年3月22日	大学	横浜国立大学	相互協力・連携協定
15	2016年6月7日	ESD研究所	長崎県対馬市	ESD研究連携に関する覚書
16	2016年10月25日	ESD研究所	北海道羅臼町	ESD研究連携に関する覚書
17	2016年11月14日	ESD研究所	静岡県西伊豆町	ESD研究連携に関する覚書
18	2017年5月1日	社会デザイン研究所	茨城県境町	研究連携に関する覚書
19	2017年7月4日	大学	西武ライオンズ	連携協力に関する基本協定
20	2017年8月4日	大学	日本身体障がい者水泳連盟	連携協力に関する包括協定
21	2017年8月4日	大学	日本知的障害者水泳連盟	連携協力に関する包括協定
22	2017年12月14日	ESD研究所	長野県飯田市	ESD研究連携に関する覚書
23	2019年4月1日	大学	聖路加国際大学	包括協定
24	2019年11月1日	大学	聖路加国際大学	医療的な支援および協力に関する協定
25	2019年12月1日	大学	株式会社大和総研	人工知能・データサイエンス分野等における包括的な教育研究協力
26	2020年4月30日	大学	株式会社ビズリーチ	人工知能分野等に関する包括的な教育研究協力についての協定
27	2020年7月1日	学院	学校法人立教女学院	相互協力・連携協定締結
28	2021年3月29日	大学	国立大学法人金沢大学	連携・協力に関する協定
29	2022年4月18日	ESD研究所	福島県南会津郡檜枝岐村	ESD研究連携に関する覚書
30	2022年8月22日	ESD研究所	静岡県松崎町	ESD研究連携に関する覚書
31	2022年7月25日	ビジネスデザイン研究科	NTTデータ経営研究所	教育研究協力に関する協定
32	2022年11月16日	大学	公益社団法人セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン	包括的教育研究協力に関する協定
33	2024年3月26日	大学	エヌ・ティ・ティ・スポーツコミュニティ株式会社（大宮アルディージャ）との相互協力・連携に関する包括協定	相互協力・連携に関する包括協定
34	2024年5月7日	大学	同志社大学	相互協力・連携に関する協定
35	2024年10月14日	スポーツウエルネス学部	山形県長井市	相互協力・連携に関する包括的協定
36	2024年12月23日	コミュニティ福祉学部	福井県鯖江市及び 福井県立鯖江高等学校	相互連携協定
37	2025年2月20日	大学	酪農学園大学	環境学分野における相互協力・連携に関する協定
38	2025年3月21日	スポーツウエルネス学部	東京ヴェルディ	相互協力・連携に関する包括的協定

自治体・企業等の寄付講座一覧（2025年度時点）

No	設置箇所	寄附者	科目名
1	ビジネスデザイン研究科	巢鴨信用金庫	コンサルティング・メソッド1 コンサルティング・メソッド2
2	ビジネスデザイン研究科	ランドマーク税理士法人	租税論1 租税論2
3	ビジネスデザイン研究科	一般社団法人ビジネスプロセス・アーキテクト協会	経営とデジタル
4	ビジネスデザイン研究科	一般社団法人日本データビジネス協会	データサイエンス基礎
5	ビジネスデザイン研究科	一般社団法人日本データビジネス協会	デジタル・ビジネスプランニング
6	ビジネスデザイン研究科	株式会社博報堂	ブランドデザイン
7	ビジネスデザイン研究科	株式会社NTTデータ経営研究所	DX経営
8	ビジネスデザイン研究科	株式会社ユニゾン・ホールディングス	DX戦略論 1 DX戦略論 2
9	ビジネスデザイン研究科	公益財団法人日本デザイン振興会	デザイン経営
10	ビジネスデザイン研究科	株式会社日立製作所	ソーシャルイノベーションデザイン
11	ビジネスデザイン研究科	株式会社NTTデータ数理システム	マーケティングサイエンス
12	ビジネスデザイン研究科	株式会社NTTアーバンソリューションズ総合研究所	街づくりデザイン
13	ビジネスデザイン研究科	一般社団法人日本データビジネス協会	IT産業論
14	経営学研究科	パーソルグループ (パーソルホールディングス株式会社)	戦略的的人資源管理 戦略的人事実務論
15	経済学部	立教税理士会	企画講座 3（租税と税理士制度）
16	観光学部	株式会社エヌ・ティ・ティ・データ	観光IT戦略論
17	観光学部	一般社団法人日本経済団体連合会	経団連インターンシップ
18	観光学部	株式会社ANA総合研究所	交通産業特論
19	観光学部	立教観光クラブ	観光ビジネス概論
20	立教セカンドステージ大学	公益財団法人 トラスト未来フォーラム	信託機能を活用した社会貢献・財産管理

4.社会貢献

活動地域	活動項目
池袋	豊島区が実施している「としまコミュニティ大学」への講義の提供、異文化コミュニケーション学部による「立教日本語教室」、理学部による「おもしろサイエンスワールド」など、積極的に連携を図っています。アートイベント「池袋モンパルナス回遊美術館」では、旧江戸川乱歩邸の公開や、本学公認団体による作品展示会、似顔絵描き等の企画を提供しています。
新座	新座キャンパスは開設当初より「地域に開かれたキャンパス」を標榜し、新座市民のための公開講座やクリスマスコンサート、市の児童のための自然や防災の体験教室や体育会学生による「立教スポーツ教室」など活発な地域連携を行っています。また、新座市の事業に協力し、生活保護受給世帯や生活困窮世帯の子どもを対象とした高校進学のための学習教室をキャンパスの教室で行っています。
陸前高田 ・ 東北	2003年9月から正課外教育プログラム・林業体験を通して友好関係を深めていた岩手県陸前高田市を、東日本大震災を受けて2011年6月に「重点支援地域」に指定しました。2012年5月には同市と多様な分野で包括的に連携・協力する協定を締結、現在は陸前高田高等職業訓練校に交流拠点「立教大学陸前高田サテライト」を設置し、陸前高田市をフィールドとした多様な正課・正課外教育プログラムを実施しています。

社会連携・地域連携

本学による様々な取組をご紹介します。

以下QRコードからご覧いただけます。



5.生涯学習

立教セカンドステージ大学	50歳以上のセカンドステージ世代を対象として「学び直し」「再チャレンジ」と「異世代共学」をサポートするために開設した新しい学びの場です。
旅行業講座	「総合・国内旅行業務取扱管理者試験」のための準備講座です。
ホスピタリティ・マネジメント講座	宿泊産業を中心とするホスピタリティ産業の経営実務全般に関する知識を効果的かつ理論的に学びます。
観光地経営専門家育成プログラム	観光地としてのあるべき姿を描き、革新的に再構築を図っていくための専門的な知識やスキルを持った人材「観光地経営専門家」を育成します。
ラテンアメリカ講座	スペイン語、ポルトガル語など語学だけでなく、ラテンアメリカ論や文学など、文化的背景を考慮に入れた科目がそろい、ラテンアメリカに関する総合的な学習が可能です。

TOPICS
1

立教サービ斯拉ーニング

実社会の現場での体験学習を通して学びを深めていく「立教サービスラーニング（RSL）」を全学部生対象の正課科目として開講しています。事前学習ののち、NPO・企業等の受入団体の支援・指導の下、社会で生起するさまざまな課題を題材とした学外活動を行います。

RIKKYO Learning Style の導入期・形成期・完成期に合わせて、講義系・実践系それぞれの科目（全学共通科目）が用意されています。

RIKKYO Learning Style の〈導入期・形成期・完成期〉に合わせて用意された講義系および実践系の科目



RIKKYO Learning Style 「専門性に立つ教養人の育成」

立教大学は、4年間の学生生活（学士課程）を授業だけではなく、サークルやボランティアなど、様々な活動と体系づけて考えており、そのため、学生生活を3つの期間〈導入期・形成期・完成期〉に分け、正課教育と正課外教育の両輪で支援していることが特長です。

■ 講義系科目

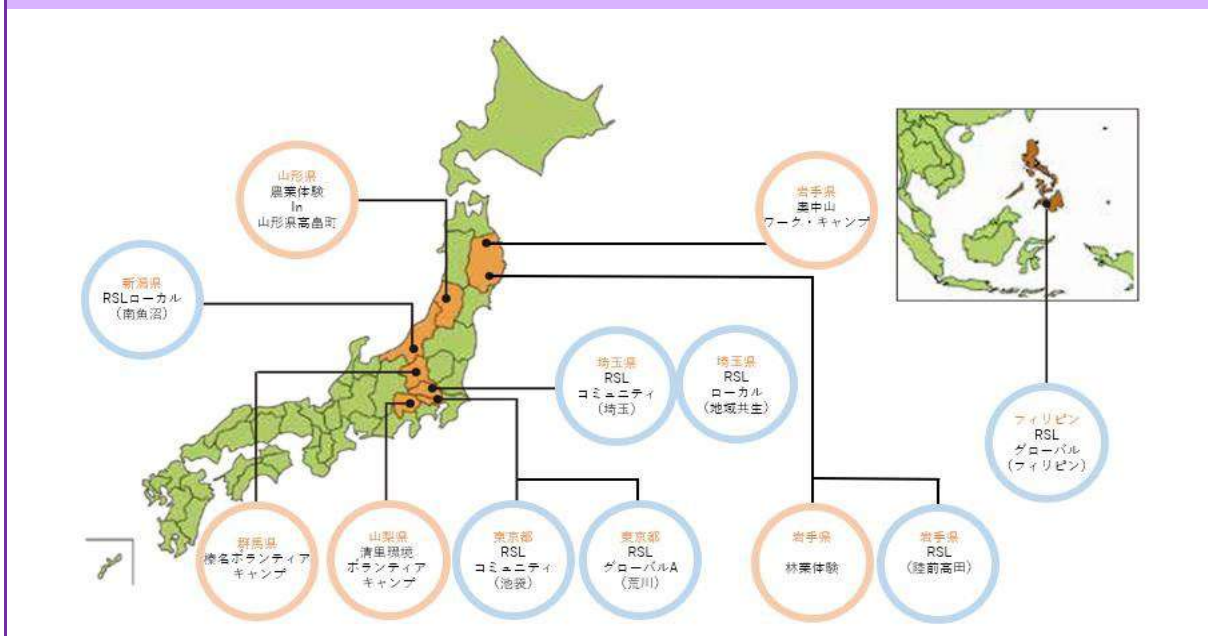
講義をもとにグループディスカッションや全体発表、そして実際にフィールドで活動している方からの話（市民生活の課題とその取り組みの報告）など、「座学」だけでは終わらない講義系科目群です。

■ 实践系科目

立教大学に在籍するすべての学生がともに語り、学びあうことができる「フィールド」として、単なる履修では終わらない社会とのつながりに積極的にチャレンジできる実践系科目群です。

立教サービスラーニング (RSL)・立教キャンプ Map

さまざまな場所で行われている RSL・ボランティアを見やすくマッピングしました。



TOPICS

2

「豊島区×立教大学 地域課題提言ワークショップ」

池袋キャンパスがある豊島区が抱える地域課題の解決に向けて、学生が調査やヒアリングを実施し、自治体や住民の皆様へ提言を行う課題解決型の正課外プログラム「豊島区×立教大学 地域課題提言ワークショップ」を2022年度から実施しています。2025年度は、豊島区政策経営部企画課を窓口により都市整備部公園緑地課から「豊島区立西池袋公園の今後の活用について」という課題をいただき、学生15名(3チーム)が約2ヶ月間取り組みました。2026年1月9日のオリエンテーションでは、豊島区担当者から豊島区の公園について、また公園を通じたまちづくりに関する様々な情報をご説明いただき、1月17日には、フィールドワークとして実際に西池袋公園に足を運び、豊島区担当者による説明のもと、現地の様子を見学しました。2月にはチームごとに希望する豊島区役所の各部署および豊島区内の団体・地域の方々にお話を伺い、ヒアリングで得た貴重な情報をもとに提案内容を深め、3月13日に最終報告会を行いました。

<学生の提案内容>

- ・西池袋公園でプレーパークの実施
- ・地下駐輪場の活用、公園で子どもたちを見守る立教生「公園のにいちゃん・ねえちゃん」の配置
- ・公園の植栽をはじめとする地域交流活動を行う立教大学サークル設立



TOPICS

3

「持続可能な開発目標（SDGs）」の推進

立教大学は、「専門性に立つグローバル教養人」として、環境破壊や難民問題、経済格差などの世界的な問題に対し、広い視野に立って課題を発見・解決できるグローバルリーダーを育成しています。SDGsの17の持続可能な開発目標は、国際的に取り組むべき課題の解決を導くものです。本学で学んだグローバルリーダーたちが、将来もこの課題に積極的に応えてくれることを願います。

立教サービスラーニング科目として、「カーボンニュートラル人材育成講座」や「RSL- ローカル（地域共生）」等、SDGsやカーボンニュートラルに関連する科目を展開しています。

様々な活動例

陸前高田プロジェクト



東日本大震災で甚大な被害を受けた岩手県陸前高田市の現状を知り、現地の方と復興に向けた課題を共有するプログラム。

4泊5日の現地研修、事前・事後研修を実施する。米国スタンフォード大学、香港大学、シンガポール国立大学の海外有力大学の学生が参加する国内唯一のコラボレーションプログラム。共に学び協働作業をする中で、英語を使ったコミュニケーション能力のみならず、広く多様な視点から課題に向き合い発信する力を身に付けます。

RSLローカル（南魚沼）

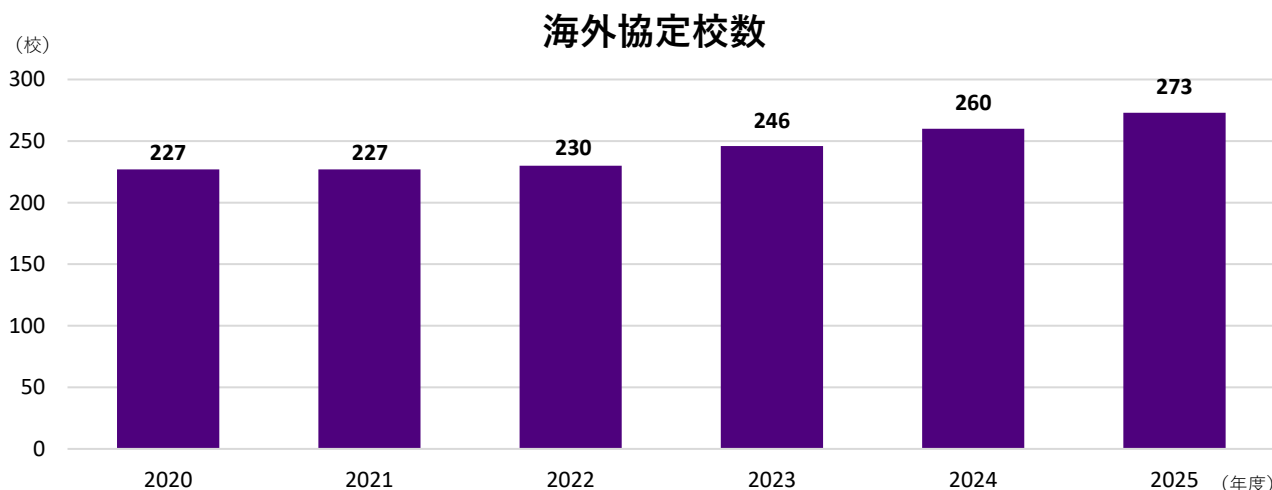


南魚沼地域（析窪集落）はその「場」にしかない四季折々になる豊かな自然の表情と食の恵みを私たちに与えてくれます。一方で現代日本の社会的な課題の一つである過疎・高齢化の問題にも直面しています。

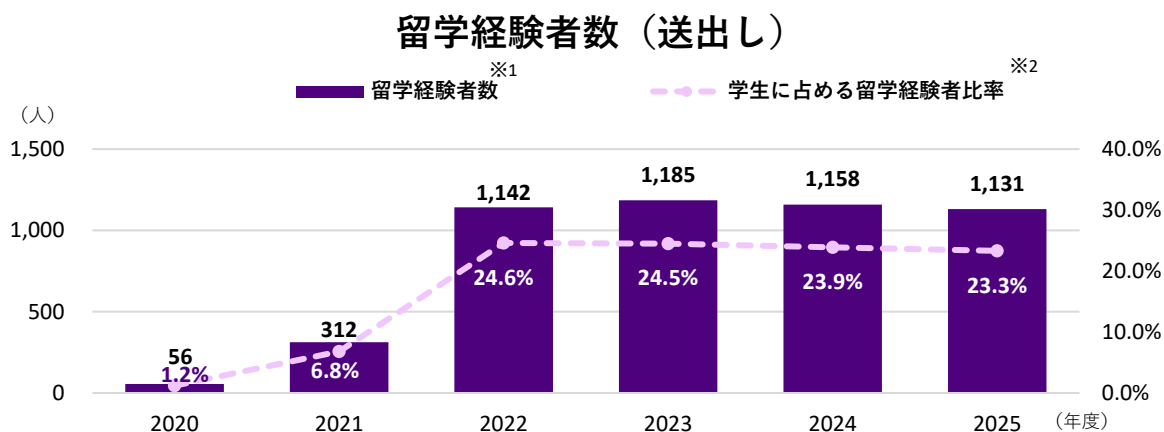
この授業では、過疎高齢化の進む農村での伝統知や地域文化や生活に触れ、体験的な学習を通して、現代社会の構造を知り、自然と人間の関係や本質的な豊かさについて問い直し、持続可能な社会の実現について考えます。

V 国際化

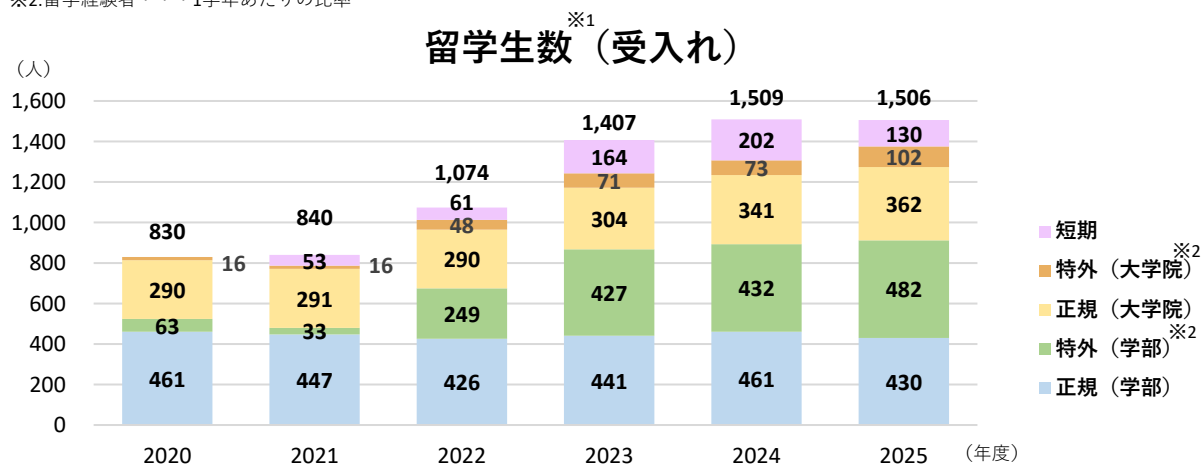
1. 協定校数



2. 送出し・受入れ



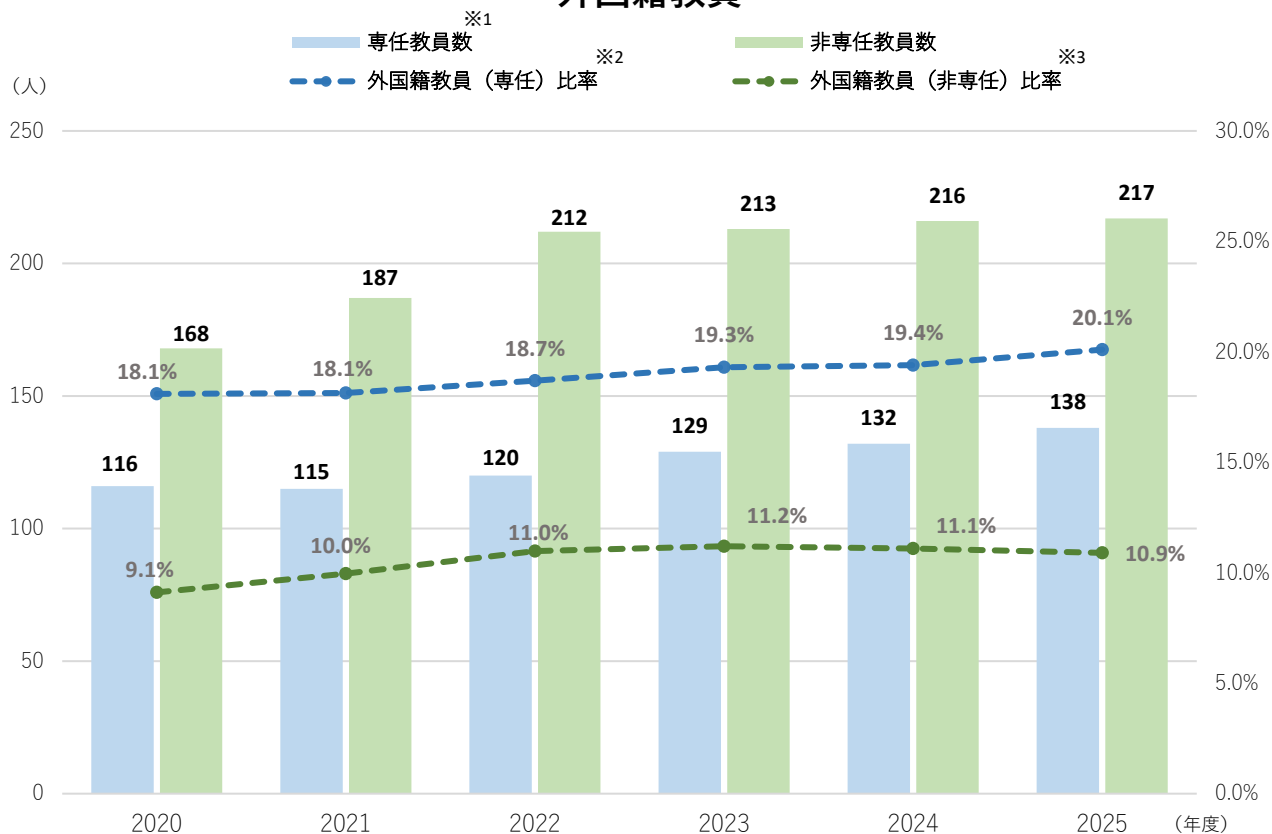
※1: 留学経験者・・・延べ数、正課外含む
 ※2: 留学経験者・・・1学年あたりの比率



※1: 留学生・・・正規・特外（特別外国人学生の略称、認定国からの交換留学生）・短期プログラム
 ※2: 特外・・・特別外国人学生の略称、協定校からの交換留学生
 ※2020・2021年度は、COVID-19による影響を受け、送出し・受入れ共に減少しています。

3.教員

外国籍教員

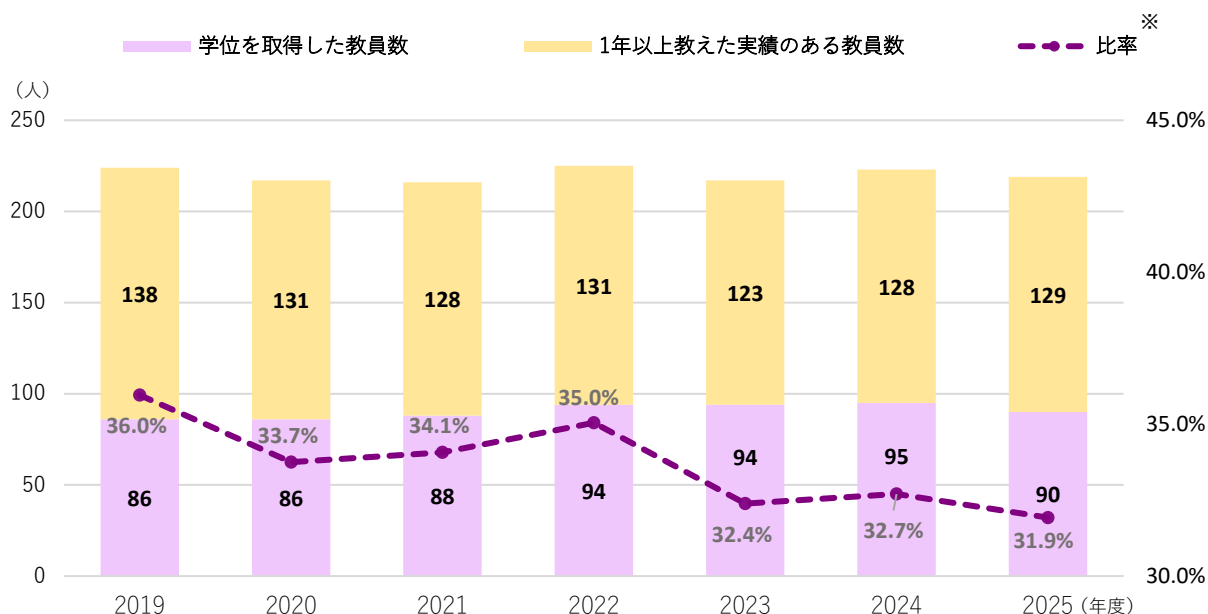


※1:専任教員・・・本校を本務校としている教員

※2:外国籍教員（専任）比率・・・専任教員のうち、外国籍教員の占める割合

※3:外国籍教員（非専任）比率・・・非専任教員のうち、外国籍教員の占める割合

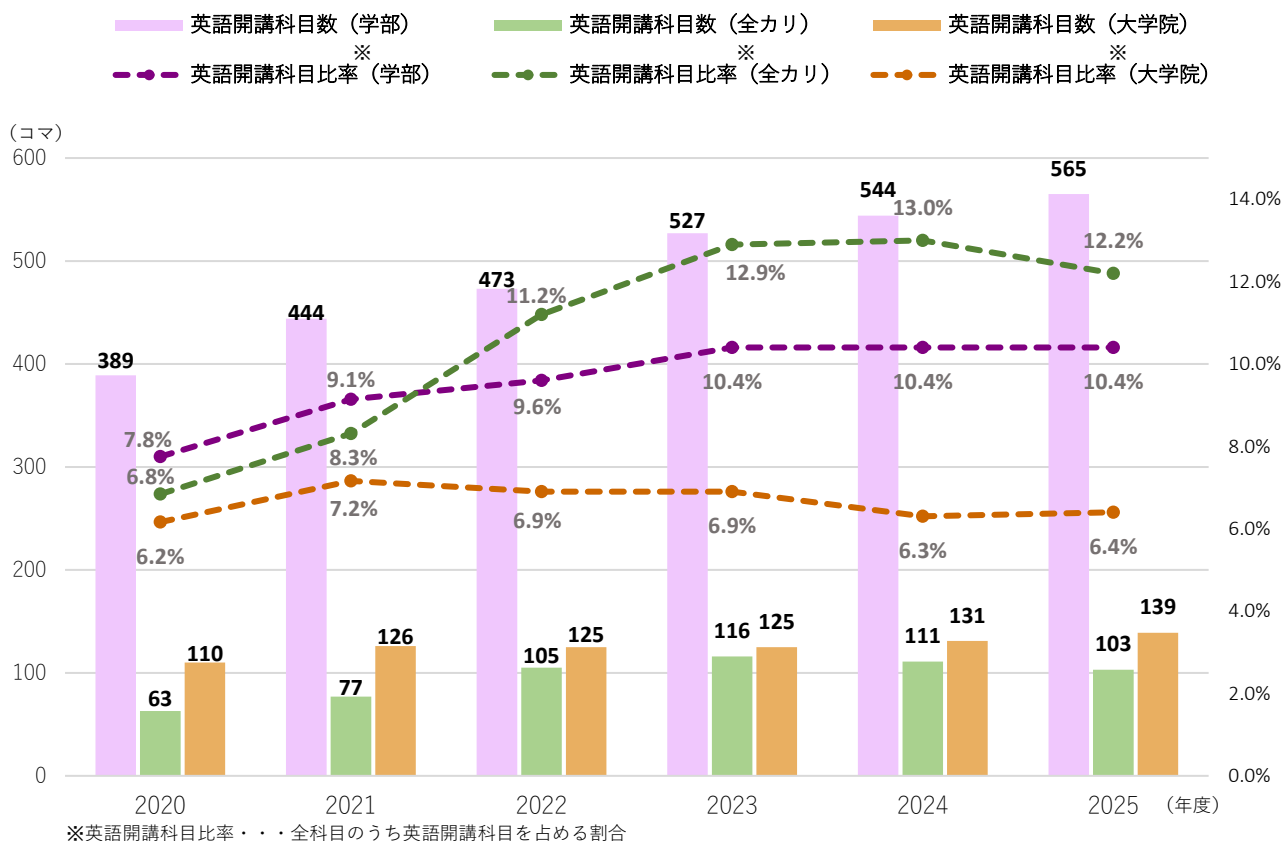
海外の大学で学位を取得した教員数 もしくは、海外の大学で1年以上教えた実績のある教員



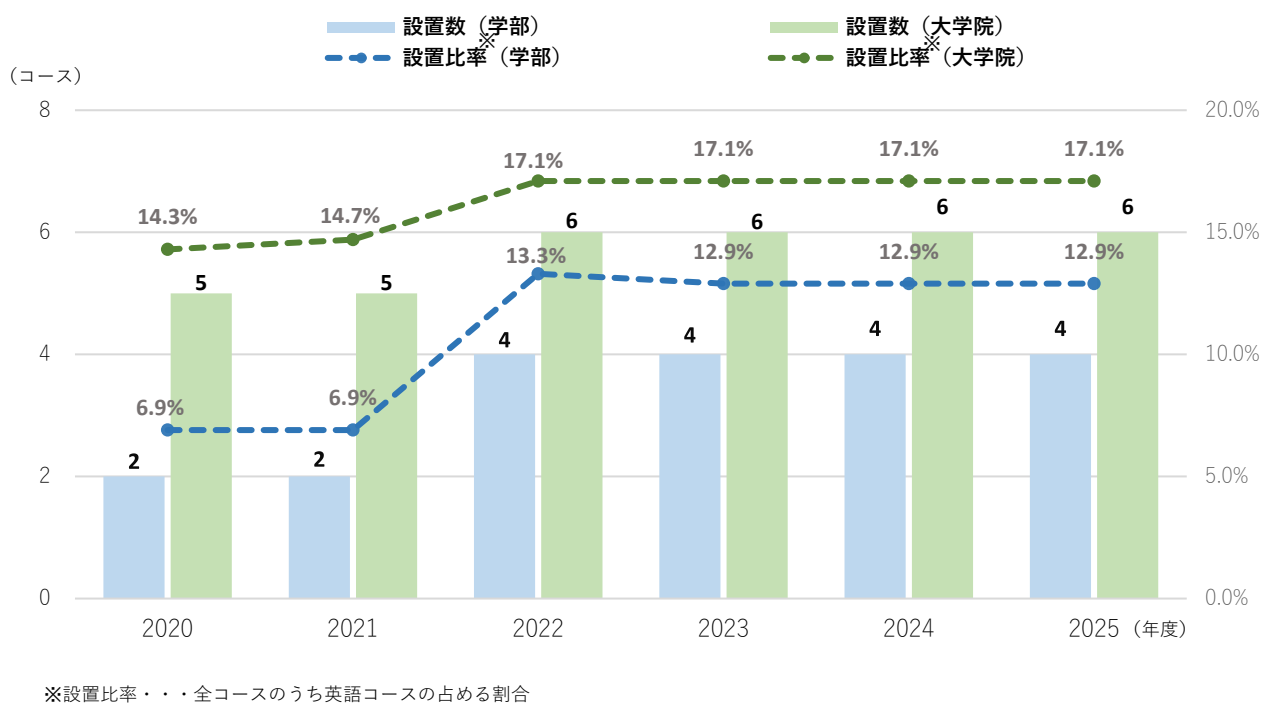
※比率・・・全専任教員数の中で、海外の大学で学位を取得した教員数もしくは、海外の大学で1年以上教えた実績のある教員の占める割合

4.カリキュラム

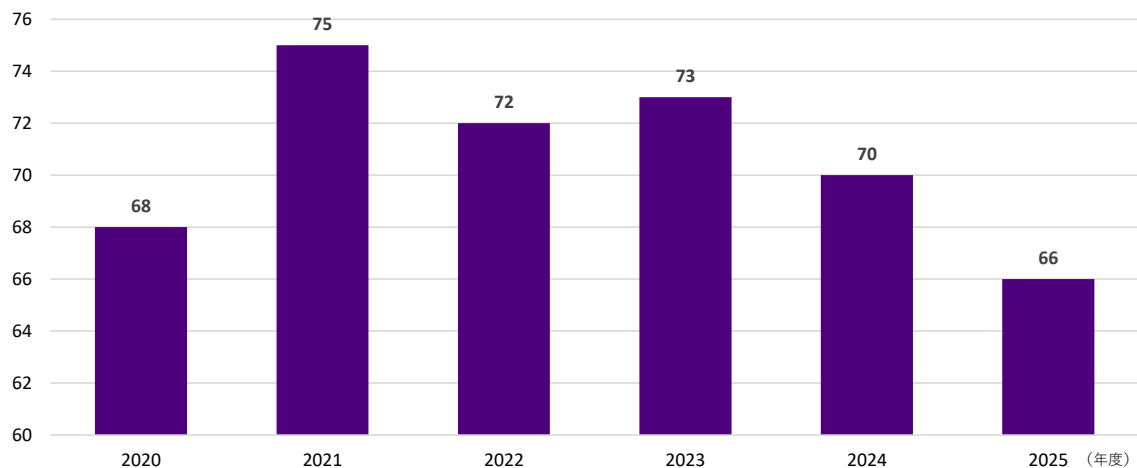
英語開講科目



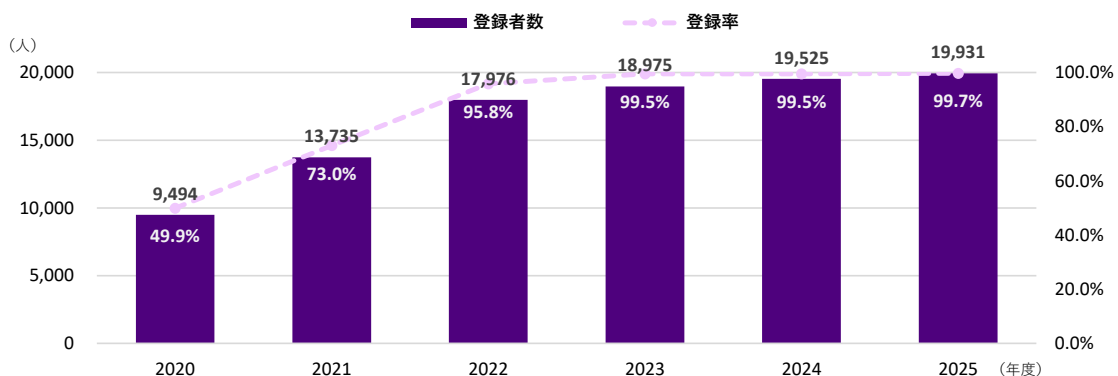
英語コース設置数



正課海外プログラム数



グローバル教養副専攻登録率



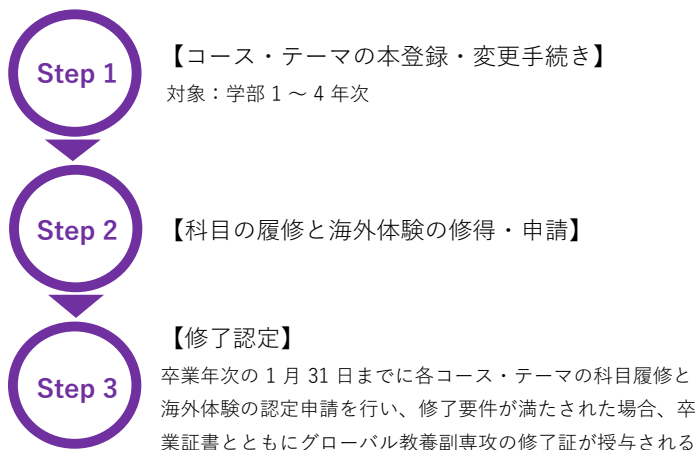
※2019年の入学者から、各学部が推奨するコースに全員初期登録を行うよう制度変更した。

KEY WORDS

グローバル教養副専攻

グローバルな視点に立った教養人の育成を目標とした全学部生対象の教育プログラムです。所属学部の専門性に加え、これからの社会で必要とされる、グローバルかつ多面的に物事を考える力を身につけるため、興味・関心に沿って学部横断的に学んでいきます。

■ 修了までの流れ



■ 選べる3つのコース

Arts & Science Course

幅広い知識と教養、総合的な判断力を養うコース

Language & Culture Course

より専門的な英語のスキルや、英語以外のさまざまな言語と文化を学ぶコース

Discipline Course

データ活用能力やリーダーシップなど、実践的なスキルを養うコース

新たな国際化戦略「Rikkyo Global 35」を策定

立教大学は、建学の精神に基づいた国際化を次のステージへと進め、「共生・共修」を軸とした次世代のグローバル教育モデルを確立します。伝統と革新が融合した、国際通用性のある教育研究を推進し、国際社会に貢献する人材を育成するため、2035年を見据えた新たなグローバル戦略「Rikkyo Global 35」をスタートさせます。

Rikkyo Global 35では、推進体制の強化と質保証、戦略的なプログラム開発と連携を軸として、今後10年間でさらなる発展を遂げるため、以下16項目の目標を設定しています。

I. 国際化推進体制の強化と質保証

- 1 国際化推進体制の確立
- 2 国際評価指標への対応
- 3 国際的ネットワークの活用
- 4 教育の国際標準化と質保証
- 5 人的資源の強化
- 6 留学生受け入れ体制の強化
- 7 先進的な技術の活用

II. 戦略的なプログラム開発と連携

- 1 国際社会に求められる教育プログラム開発
- 2 国際共修プログラムの戦略的整備
- 3 グローバル体験機会の拡大
- 4 海外派遣の推進と機会確保
- 5 日本語教育体制の整備
- 6 連携効果を最大化する国際協定の戦略的適正化
- 7 在学生に占める留学生比率10%の実現
- 8 グローバル基幹力とキャリア支援
- 9 地域・産業との連携強化

TOPICS

1 国際交流の実績

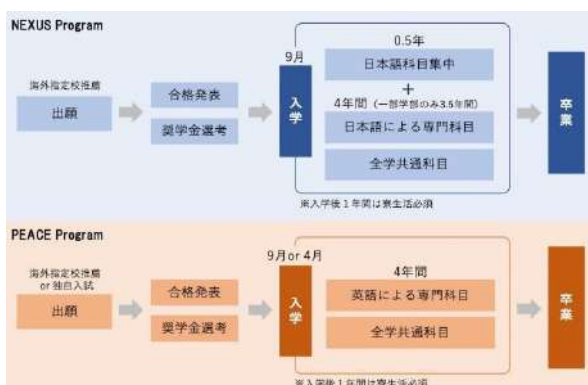
世界各国での協定校拡充や海外での広報活動の成果として、2025年度には1,506人の留学生を受け入れました。また、多様な海外派遣プログラムを通じて、2025年度にはのべ1,131人が海外に渡航しました。

TOPICS

2 英語で学位が取れるプログラムの充実

2017年に開設したGlobal Liberal Arts Program (GLAP)に加え、2022年よりRikkyo Study Project (RSP)のもと、PEACE Programを開始しました。PEACE Programは、異文化コミュニケーション学部、法学部、GLAPが展開する、英語により学位取得が可能なプログラムです。2025年度までに多様な国・地域から、49名の学生を受け入れてきました。

大学院においても、英語コースの充実を図っており、経営学研究科国際経営学コース、経営学研究科公共経営学コース、異文化コミュニケーション研究科TESOLプログラム、社会デザイン研究科公共・社会デザイン学コースで英語によるプログラムを実施し、世界各国から来た多くの留学生が立教大学で学んでいます。



TOPICS
3

ACE プログラム –大学の世界展開力強化事業–

創立時から受け継がれる立教大学の国際性は、2014年度の文部科学省「スーパーグローバル大学創成支援事業」の採択に続き、2021年度に本学を含むアジア4大学の連携事業である「ACEプログラム」が文部科学省の「大学の世界展開力強化事業～アジア高等教育共同体形成促進～」に採択されるなど、歩みを止めることなく進化を続けています。

立教大学は、アジア最高峰の大学である、ソウル大学校自由専攻学部（The College of Liberal Studies, Seoul National University）、北京大学元培学院（Yuanpei College, Peking University）、シンガポール国立大学NUSカレッジ（NUS College, National University of Singapore）とともに国際共同教育のためのコンソーシアムを形成するために、東アジア・ASEANにおけるリベラルアーツ教育の発展を共同で目指す協定を結びました。

このACEプログラムを含む取り組みは、文部科学省が選定する「大学の世界展開力強化事業～アジア高等教育共同体形成促進」の2021年度新規採択事業として選定され、2025年度末をもって無事に採択期間を終了いたしました。

すでに採択期間は終了していますが、本事業は国際共同副専攻のスタンダードとなることを目指しており、4大学共通のカリキュラム、成績証明書、ルーブリック、オンライン科目の提供等、野心的な取り組みが実施されました。現在は、この取り組みの更なる発展のため、事業の振り返りと精査を行

っているところです。

既存の4大学は引き続きコンソーシアムの継続を確認しており、2026年度は一時的に規模を縮小していますが、インテンシブプログラムの開催や交換留学の受入を継続して行っています。

ACEプログラムを通して構築した質保証の仕組みは、2大学以上の連携による国際共同副専攻の事実上の国際的な標準となることが期待されます。国際標準として信頼と注目を集めるためには、既存協定校に加えて、アジアにおいてリベラルアーツを牽引する大学（学部）との連携を進めることが必要となります。今後は、新たなパートナー大学との提携を目指し、国際的な質保証と影響力を持つコンソーシアムになることを目指します。



TOPICS
4

新たな国際交流寮「REH池袋」が誕生

大学の新たな専用寮として「Rikkyo Edification Hall 池袋（REH池袋）」を竣工しました。RIR 椎名町、RUID 朝霞台、RUID 志木に続く4棟目の国際交流寮で、2025年3月末より利用を開始しました。

協定校からの交換留学生（特別外国人学生）、GLAP生、PEACEプログラム生などが入居し、外国人留学生の日々の生活をサポートするレジデント・サポーター※の学生も共に居住することで、寮生活の中で国際交流を深めています。

※レジデント・サポーター

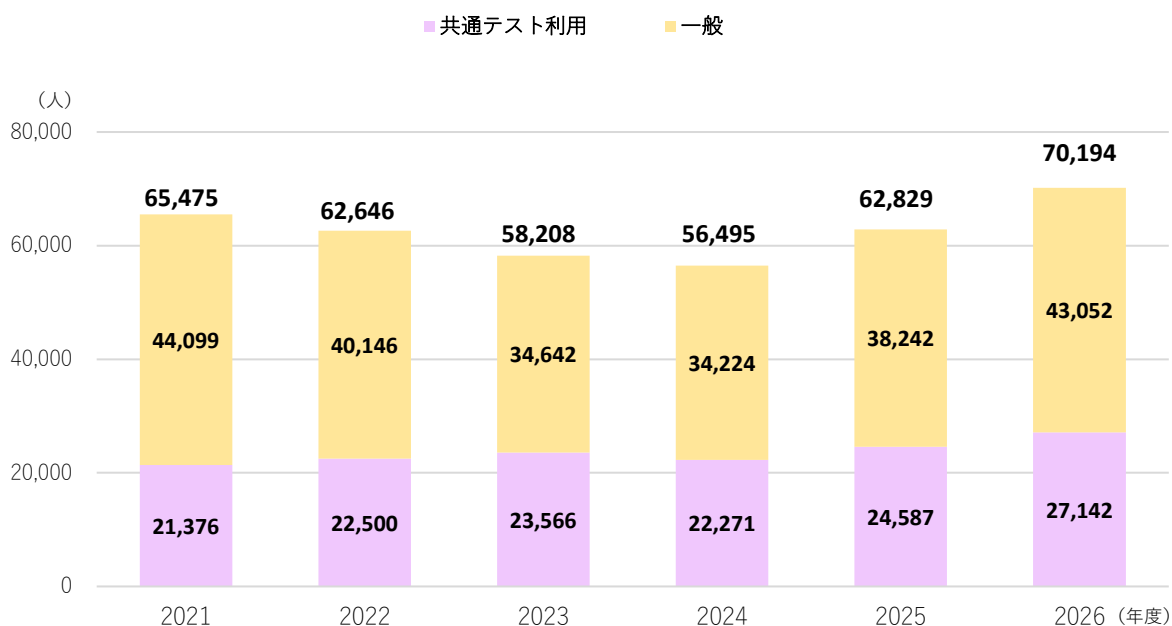
立教大学では、国際交流寮に居住しながら外国人留学生の日々の生活をサポートするレジデント・サポーター（RS）制度を設けています。RSとして留学生と共同生活を送り、彼らを支援する経験は、国際感覚や外国語運用能力、異文化理解力の向上にもつながっています。



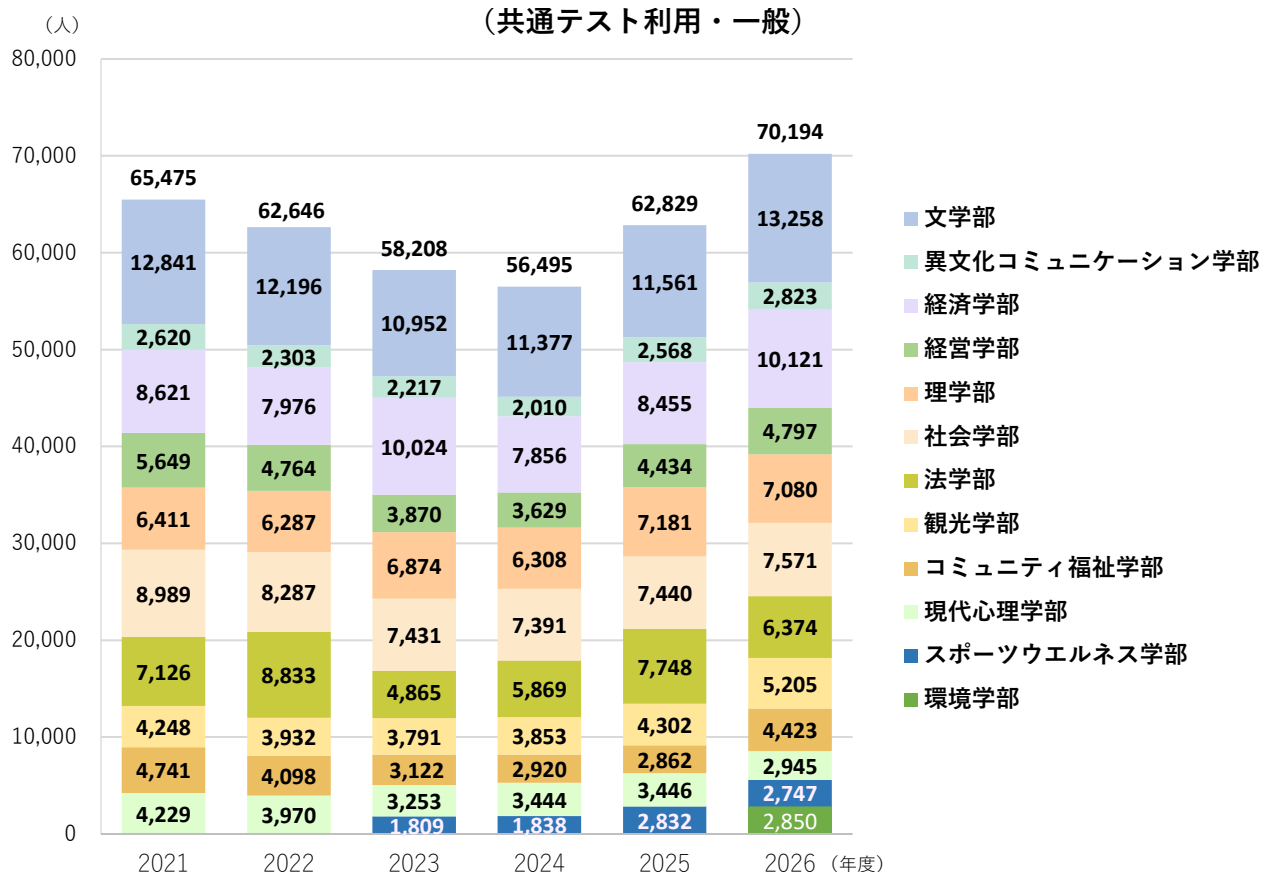
VI 入試

1.入試

全学 入試種別 志願者数



学部別志願者数 (共通テスト利用・一般)



※すべて述べ人数を集計しています。

都道府県別志願者数・合格者数（2026年度 一般入試）

都道府県		志願者数	合格者数
北海道		448	77
東北地方	青森県	50	4
	岩手県	64	12
	宮城県	223	32
	秋田県	47	10
	山形県	53	9
	福島県	144	21
関東地方	茨城県	1,331	216
	栃木県	461	64
	群馬県	498	83
	埼玉県	6,937	1,373
	千葉県	4,604	965
	東京都	16,580	3,221
	神奈川県	6,537	1,234
中部地方	新潟県	330	54
	富山県	81	9
	石川県	106	12
	福井県	28	5
	山梨県	277	37
	長野県	418	59
	岐阜県	89	13
	静岡県	754	112
	愛知県	660	130
都道府県		志願者数	合格者数
近畿地方	三重県	91	13
	滋賀県	13	6
	京都府	77	13
	大阪府	182	19
	兵庫県	146	25
	奈良県	35	6
	和歌山県	31	2
中国地方	鳥取県	20	0
	島根県	24	5
	岡山県	104	15
	広島県	176	25
	山口県	50	4
四国	徳島県	21	4
	香川県	69	10
	愛媛県	57	8
九州	高知県	29	4
	福岡県	360	34
	佐賀県	65	6
	長崎県	27	4
	熊本県	101	13
	大分県	28	1
	宮崎県	41	1
	鹿児島県	110	16
	沖縄県	244	46

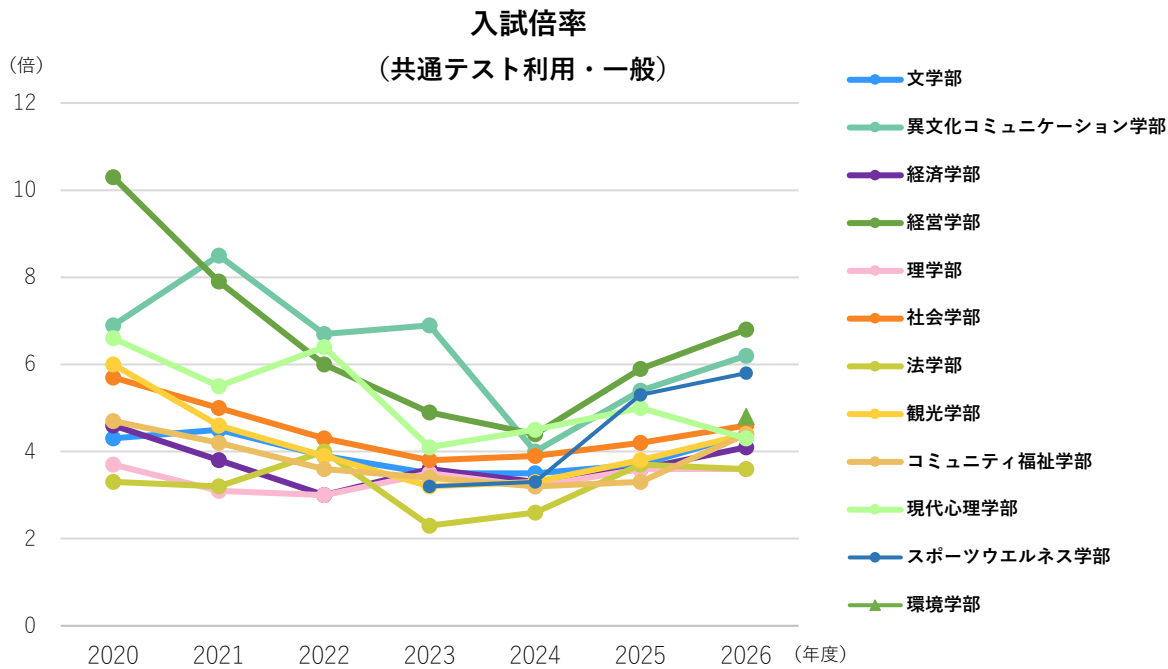
…志願者数1,000人以上

…志願者数100人以上

2026年度 一般入試 地方別志願者・合格者 構成比率

地方	志願者数（人）	合格者数（人）	志願者構成比率	合格者構成比率
北海道	448	77	1.0%	1.0%
東北地方	581	88	1.4%	1.1%
関東地方	36,948	7,156	86.3%	89.1%
中部地方	2,743	431	6.4%	5.4%
近畿地方	575	84	1.3%	1.0%
中国地方	374	49	0.9%	0.6%
四国	176	26	0.4%	0.3%
九州・沖縄	976	121	2.3%	1.5%

※すべて述べ人数で集計しています。併願している場合には、当該受験者の都道府県に、併願数分カウントしています。
都道府県は、出身高校の所在地をもとに集計しています。

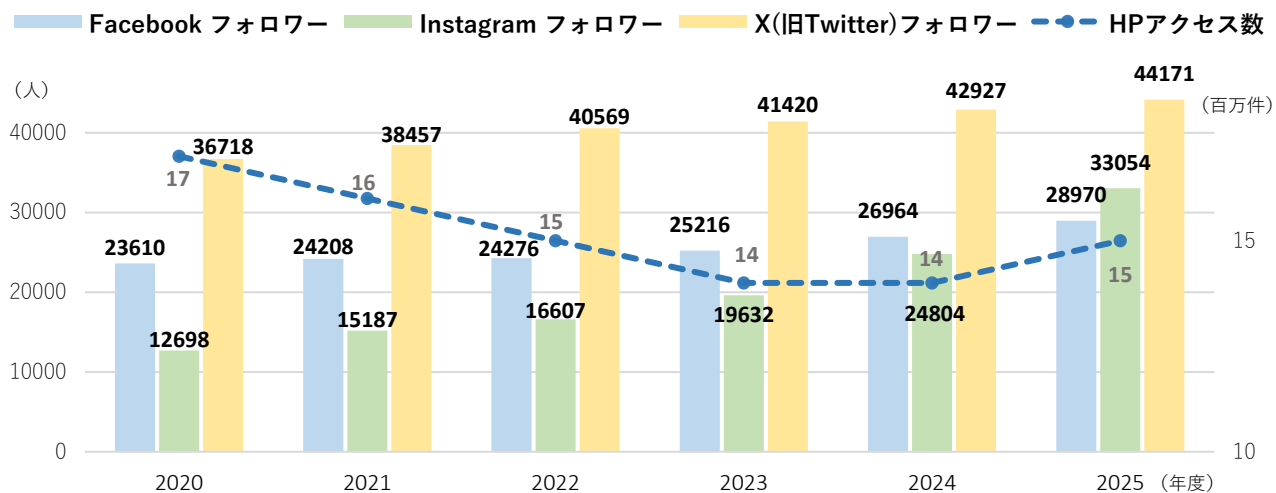


※倍率は「受験者数（志願者のうち、入試当日に出席した数）÷合格者数」で計算しています。
ただし、共通テスト利用については「志願者÷合格者数」で計算しています。（共通テスト利用は「受験者数＝志願者」としているため）

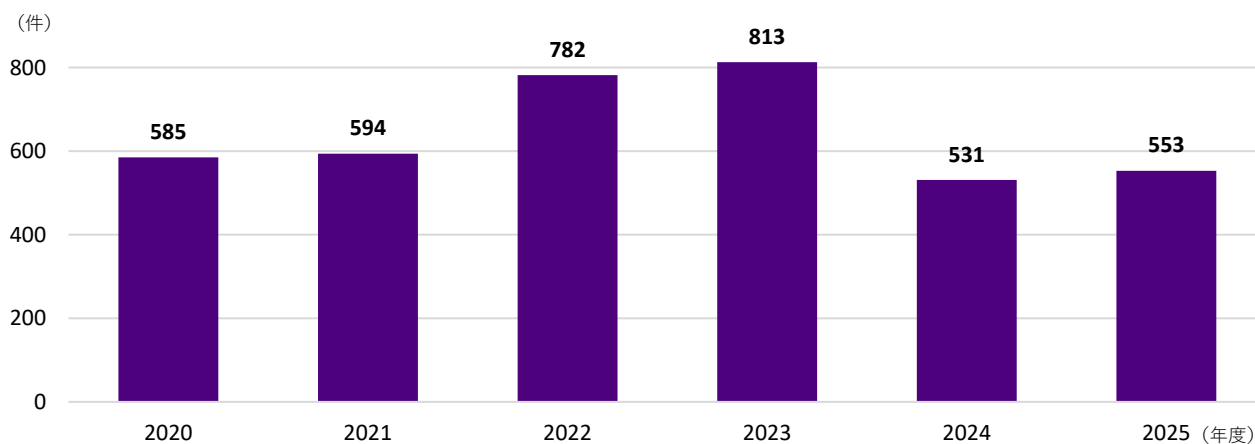
VII 広報・ブランドイメージ・ランキング

1. 広報活動

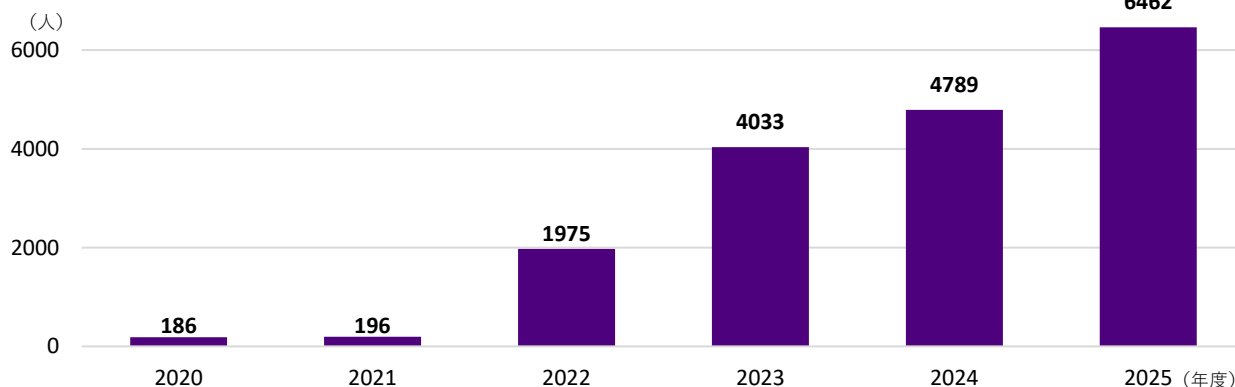
Webサイト・SNS



マスメディア 取材依頼件数



大学見学受入れ人数



※2020年度～2022年度のマスメディアの取材件数や大学見学の受入れ人数はCOVID-19の影響により減少しましたが、取材によりコロナ禍における学生学びやクラブ活動での活躍、入試制度や英語教育のカリキュラム改革など、本学の特徴的な話題が取り上げられ、WebサイトのアクセスやSNSフォロワー数も順調に増加しました。

2.ブランドイメージ・ランキング

日経BPブランドイメージ調査総合ブランド力 (2025年11月発表 対象者：学生の父母)	スコア 68.6点 順位 10位
THE 世界大学ランキング (2025年10月発表)	1501位+
	国内大学 52位タイ
	「国際性」スコア 国内大学4位 私立大学1位
THE アジア大学ランキング (2026年4月発表)	601+位
THE 日本大学ランキング※ (2025年4月発表)	総合40位 私立大学10位

※「THE 日本大学ランキング」は、2025年4月発行分で終了となりました。

KEY WORDS

THE (Times Higher Education)による大学ランキング

イギリスの高等教育専門週刊誌『タイムズ・ハイアー・エデュケーション』が2004年から毎年秋に公表している世界の大学ランキングです。

THE 世界大学ランキング 2026 は世界 115 の国と地域の約 2,000 以上の大学を対象としたランキングで、Teaching（教育）、Research environment（研究環境）、Research quality（研究の質）、International outlook（国際性）、Industry（産業）の5つのスコア（指標）から総合順位が決定されます。

今回のランキングで、本学は International outlook（国際性）のスコアで国内 4 位（私立大学では 1 位）と健闘しました。同指標は、自国籍学生に対する外国人留学生比率、自国籍教員に対する外国籍教員比率、国際共同論文の3点から構成されています。

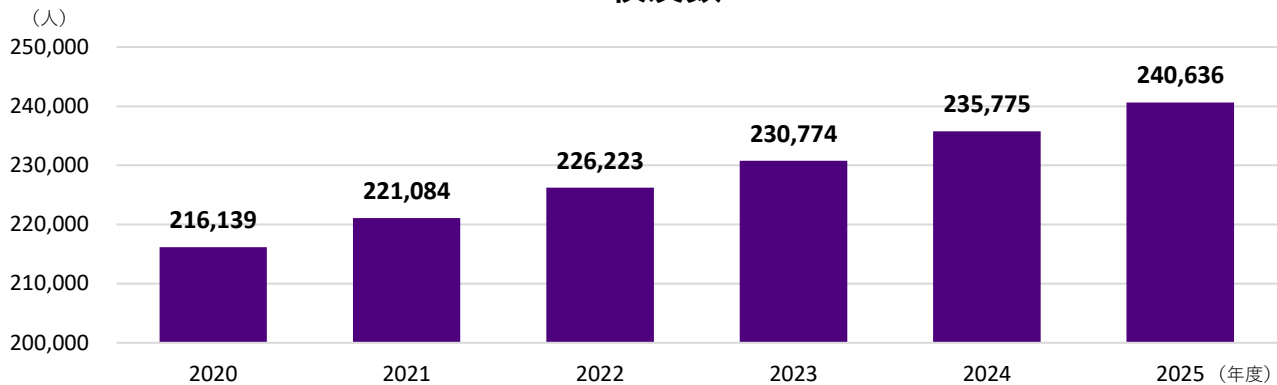
上位にランクインする大学のほとんどが医学系の学部を持つ中、本学の国内順位は 52 位タイでした。



VIII 校友

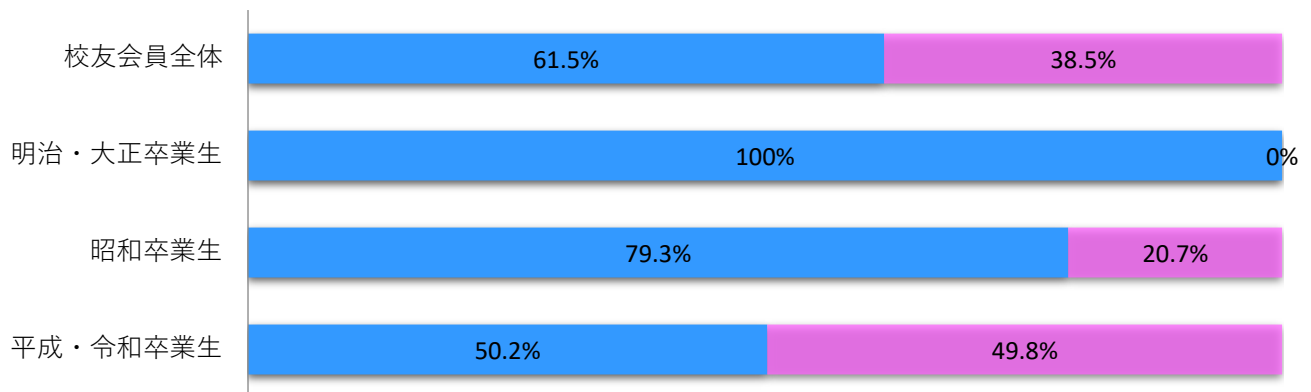
1. 卒業生

校友数

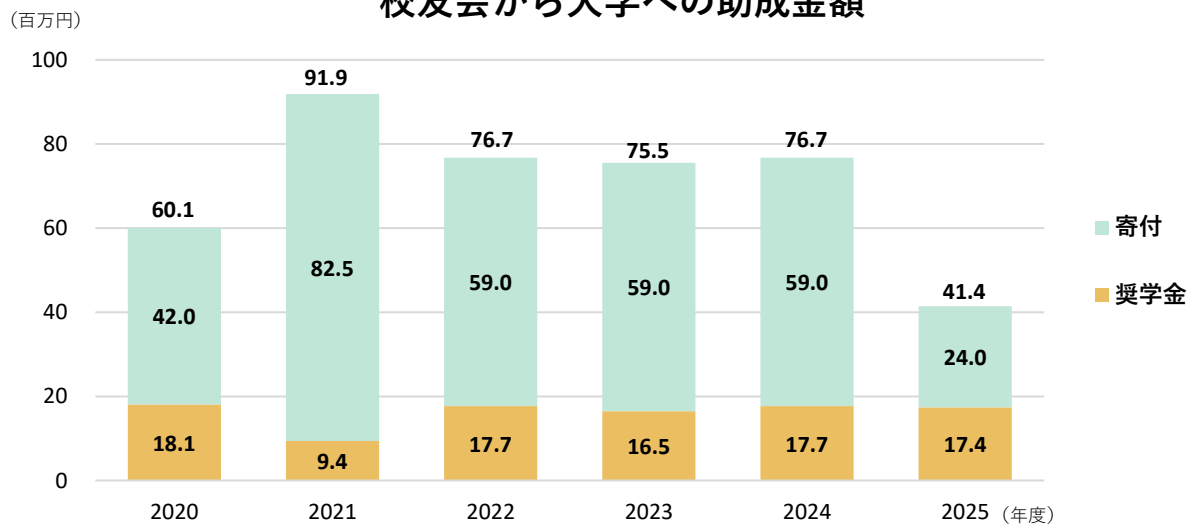


校友男女構成比

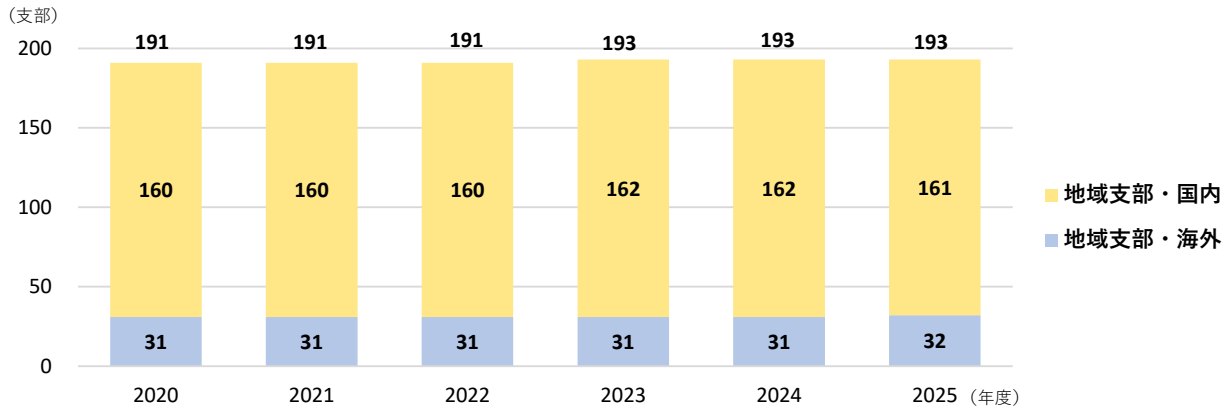
■ 男性 ■ 女性



校友会から大学への助成金額



地域支部立教会数



TOPICS

立教大学校友会

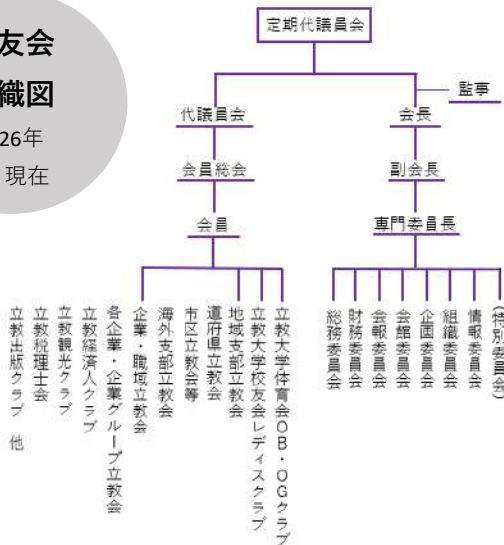
TOPICS 1

立教大学校友会とは

明治40（1907）年立教大学校友会が成立し、昭和14（1939）年立教大学同窓会として独立（昭和35（1960）年立教大学校友会と改称）以来、校友会は、立教大学（立教学校、立教大学校、大阪英和学舎、立教専修学校、東京英語専修学校、立教工業理科専門学校及び立教大学大学院）全卒業生・修了者をもって組織・構成されています。「会員相互の親睦を図り、立教大学の発展に寄与すること」を目的に、5月と3月の定期代議員会、会員総会、全国地域支部代表者会議、企業・職域立教会交流会、その他「地区校友の集い」、「年次別校友の集い」などの開催を行っています。

校友会 組織図

2026年
4月現在



2026年度開催予定行事

第88回会員総会・定期代議員会

（2026年5月16日（土））

第64回ホームカミングデー

（2026年10月18日（日））

卒業おめでとう祝賀パーティー

（2027年3月予定）

地区校友の集い

（2026年5月以降順次開催予定）

年次別校友の集い

（2026年12月12日（土）：卒業10～40周年）

（2027年3月17日（水）：卒業50～60周年）

立教大学校友会 公式 SNS

キャンパスの写真やイベントのお知らせを
発信しています。是非ご覧ください。



Facebook



Instagram



YouTube

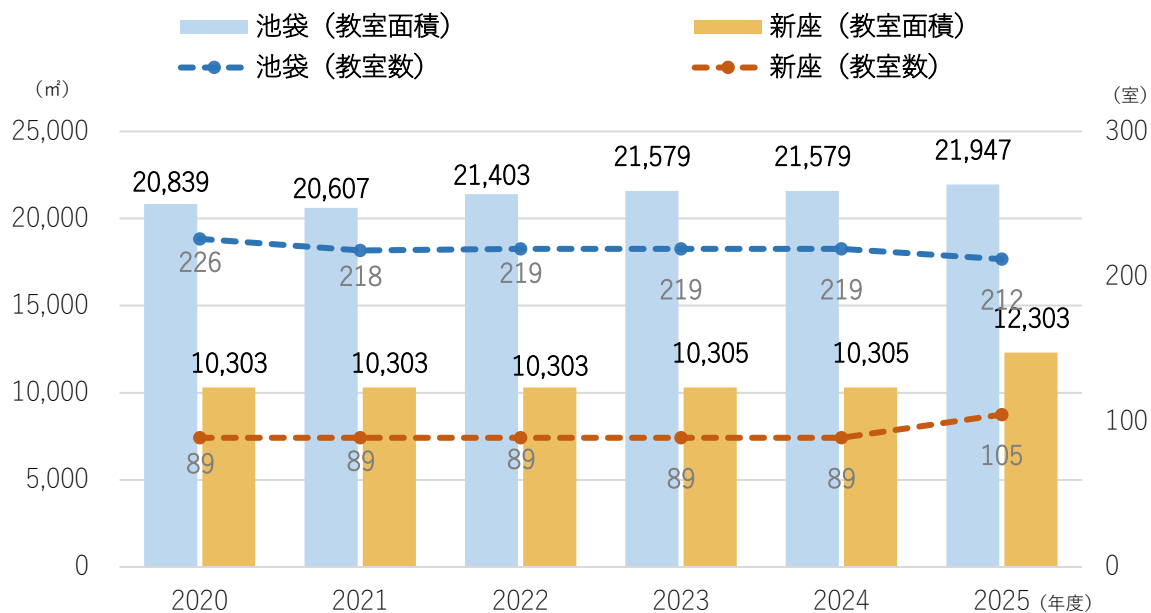


LINE

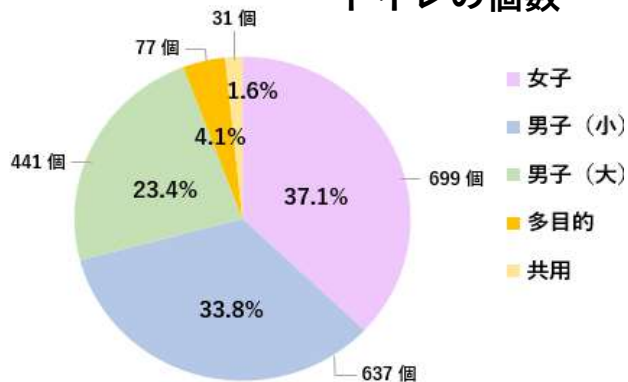
IX 大学運営

1.教育研究施設

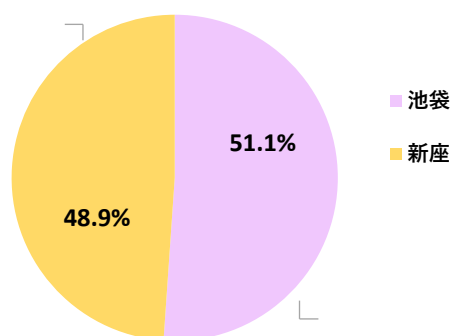
教室



トイレの個数



アメニティスペース面積



※アメニティスペース・・・ラウンジ、COMMONルーム等

食堂

キャンパス	建物名	階数	食堂名	面積（㎡）
池袋キャンパス	第一食堂	1F・2F	第一食堂	868
	5号館	B1F	レストラン アイビー	455
	9号館	1F	軽食堂	373
	12号館	1F	TULLY'S COFFEE	78
	ウィリアムズホール	2F	東京ハラルデリ＆カフェ	327
	セントポールズ会館	1F	日比谷松本楼セントポールズ会館店	169
新座キャンパス	4号館	1F	COMMONルーム	318
	4号館	1F	St.Pauls Cafe（こかげ）	465
	食堂棟	1F	Forest	1209
富士見総合グラウンド	クラブハウス	2F	食堂	170

※面積はホール・厨房を含みます。

耐震化率

キャンパス名・その他施設	耐震化率
池袋キャンパス	100%
新座キャンパス	100%
その他施設	100%
施設合計	100%

※その他施設・・・池袋キャンパス・新座キャンパス以外の課
外活動施設、研究施設、廃棄物保管庫、教
職員住宅

LED化率

キャンパス名	LED化率
池袋キャンパス	約50%
新座キャンパス	約50%



セントボールズ・アクアティックセンター



セントボールズ・フィールド

公認記録が取得できる体育施設

キャンパス名	施設名
新座キャンパス	セントボールズ・アクアティックセンター（SPAC）
	セントボールズ・フィールド

ツタの種類

ツタの種類	場所
テイカカヅラ	本館北側メーザーライブラリー記念館旧館側の一部、 2・3号館北面
キヅタ（フユヅタ）	本館北側礼拝堂側の一部、8号館北側
ナツヅタ	本館を含め、上記以外の全て



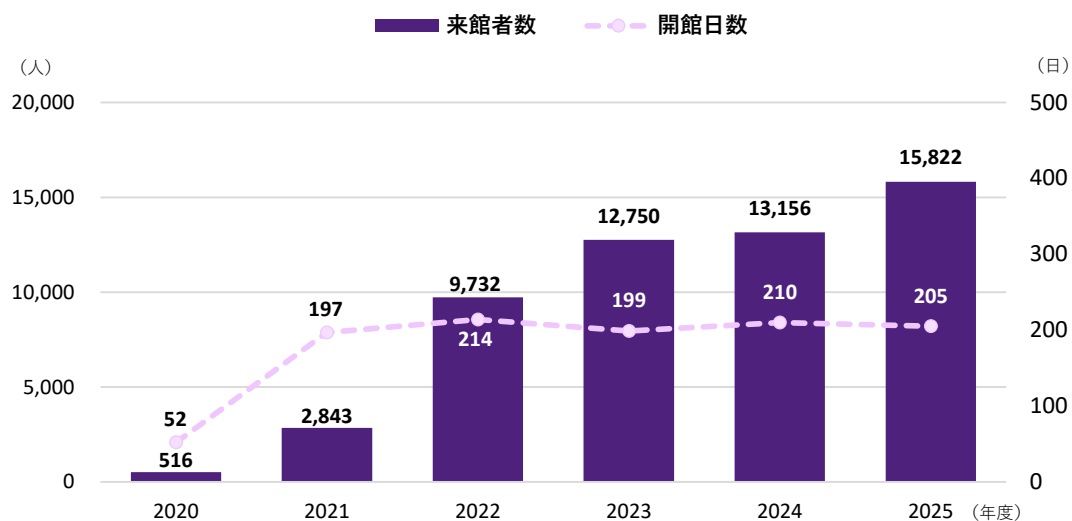
モリス館のツタ

施設別受賞歴

年度	建物	受賞名	主催
1998	池袋キャンパス周辺	豊島区アメニティ形成賞	豊島区
	新座キャンパス（全体）	彩の国景観賞（たてもの・まちなみ部門）	埼玉県
1999	レンガ造建物（6棟）	東京都選定歴史的建造物	東京都
2001	諸聖徒礼拝堂	BELCA（ベルカ）賞 ロングライフ部門	建築・設備維持保全推進協会
2002	立教通り	公共の色彩賞	公共の色彩を考える会
2005	第一食堂	BELCA（ベルカ）賞 ベストリフォーム部門	建築設備維持保全推進協会
2006	11号館	グッドデザイン賞（建築・環境デザイン部門）	日本産業デザイン振興会
		国際照明デザイン賞	北米照明学会
		タイルデザインコンテスト 優秀賞	ダントー株式会社
	新座キャンパス（全体）	グッドデザイン賞（建築・環境デザイン部門）	日本産業デザイン振興会
		彩の国景観賞（たてもの・まちなみ部門）	埼玉県
2007	新座キャンパス（全体）	優秀作品2007 選定	日本建築家協会
2008	新座キャンパス（全体）	作品選集 選定	日本建築学会
2008	太刀川記念交流会館	グッドデザイン賞（建築・環境デザイン部門）	日本産業デザイン振興会
		タイルデザインコンテスト 優秀賞	ダントー株式会社
		優秀作品2008 選定	日本建築家協会
2009	太刀川記念交流会館	作品選集 選定	日本建築学会
		JIA環境建築賞 優秀賞	日本建築家協会
		日事連建築賞 優秀賞	日本建設事務所協会連合会
		日本建築士会連合会賞 優秀賞	日本建築士会連合会
	学院事務棟アネックス	優秀作品2009 選定	日本建築家協会
2010	学院事務棟アネックス	作品選集 選定	日本建築学会
2012	新座キャンパス 4・8号館	JSCA賞（日本建築構造技術者協会賞）	日本建築構造技術者協会
	ロイドホール	省エネ照明デザインアワード受賞	環境省
2013	ロイドホール	グッドデザイン賞 受賞	日本産業デザイン振興会

2.立教学院展示館・旧江戸川乱歩邸

立教学院展示館 年間来館者数・開館日数



TOPICS

立教学院展示館

TOPICS 1

立教学院展示館について

立教学院展示館は、立教の歴史と伝統、教育と研究の取り組みを発信する場として、2014年に開館しました。旧図書館の趣を残した2階の展示スペースでは、貴重資料の展示、タッチパネルディスプレイや映像、写真を通して、立教学院の歴史を分かりやすく学ぶことができます。

TOPICS 2

展示館内の見どころ

建学の精神の理解を深める場

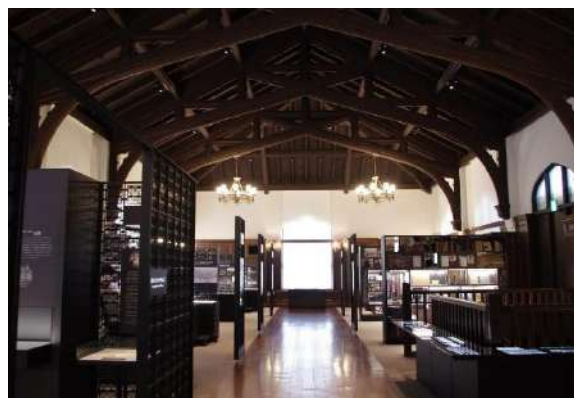
常設展示では、グラフィックパネルや、当時の資料、写真、物品を使い、創立者ウィリアムズ主教や創立当初からこれまでの立教学院の歩みを分かりやすく紹介しております。

自校史学習の場としての活用

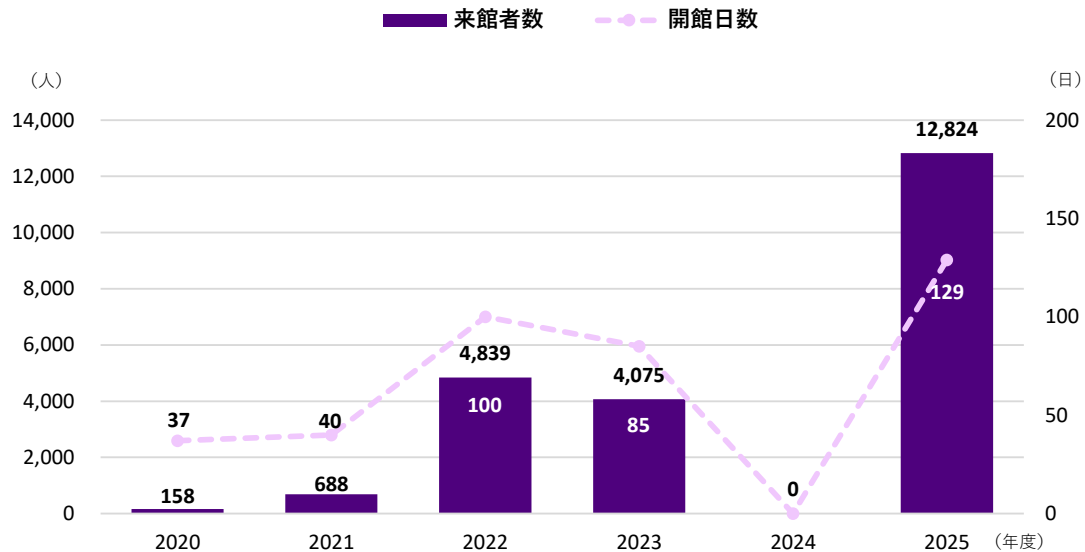
展示館は、立教学院の小・中・高・大の児童・生徒・学生が自校史学習に活用できるよう、子供向けと大人向けのタブレット端末と大型モニターを設置し、分かりやすい自校史コンテンツを用意しております。

デジタルコンテンツ、映像コンテンツが充実

展示物では表現できない情報の発信と、来館者のきめ細かい興味・関心に応じた情報サービス機能の充実を図るため、校地の移り変わりをタッチパネルディスプレイで解説する等、デジタルコンテンツや映像コンテンツを積極的に活用しています。



旧江戸川乱歩邸 年間来館者数・開館日数



※2020年度および2021年度は、COVID-19拡大防止の観点から、状況に応じて臨時休館措置を講じました。

※2024年1月から2025年5月中旬まで、母屋および洋館の改修工事のため臨時休館しました。

TOPICS

旧江戸川乱歩邸

TOPICS 1

旧江戸川乱歩邸の歩み

推理小説作家・江戸川乱歩が、後半生を過ごした邸宅。母屋は1921年、土蔵は1924年築。土蔵のある家を求めている乱歩は、1934年にこの借家へと移り住みます。戦後、奇蹟的に戦火を免れた建物と土地を購入してからは、生活の変化に応じて何度も増改築を繰り返しました。乱歩の没後、ご遺族によって大切に守られてきた建物と旧蔵書などの資料が、乱歩の長男・平井隆太郎氏が本学で教授を務められたご縁から、2002年に立教大学に譲渡されました。

2003年に豊島区指定有形文化財に登録された土蔵は、豊島区の補助を受けて、2004年に保存修復工事が完了。2006年には、江戸川乱歩記念大衆文化研究センターが設立され、資料の整理・保存・研究を進めています。

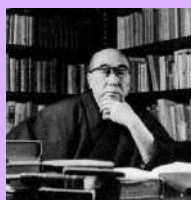
TOPICS 2

ミュージアムとしての再始動

立教学院創立150年記念事業の一環として、2024年度に旧江戸川乱歩邸施設整備事業を実施し、2025年5月18日にミュージアムとしてリニューアルオープンしました。邸内には、応接間や書斎など乱歩が暮らした当時の様子を再現した空間に加え、収蔵資料を通して乱歩の活動や人となりを知ることができる展示室を整備しました。月・水・金の通常開館に加え、月1回程度の週末特別開館を実施しています。また、離れ跡地には収蔵庫を新設し、旧蔵資料の保存環境を整備しました。学内外から多くの来館者が訪れ、江戸川乱歩および所蔵資料に関する研究成果を広く社会へ発信する拠点となっています。

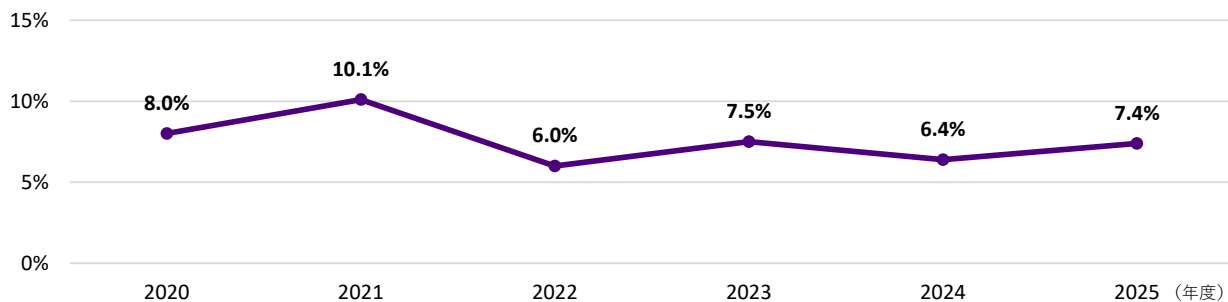
江戸川 乱歩 (1894-1965)

本名・平井太郎。三重県に生まれ、名古屋で育つ。早稲田大学政治経済学科卒業。1923年に「二銭銅貨」でデビュー。代表作に、「人間椅子」「黒蜥蜴」「怪人二十面相」など。

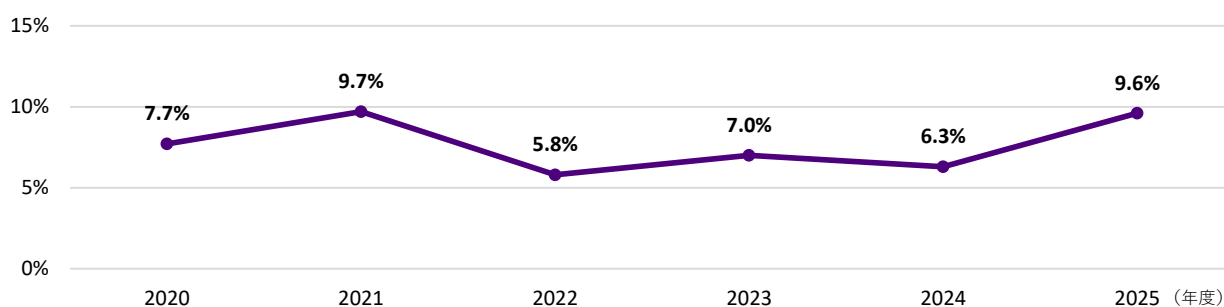


3.財政

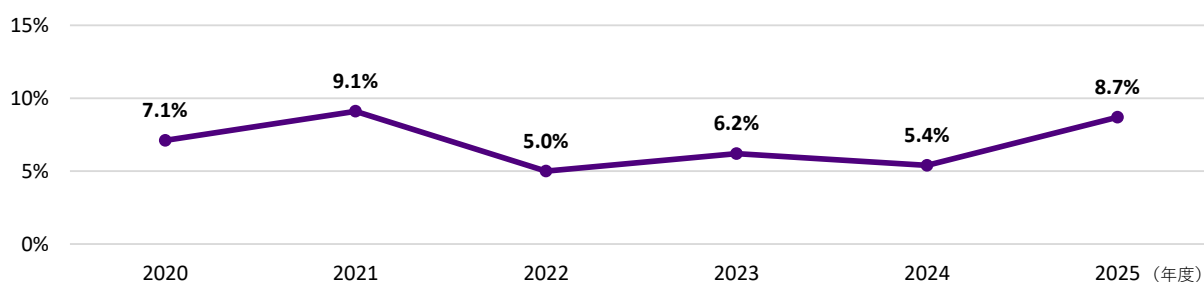
事業活動収支差額比率



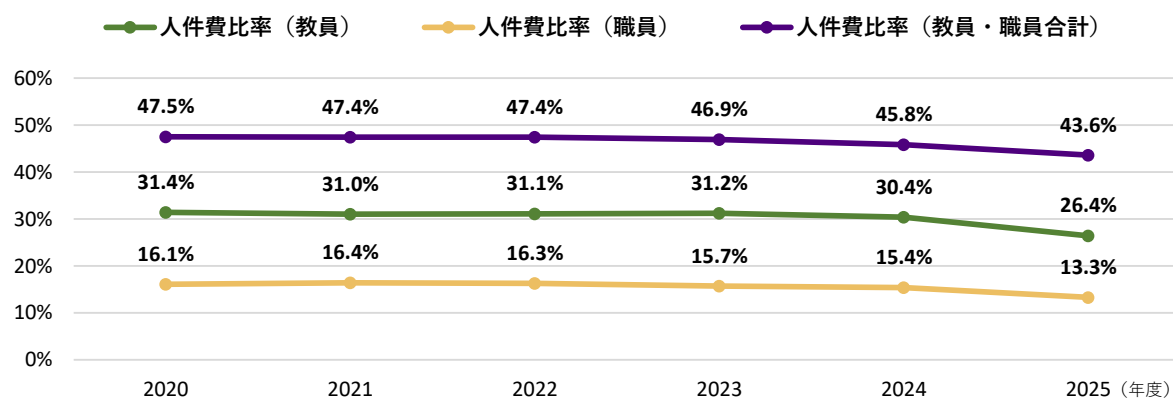
経常収支差額比率



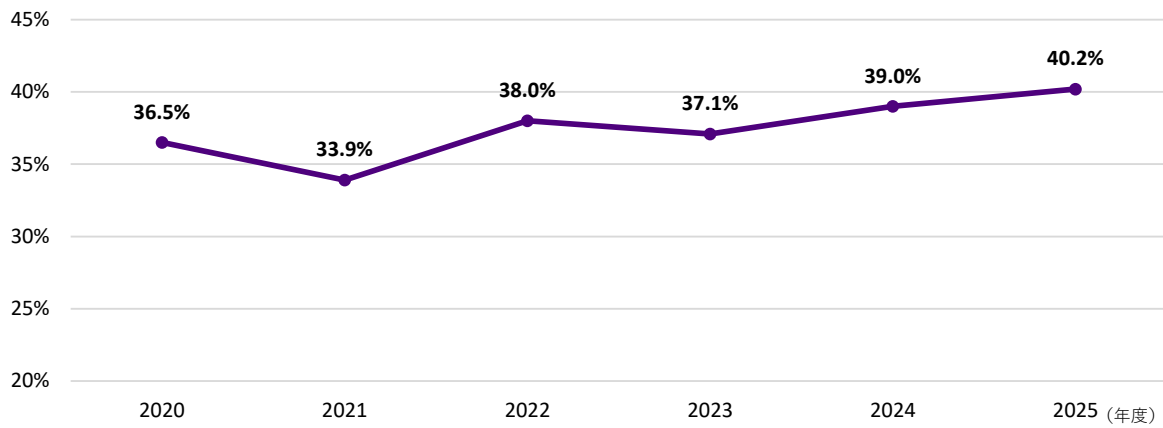
教育活動収支差額比率



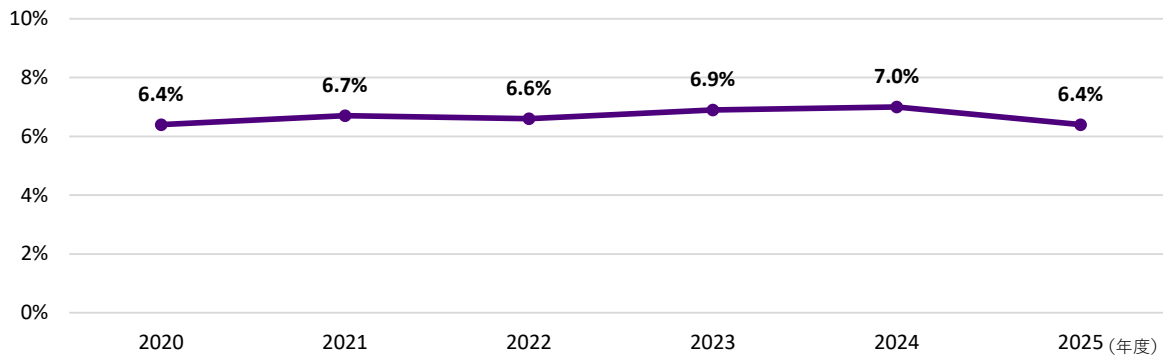
人件費率



教育研究経費比率

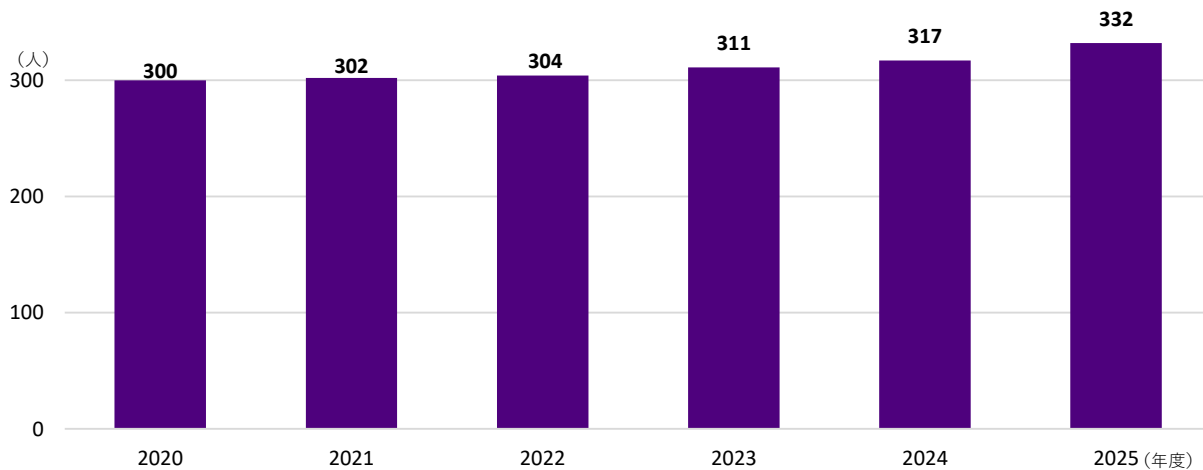


管理経費比率



4. 専任職員数

専任職員数



立教大学の沿革

学校法人立教学院は、1874 年、アメリカ聖公会の宣教師チャニング・ムーア・ウィリアムズ主教によって創立されました。築地に開校した生徒数名の小さな私塾は、今では小学校・中学校・高等学校・大学・大学院・セカンドステージ大学までを擁する国内有数の一貫連携教育校として発展を続けています。また、立教大学は、2022 年に大学認可 100 周年を迎えました。立教大学の歩みを年表で振り返ります。

1874年

ウィリアムズ主教、築地に聖書と英学を教える私塾を数名の生徒で始める。間もなく立教学校と称する。



1883年

外国人居留置37番に完成したゴシック風レンガ校舎に移転。立教大学校と称した。

1907年

専門学校令により、「立教大学」と称する。文科・商科および予科を置いた。



1918年

9月11日、池袋に移転。



1919年

本館、図書館、寄宿舍（現2号館、3号館）、食堂の落成式。池袋キャンパスとしての歩みを開始。

1922年

大学令による大学として認可される。
文学部（英文学科、哲学科、宗教学科、史学科）、商学部および予科を置いた。

1949年

新制大学として認可される。
文学部（基督教学科、英米文学科、社会科、史学科、心理教育学科）、経済学部（経済学科、経営学科）、理学部（数学科、物理学科、化学科）を置いた。

1956年

文学部に日本文学科を設置。

1958年

社会学部（社会学科）を設置（文学部社会学科廃止）。

1959年

法学部（法学科）を設置。

1962年

文学部に心理学科、教育学科を設置（心理教育学科廃止）。

1963年

文学部にフランス文学科、ドイツ文学科を設置。

1964年

社会学部に産業関係学科を設置。

1967年

社会学部に観光学科を設置。

1974年

創立100周年記念式典。

1978年

屋間部総合大学として初めての社会人入試を法学部で開始。

1988年

法学部に国際・比較法学科を設置。

1990年

新座キャンパス開校。



2002年

経済学部会計・ファイナンス学科、理学部に生命理学科、社会学部に現代文化学科を設置。

ビジネスデザイン研究科、21世紀社会デザイン研究科、異文化コミュニケーション研究科開設。江戸川乱歩の邸宅と書庫として使用していた土蔵が、立教大学に譲渡される。



2007年

文学部、経済学部 開設100周年。

法学部 国際・比較法学科を国際ビジネス法学科に名称変更。

2009年

池袋キャンパスにキリスト教学研究科を設置。

2014年

創立140周年。

池袋キャンパスに立教学院展示館を開館。

「スーパーグローバル大学創成支援」に採択。

2017年

Global Liberal Arts Program (GLAP)開設。

2020年

人工知能科学研究科開設。

新英語教育カリキュラムスタート。

2024年

立教学院創立150周年

21世紀社会デザイン研究科を社会デザイン研究科に名称変更。

1996年

法学部に政治学科を設置。

1997年

全学共通カリキュラムスタート。

1998年

新座キャンパスに観光学部（観光学科）、コミュニティ福祉学部（コミュニティ福祉学科）を開設。

2004年

創立130周年。

法務研究科（法科大学院）開設。

2006年

池袋キャンパスに経営学部（経営学科、国際経営学科）、新座キャンパスに現代心理学部（心理学科、映像身体学科）を設置。文学部をキリスト教学科、文学科、教育学科、史学科に改組。経済学部は経済政策学科、社会学部にメディア社会学科、観光学部に交流文化学科、コミュニティ福祉学部は福祉学科、コミュニティ政策学科を設置。

2008年

池袋キャンパスに異文化コミュニケーション学部（異文化コミュニケーション学科）を設置。

コミュニティ福祉学部はスポーツウェルネス学科を設置。

立教セカンドステージ大学開校。

2012年

池袋キャンパスに池袋図書館を開館。

2016年

新しい学びのスタイル「RIKKYO Learning Style」スタート。

2018年

池袋キャンパス100周年。

2023年

コミュニティ福祉学部をコミュニティ政策学科、福祉学科に再編。スポーツウェルネス学部、スポーツウェルネス学研究科を設置

2026年

環境学部開設



立教大学ファクトブック 2026（概要）

立教大学ファクトブックに掲載した様々なデータの概要版として、各項目毎の主要なデータをまとめました。
一目で立教大学の「今」を把握していただけます。

学部所属専任教員数

507 人

開講科目数

6,331 コマ

図書館蔵書数

約 200 万 冊

教育

Education

※データ対象年度：2025 年度

論文発表数

118 位

高被引用論文数

82 位

相対被引用度（CNCI）

9 位

※データ対象年度：2014～2023 年度（資料：Web of Science）

Research

研究

学部 学生数

19,990 人

男子学生：41.8% 女子学生：58.2%

体育会所属学生数

2,699 人

学部 就職率

97.5%

学生

Student

※データ対象年度：2025 年度

国際化

海外協定校数

273 校

外国籍教員数

355 人

グローバル教養
副専攻登録率

99.7 %

※グローバル教養副専攻・・・
グローバルな視点に立った教養人の育成
を目標とした全学部生対象の教育プロ
グラム

International

※データ対象年度：2025 年度

日経 BP ブランドイメージ
調査総合ブランド力
(対象者：学生の父母)

68.6 点

10 位

世界大学ランキング

タイムズ・ハイアー・エデュケーション (THE)

「国際性」スコア
国内私立大学

1 位

Brand Image Ranking

※データ対象年度：2025 年度

広報

志願者

70,194 人

校友数

240,636 人

入試

Entrance Exam

※データ対象年度：2026 年度

Alumni

※データ対象年度：2025 年度

校友

RIKKYO Fact Book 2026

立教大学ファクトブック

ー2020 年度 ～ 2025年度データー

2026 年 10 月 1 日発行

編集・発行 立教学院 企画部企画室

〒171-8501

東京都豊島区西池袋 3-34-1 学院事務棟アネックス 3 階

TEL:03-3985-3265

FAX:03-3985-4861

E-mail : kikaku@rikkyo.ac.jp



立教大学ファクトブック
のWeb版はこちら

RIKKYO Fact Book



立教大学
RIKKYO UNIVERSITY

〒 171-8501

東京都豊島区西池袋 3-34-1

<http://www.rikkyo.ac.jp/>